



- 第二條 神地ハ之ヲ貸與シ又ハ公衆及一個人ノ使用ニ供スヘカラス  
但第二類地ニ限リ特別ノ場合ニ於テハ内務省ヘ經伺ノ上許可スルコトアルヘシ
- 第三條 第一類地及第二類地ハ常ニ清潔ナラシムルヲ要ス
- 第四條 第一類地ハ勿論第二類地内ハ在來ノ外夜燈碑石等新規ニ建設スルヲ禁ス
- 第五條 第一類地第二類地内ニ入ル者ハ左ノ事項ヲ禁ス
  - 一 第一類地一ノ鳥居内ハ儀仗兵及海陸軍隊正式拜禮ノ外銃器ヲ携ヘテ參入スル事  
但憲兵隊所帶ノ拳銃ハ此限ニアラス
  - 二 第一類地内ニ於テ撮影ノ事
  - 三 樹竹ヲ採採シ魚鳥ヲ捕獲シ車馬ヲ乘入ル事
  - 四 放歌又ハ舞踏其他喧囂ノ所爲
  - 五 袒裼裸體ヲ爲ス事
  - 六 不潔物ヲ攜フル事
  - 七 便所外ヘ糞尿ヲ放下スル事
  - 八 前諸項ノ外謹肅ヲ缺クノ所爲
- 本條第三項ハ第三類ニモ適用ス
- 第六條 第四類地ハ各其定リタル目的ノ外之ヲ使用セサルモノトス

明治十二年  
大政官第三  
四部布告第  
以テ地方稅  
ヲメラレ同  
改メテ三年  
律第十二號  
ナリ以テ地  
ヲ廢セラレ

第七條 神地ニ於テ此規定ニ違背スルモノアルトキハ衛士ハ之ヲ制止シ若シ應セサル  
モノアルトキハ警察官ニ退去方ヲ照會スルモノトス

第八條 神地内ニ於テ犯罪者アルトキハ直ニ告發ノ手續ヲナスモノトス

○地所名稱區別 明治七年十一月七日  
大政官第百二十號布告(抄録)  
官有地

- 第一種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス
- 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
- 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ  
官有ニアラサル社地ヲ云

○神宮工事請負ニ關スル規程 明治三十四年四月十二日  
達號外  
神宮工事請負取扱規程、神宮工事請負入札人心得、神宮工事請負人心得及工場取締規則  
左ノ通定ム

神宮工事請負取扱規程  
第一條 神宮ノ工事請負入札並ニ契約ニ關スル事項ハ神宮司廳土木課長ノ擔任トス

第二條 明治二十二年勅令第六十號會計規則第六十九條第七十條ノ保證金額ヲ左ノ通定ム

一 請負入札ノ競争ニ加ハラントスル者ノ保證金額ハ其工事ニ對スル各自見積金額ノ百分ノ五以上

二 請負契約ヲ結ハントスル者ノ保證金額ハ其請負金額ノ百分ノ拾以上

第三條 前條規定ノ保證金ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ神宮司廳ニ納入セシム

第四條 隨意契約ノ場合ニ於テハ大宮司ノ決裁ヲ經テ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第五條 競争入札ノ廣告ハ揭示又ハ官報及ヒ地方ノ新聞紙二種以上ニ掲載ス但事項ノ輕重ニ依リ斟酌スルコトヲ得

第六條 入札並ニ契約手續ハ總テ神宮司廳内ニ於テ行フ

第七條 豫定價格ノ封書ハ入札人ノ請求ニ依リ擔任官ニ於テ理由アリト認メタル場合ノ外ハ開封スヘカラス

第八條 入札人及ヒ請負人ニ關スル取扱方ハ神宮會計規則補則ノ外別ニ之ヲ定ム

附錄 書式

入札廣告

某宮宮域内(或ハ何郡町村番地)建設

何々新築(移轉改築)工事

何々

壹棟

何々

壹ヶ所

、、

、、

此入札保證金ハ各自見積代金百分ノ五以上、契約保證金ハ請負金高百分ノ拾以上(四立未滿ノ端數ハ四立ニ充タシム)

入札者ハ滿二ヶ年以前ヨリ該營業ニ従事スル旨ノ郡市長又ハ町村長ノ證明書及印鑑證明書ヲ差出スヘシ

右工事請負望ノ者ハ神宮司廳土木課ニ就キ入札人心得請負人心得工事圖面仕様書等熟覽ノ上來何月何日午前後何時迄ニ神宮司廳内入札場ニ於テ入札スヘシ

但同日午前後何時同所ニ於テ開札ス

此契約ハ神宮司廳土木課長某擔任ス

年 號 月 日

神宮司廳

明治三十四  
年十月十二  
日達號外ニ  
據リ修正ス

神宮工事請負入札人心得

- 第一條 競争入札ニ加ハラントスル者ハ該工事ノ繪圖面仕様書類並ニ神宮司廳ノ請負人心得ヲ了知セルモノトス
- 第二條 競争入札ニ加ハラントスル者ハ本業ニ滿二ヶ年以前ヨリ引續キ從事セル者ナルコトヲ認ムルニ足ルヘキ郡市長又ハ町村長ノ證明書及印鑑證明書ヲ豫メ入札擔任官ニ提出スルコトヲ要ス
- 第三條 競争入札ニ加ハラントスル者ハ入札保證金トシテ各自見積金額ノ百分ノ五以上ニ相當スル現金又ハ公債證書ヲ神宮司廳ニ提出スルコトヲ要ス但圓位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其端數ヲ圓位ニ充タシム
- 公債證書ヲ入札保證金トシテ納付スルトキハ本人ノ記名又ハ無記名證書トシ記名證書ナルトキハ附録第三號書式ニ依リタル委任狀ヲ添付スヘシ其價格ハ額面ノ二割減トス
- 第四條 前二條ノ規定ヲ履行セサル者ハ入札スルコトヲ得ス
- 第五條 入札書ハ附録第一號書式ニ據リ記載封緘シ表面ニ住所姓名ヲ記シ神宮司廳内入札場ニ備ヘタル入札函ニ投入スヘシ

入札函ニ投入シタル入札書ノ價格ハ増減スルコトヲ得ス

第六條 開札ハ入札人ノ面前ニ於テ執行ス

入札人又ハ其代理人開札ノ場所ニ出頭セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七條 入札書不明瞭ナルトキ若クハ入札條項ニ抵觸スルコトアルトキハ其入札ハ無効タルヘシ

第八條 開札ノ後書損又ハ違算等ノ旨ヲ申立テ訂正ヲ請フモノアルモ一切之ヲ採用セス

第九條 落札ハ豫定價格以下ノモノニシテ入札中ニ於テ最低價格ノモノトス

第十條 落札トナルヘキ同價ノ入札二個以上アルトキハ其同價入札人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ再度ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第十一條 入札ニシテ一モ落札トナルヘキ者ナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ若シ再度ノ入札ニ於テ尙落札トナルヘキ者ナキトキハ當度入札ハ渾テ取消スヘシ

第十二條 落札人落札ノ通達ヲ受ケタルトキハ附録第二號書式ノ承諾書ヲ即日差出スヘシ若シ之ヲ差出ササルトキハ其落札ヲ取消シ入札保證金ヲ沒收ス

第十三條 落札トナリタル請負人ハ前條ノ承諾書ヲ差出シタル日ヨリ五日以内ニ神宮

工事請負人心得ニ據リ請負契約ノ手續ヲ結了スヘシ若シ此手續ヲ履行セサルトキハ其落札ヲ取消シ入札保證金ヲ沒收ス  
第十四條 落札セサル者ノ入札保證金ハ直ニ返付シ落札トナリタル者ノ入札保證金ハ其請負契約手續完結ノ上之ヲ還付スヘシ

附錄第一號書式

入札書

某宮宮域内(或ハ何郡町村番地)御建設

何々工事 何ヶ所

内

何々 壹棟

何々

周圍竹柵何々 延長何間

但御指示ノ圖面及仕様書ノ通

此代金何千何百何圓也

右代金ヲ以テ工事一式(或ハ工手間)請負可仕候御應ノ入札人心得ヲ遵守シ御應ノ請負

人心得熟知ノ上入札仕候也

何縣郡市町村番地

年 號 月 日

何 之 誰 印

神 宮 司 應 御 中

附錄第二號書式

承諾書

某宮宮域内(或ハ何郡町村番地)御建設

何々工事 何ヶ所

内

何々 壹棟

何々

何々

但御指示ノ圖面及仕様書ノ通

此請負代金何千何百何圓也

右工事請負致入札候處前書ノ金額低價ニ付私ヲ落札者ト定メラレ候旨御通達ニ付テハ



交付スルニアラサレハ成立セサルモノトス

第六條 請負人ハ請負契約ヲ爲シタル後違算見積違物價騰貴其他神宮司應ノ過失ニアラサル原因ヲ理由トシテ請負契約ノ變更又ハ解除ヲ申請スルコトヲ得ス但事情止ヲ得サルモノト認ムルトキハ請負金額ノ拾分ノ貳以下ヲ限リ神宮司應ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ上納セシメテ請負契約ヲ變更若クハ解除スルコトアルヘシ  
請負契約解除ノ場合ニ於テハ既ニ使用シタル物品ノ代價及工手間賃等ハ原價ノ如何ニ拘ハラズ神宮司應ニ於テ相當ト認ムル金額ヲ下付スヘシ

第七條 請負人ノ違約ニ依リテ神宮司應カ請負契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ヲ沒收シ既ニ使用シタル物品ノ代價及工手間賃等ハ前條第二項ニ依リテ處分スヘシ

第八條 總テ工事ニ使用スヘキ材料ハ神宮司應係員ノ檢査ヲ受ケ其認可ヲ得ルニアラサレハ使用スヘカラス

第九條 請負人ニ於テ前條ノ認可ヲ得サル材料ヲ使用シタルトキハ其取換ヲ命スルコトアルヘシ但請負期日ノ延期又ハ損害賠償等ノ請求ヲ許サス

第十條 材料ノ内臨時ニ現品ヲ下渡スコトアルトキハ左ノ各項ニ依リ其代價ヲ請負金額ノ内ヨリ控除スヘシ

一 代價ハ積書ノ内譯ニ照シ査定ス若シ不分明ノ廉アルトキハ請負人ノ請求ニ拘ハ

ラス神宮司應ノ見込ヲ以テ其金額ヲ定ム

二 控除ノ金額ハ請負金額ノ三割ヲ超エス

第十一條 繪圖面及ヒ仕様書ニ明記ナキ箇所ノ仕様方ハ前以テ正寸繪圖、細繪圖、見本、口頭等便宜ニ依リテ神宮司應掛員ノ指揮或ハ認可ヲ得テ取計フヘシ

第十二條 繪圖面若クハ仕様書ニ相違シ又ハ前條ノ手續ヲ經スシテ實行シ其他工事上不都合ノ所爲アルトキハ幾度タリトモ其仕直シヲ命スヘク尙其上不充分ノ廉アルトキハ神宮司應ノ見込ヲ以テ請負金額ノ幾割ヲ減殺セシムルコトアルヘシ但本條ノ場合ニ於テ工事成成ノ期限ヲ妨クルコトヲ得ス

第十三條 工事中都合ニ依リ模様替或ハ建坪ノ増減等アルトキハ積書ノ内譯ニ照シ且左ノ各項ニ依リ請負金額ノ増減ヲ爲スヘシ

一 見積書ノ内譯ニ照シ不分明ノ廉アルトキハ請負人ノ請求ニ拘ハラズ神宮司應ノ見込ヲ以テ其金額ヲ定ム

二 金額ノ増減ハ請負金額ノ三割ヲ超エス

第十四條 請負人ハ豫メ日々ノ工事時間ヲ定メテ神宮司應ニ届出ヘシ  
夜業ヲ爲サントスルトキハ豫メ神宮司應ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十五條 請負人ハ工事時間中工事場へ出張スヘシ

請負人ニ於テ工事場へ出張シ難キ事情アルトキハ豫メ神宮司應ノ認可ヲ經タル者一名ヲシテ代理セシムヘシ

第十六條 請負人ハ神宮司應ニ於テ別ニ定メタル工事場取締規則及ヒ工事取締ニ關シ神宮司應ヨリ指示スル事項ヲ遵守シ且其使用人一般ニ遵守セシムヘシ

第十七條 工事ニ使用スル者ノ内神宮司應ニ於テ不都合又ハ不適當ト認メタル者ハ請負人ニ於テ引續キ該工事ニ使用スルコトヲ許サス

第十八條 請負期限内ニ工事落成セサル時ハ日限後竣工ニ至ルマテノ間五日毎ニ請負金額百分ノ壹ニ相當スル金額ヲ違約金トシテ賠償スヘシ

第十九條 工事落成ノ上ハ跡片付掃除等ヲ爲シ神宮司應掛員ノ検査ヲ受ケ引繼ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 請負代金ハ工事落成受渡ノ手續了ノ上拂渡スヘシ但工事落成前ト雖モ請負人ノ請求ニ依リ工事出來高及ヒ拂込検査濟材料等ニシテ請負全部ノ三割以上ニ達スル毎ニ其實蹟ノ八割以内ノ金額ヲ總テ神宮司應ノ見込ヲ以テ算定ノ上假渡シスルコトアルヘシ

第二十一條 工事中ハ勿論工事落成後ト雖モ受渡手續未了ノ間ニ生シタル盜難燒失流亡其他ノ損害ハ總テ請負人ノ負擔タルヘシ

第二十二條 左ノ各項ノ場合ニ於テハ請負人自費ヲ以テ直ニ修繕スヘシ若シ請負人カ之ニ應セサルトキハ神宮司應ニ於テ修繕シ其費用及損害ヲ賠償セシム

一 材料ノ不良、寸法ノ相違、工事ノ粗悪其他契約違反ニ原因シ受渡後十八ヶ月内ニ

二 建築物狂ヒテ生シ金物、壁ノ破損、雨漏等ヲ生シタルトキ  
合ヲ生シタルトキ

前項ノ原因ニシテ請負人ノ甚シキ過失ニ因ルモノト認メタルトキハ期限後ニ生シタル事實ニ對シテモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 請負人ニ於テ違約シタルトキ及ヒ請負人到底約定期限内ニ工事ヲ落成セシメ得スト認メタルトキハ神宮司應ハ其工事ヲ中止シ又ハ請負契約ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其工事ヲ中止シ損害ハ總テ請負人ノ負擔タルヘク契約保證金ハ之ヲ沒收ス但中止及ヒ解除ハ神宮司應ヨリ請負人ニ通知シタル時ヲ以テ有効トス

第二十四條 請負人ヨリ神宮司應へ支拂フヘキ金員アリテ其支拂ヲ爲ササルトキハ神宮司應ハ契約保證金ヲ以テ其支拂ニ充テ請負人ヲシテ契約保證金ノ補充ヲ爲サシムヘシ



請負人ヨリ神宮司廳へ支拂フヘキ金員契約保證金ノ價格ニ超過スヘシト認メタルト  
キハ其超過額ノ支拂及ヒ契約保證金ノ後繼充備ヲ爲サシムヘシ  
前二項請負人ニ於テ神宮司廳ノ催促ニ應セサルトキハ請負契約ヲ解除シ其損害ヲ賠  
償セシム

第二十五條 天災地變戰爭等已ムヲ得サル事故ニヨリ工事落成期限ニ差支ヲ生シタル  
トキハ相當ノ猶豫ヲ與フヘシ但其事故ノ採否及ヒ猶豫日數ハ神宮司廳ノ見込ニ依ル  
ヘシ

第二十六條 請負人ハ日々工事ノ進行ヲ監視シ三十日ヲ經ル毎ニ功程表ヲ調製シテ神  
宮司廳ノ掛員ニ差出スヘシ

第二十七條 請負人ハ神宮司廳ノ承認ヲ得テ其請負工事ノ幾部ヲ更ニ他人ニ請負ハン  
ムルコトヲ得ヘシト雖モ神宮司廳ニ對スル責任ハ分割スルコトヲ得サルモノトス

附錄第一號書式

工事一式請負契約證書

某宮宮域内(或ハ何郡町村番地)御建設  
一何々新築工事

何々

壹棟

、、

壹ヶ所

延長何間

此工事請負代金總額何圓也

此請負契約保證金何圓也

此工事落成期日何年何月何日限

右工事一式請負命セラレ正ニ御請仕候就テハ御廳ノ請負人心得書繪圖面仕様書等ヲ遵  
守シ誠實ヲ旨トシ前掲期限即チ何年何月何日迄ニ相違ナク竣工セシメ可引渡萬一右期  
限ニ引渡ササルトキハ其引渡ニ至ルマテノ間五日毎ニ請負代金總額ノ壹百分ノ壹ニ相  
當スル金額ヲ違約金トシテ御廳ヘ相納メ可申依テ前記契約保證金ヲ差入レ保證人連署  
仕候若シ請負人ニ於テ御廳ヘ納金ヲ爲サヌ又ハ不都合ノ所爲アルトキハ契約保證金ハ  
御廳ノ御勝手タルヘシ尙保證人ハ請負本人ト連帶責任ヲ負擔可致候爲後日証書如件

住所

年 號 月 日

住所

請負人

何 之 誰 印

神宮司應御中

附錄第二號書式

委任狀

一 何々公債證書額面何圓也

記號 番號 何通

右賣却ニ關スル一切ノ權限ヲ神宮司應ニ委任候也

住所

年 號 月 日

何之誰印

住所

保證人

何之誰印

保證人

何之誰印

工場取締規則

第一條 請負人ハ日々工場ニ臨ミ工事ノ指揮監督ヲ爲スヘシ

第二條 請負人ヲ始メ工場ニ出入スル者ハ總テ神宮司應掛員ノ指揮ニ從フヘシ

第三條 神宮司應掛員ニ於テ不適當ト認メ退場ヲ命シタル者ハ請負人ニ於テ直ニ之ヲ

工場外ニ退去セシムヘシ

第四條 工事時間中ハ妄リニ雜談スヘカラス

第五條 喫烟食事等ハ一定ノ場所ニ於テ行フノ外之ヲ許サス

第六條 工場ニ出入スル者ハ一般ニ火元及ヒ清潔方ニ注意スヘシ

第七條 請負人ハ工事時間外晝夜ニ拘ハラズ一名若クハ數名ノ番人ヲ置キ工場ヲ監守

セシムヘシ

第八條 鉋屑切屑等燃焼シ易キモノノ類ハ日々場外ニ運搬シ又ハ防壁ノ設ケアル箇所

ニ取片付ヲ爲スヲ要ス

第九條 工場ニ出入スル者ノ氏名ハ日々現場ニ於テ請負人之ヲ帳簿ニ記載シ何時タリ

トモ明カニ現員ヲ知り得ルノ便ニ具フヘシ

第十條 請負人ニ於テ代人ヲ差出シ又ハ其使用人ノ異同アルトキハ直ニ現場ニ於テ神

宮司應掛員ヘ届出其承認ヲ受クヘシ

第十一條 本則ニ明文ナキ事柄ト雖モ工事ノ進行ニ障害アルカ又ハ工場ノ取締上不都

合ト認ムルモノハ總テ嚴禁スヘシ

○遺失物法 明治三十二年三月二十三日

法律第八十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル遺失物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニアラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス

賣却處分ニ對シテハ出訴スルコトヲ得ス

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

定ヲ適用ス

第四條 物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條 第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過クルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得

法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條 第十六條ニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ

第十一條 第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利並ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條 管守者アル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船車建築物等ノ占有者ヲ以テ拾得者トス自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦同シ

本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ

第十一條 犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇年間還付ヲ受クル者ナキトキニ限り拾得者ニ於テ所有權ヲ取得ス

犯罪捜査ノ爲必要ナルトキハ警察官ニ於テ公訴權消滅ノ日マテ公告ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條 誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逸走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費

用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 埋藏物ニ關シテハ第十條ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ準用ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其ノ所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ

埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 本法及民法第二百四十條第二百四十一條ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ一箇年内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條 本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受クル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條 拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ隠匿シ若ハ不正ニ處分シタル者ハ三月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ルトキハ之ヲ論セス  
附則

第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

○遺失物取扱ニ關スル件 明治三十三年十月二十五日丁第一四九號  
神宮司廳庶務課通知

遺失物取扱ニ關シ今般左ノ通決定セラル

遺失物法第十條一項ニ該當スル地區

- 一 兩宮御板垣内
  - 二 兩宮古殿地御繩張内
  - 三 御垣ヲ圍繞セサル殿舎内其他建設物
- 同法條ニ該當セサル地區
- 一 神苑地
  - 二 山林
  - 三 宮地内

○拾得物取扱ニ關スル件 明治三十三年五月九日警甲第一〇號内  
内務次官通牒

遺失物法第十條ニ依リ官廳ニ屬スル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ拾得シタル物件ニシテ國庫ノ所有ニ歸スル場合ハ其ノ拾得届ヲ受ケタル警察官署ニ於テ現金ハ直ニ收入シ物品ハ賣却ノ上收入シ特別會計ニ屬スル官廳カ拾得者タル場合ハ現金物品トモ其ノ官廳ニ引繼クコトニ各省協議濟ニ付依命此ノ段及通牒候也

### 第八類

#### 衛士

明治三十三年三月三十日勅令第九一號同年九月二十六日勅令第三七七號ニ據リ修正ス

○神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件 明治三十一年八月十二日勅令第百八十九號  
朕神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 神宮ニ左ノ職員ヲ置キ神宮警衛ノ事ヲ掌ラシム  
衛士長 一人  
衛士副長 二人  
衛士 四十人

第二條 衛士長ハ大宮司ノ命ヲ承ケ部下ノ職員ヲ監督シ警衛事務ヲ掌理ス

第三條 衛士副長ハ衛士長ヲ佐ケ衛士長故障アルトキハ上席ノ衛士副長其ノ職務ヲ代理ス

第四條 衛士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警衛ニ従事ス

第五條 衛士長衛士副長及衛士ハ判任官ノ待遇トス

第六條 衛士長衛士副長及衛士ノ俸給、服制其ノ他服務ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 明治二十七年勅令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

神宮衛士長衛士副長衛士ニ關スル件

○衛士長衛士副長衛士俸給等ニ關スル件 明治三十三年三月三十一日  
内務省訓第三五一號

神宮司應

明治三十一年八月訓第七一六號衛士長衛士副長衛士俸給等ニ關スル件左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

第一條 衛士長衛士副長及衛士ノ月俸ハ左表ニ依ル

	一給俸	二給俸	三給俸	四給俸	五給俸	六給俸	七給俸	八給俸
衛士長	參拾五圓	參拾圓	貳拾五圓					
衛士副長	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓					
衛士	拾五圓	拾四圓	拾參圓	拾貳圓	拾壹圓	拾圓	九圓	八圓

第二條 衛士長衛士副長及衛士ノ月俸ハ神宮費ヨリ之ヲ支出ス

第三條

○衛士長衛士副長衛士服裝規則 明治三十一年八月十三日  
内務省訓第七一七號

神宮司應

衛士長衛士副長衛士服裝規則左之通相定ム

衛士長衛士副長衛士服裝規則

- 第一條 服裝トハ帽衣袴劍手套及下襟ヲ着裝スルヲ云フ
- 第二條 服裝ハ甲種衣ニ肩章ヲ着クルヲ正裝トシ其他ヲ常裝トス
- 第三條 正裝ヲ着用スヘキ場合概テ左ノ如シ
  - 一 大祭并公式ノ祭祀
  - 一 新年及三大節參賀
  - 一 一般大禮服着用ノ場合
  - 一 成規上明文アル場合
  - 一 宮司ノ命令アリタルトキ

第四條 常裝ハ平常勤務ノ際用ユル所ノ服裝トス

第五條 乙種ノ衣袴ハ六月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ用ユルモノトス

第六條 甲種外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲ニ用ユルモノトス

乙種外套ハ雨雪ノ際甲種外套ノ上ニ用ユルモノトス但シ時宜ニ依リ乙種外套ノミヲ用ユルモ妨ナシ

- 第七條 外套ハ儀式祭典ノ場所及上官ノ室内ニ在テハ用ユルコトヲ得ス
- 第八條 覆面ハ雨雪ノ際甲種外套又ハ乙種外套ニ附着シテ用ユルモノトス
- 第九條 日覆ハ乙種衣ヲ着ケタル場合ニ限り之ヲ用ユルコトヲ得
- 第十條 手套及下襟ハ何レノ服装ニ在テモ白色トシ且下襟ハ立襟ヲ用ユルモノトス但境内山林御鹽殿等巡視ノ際ニ於テハ手套及下襟ヲ畧スルコトヲ得
- 第十一條 靴ハ長短ノ二種トシ黒色革製トス  
長靴ハ雨雪泥濘ノトキ短靴ハ其他ノ場合ニ於テ用ユルモノトス但シ境内山林御鹽殿等巡視ノ際ニ於テハ鞋脚絆ヲ以テ靴ニ代用スルコトヲ得
- 第十二條 儀式上隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各自齊一ノ服装ヲ爲スヘシ
- 第十三條 外套ヲ携帯スル者ハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲收シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

○衛士長衛士副長衛士服制提燈徽章  
明治三十一年八月十三日  
 内務省訓第七二〇號

神宮司廳

衛士長衛士副長衛士服制並提燈徽章左ノ通相定ム  
 服制

甲種		帽									
袖章	襟章	釦	地質	形狀	製式	頤紐	眼庇	前章	橫章	地質	
全小線幅二分二條	金線平打大線幅五分一條 全小線幅二分二條	金線平打四分一條全小線二分二條	黒又ハ紺絨	如圖	下部高サ凡二寸	黒革幅三分 釦金色櫻花章	革 <small>赤黒 青黄</small>	菊細紋徑八分葉ヲ以テ周圍ヲ纏メ 全徑一寸四分全部金色	金線五分一條二分三條	黒絨	衛士長
全上但小線一條	全上但小線一條	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	金線五分二條二分三條	全上	衛士副長
全小線幅二分一條	銀線平打大線幅五分一條 全小線幅二分一條	全上但銀色	全上	全上	全上	全上但釦銀色	全上	全上	銀線二分三條	全上	衛士

衛士長衛士副長衛士服制提燈徽章

二〇三



衣											
甲種						乙種					
形状	製式	側章	地質	形状	製式	袖章	襟章	釦	地質	形状	製式
如圖	普通	白絨五分二條	黒又ハ紺絨	如圖	甲種ニ同シ	甲種ニ同シ 但白平打組絲	甲種ニ同シ 但白平打組絲	甲種ニ同シ 但銀色	白リンチル	如圖	フロックコート製 行後面左右各二個ヲ附ス
全	全	白絨八分一條	全	全	全	全	全	全	全	全	全
上	上		上	上	上	上	上	上	上	上	上
全	全		全	全	全	全	全	全	白雲齋	全	全上但胸釦五個ニ行火ケ手ヲ 垂レ中指手巾ニ至ルヲ度トス
上	上		上	上	上	上	上	上		上	

甲種外套											
乙種						甲種					
形状	製式	釦	地質	形状	製式	袖章	釦	地質	形状	製式	地質
如圖	襟幅二寸長サ前面襟下ヨリ 一尺六寸背面一尺八寸二分	胸部三箇ヲ附ス	黒又ハ紺絨	如圖	長サ靴踵ノ上際ヲ距ルコト約八寸襟 幅二寸袖長サ腕關節ヨリ上ルコト五 分物入前面左右各々一個ヲ附ス	金線一分二條	金色圓形内ニ櫻花章ヲ附ス徑七分五 厘胸部三箇側部六個收紐二個ヲ附ス	黒又ハ紺絨(裏緋品質適宜)	如圖	普通	白リンチル
全	全	全	全	全	全	金線一分一條	全	全	全	全	全
上	上	上	上	上	上		上	上	上	上	上
全	全	全	全	全	全	銀線一分一條	全上但銀色	全上(裏黒品質適宜)	全	全	白雲齋
上	上	上	上	上	上				上	上	

		劍				肩章			日覆		地質
形狀	鞘	柄	鐔	中身	形狀	製式	金具	品質	形狀	製式	地質
如圖	磨鉄長サ一尺	白鍍絲金線三條背面ヲ覆フタル金具ハ金色地石目櫻花ヲ置ク長サ三寸五分	金色無地	日本刀	如圖	鎖狀組トシ長サ凡五寸	金色櫻花章三個徑各五分	丸打金色絲線徑二分五厘	如圖	帽ノ形ニ從ヒ上部ノミヲ覆フ	白金巾
全	全	全	全	全	全	全	全上但櫻花章二個	全	全	全	全
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
全	全	白鍍絲鐵線三條背面ヲ覆フタル金具ハ磨鉄地石目櫻花ヲ置ク長サ全上	磨鉄無地	全	全	全	銀色櫻花章一個徑五分	全上但銀色	全	全	全
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

		劍帶				提燈	
形狀	製式	金具	品質	裏	表	裏	表
如圖	長サ適宜釣革六寸五分金具總テ金色	金色徑二寸四分中央櫻花章	裏表 黑革 赤革	裏 青革	表 全上	裏 青革	表 全上
全	全	全	全	全	全	全	全
上	上	上	上	上	上	上	上
全	全	全上但銀色	黑象牙	全	全上但銀色	全	全上但銀色
上	上	上	上	上	上	上	上

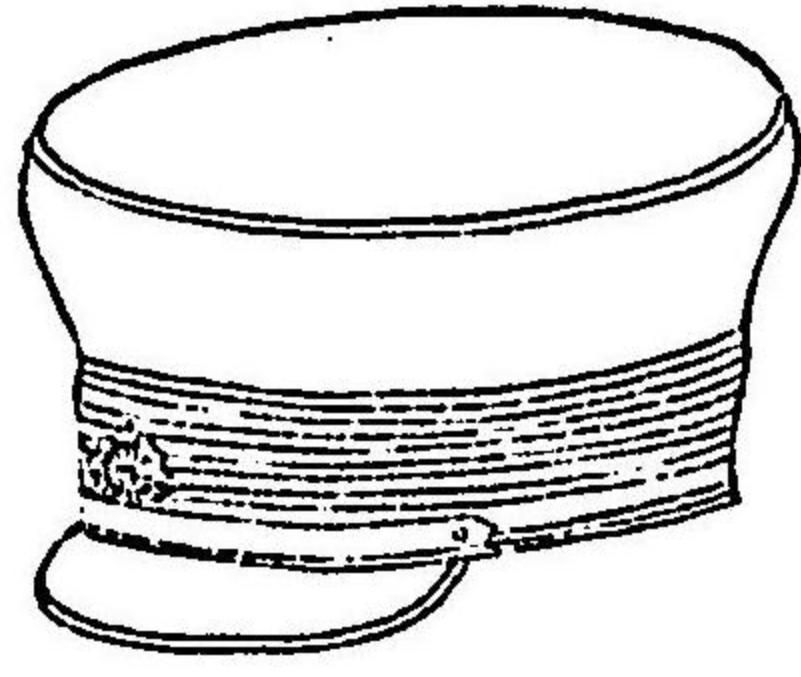
附則

宮司ハ明治三十一年九月三十日迄ヲ限リ衛士長衛士副長及衛士ヲシテ適宜ノ服裝ヲ爲サシムルコトヲ得

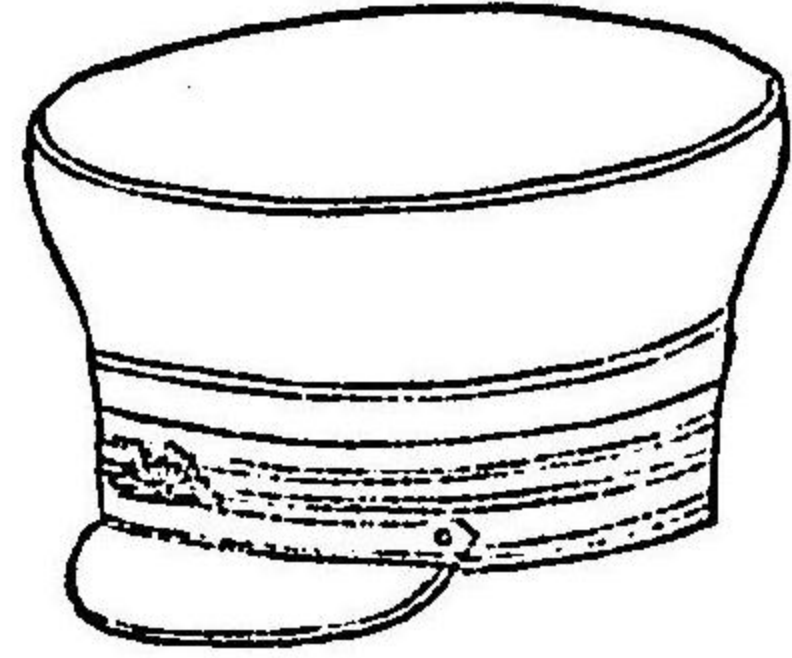
衛士長衛士副長衛士制服提燈徽章

帽

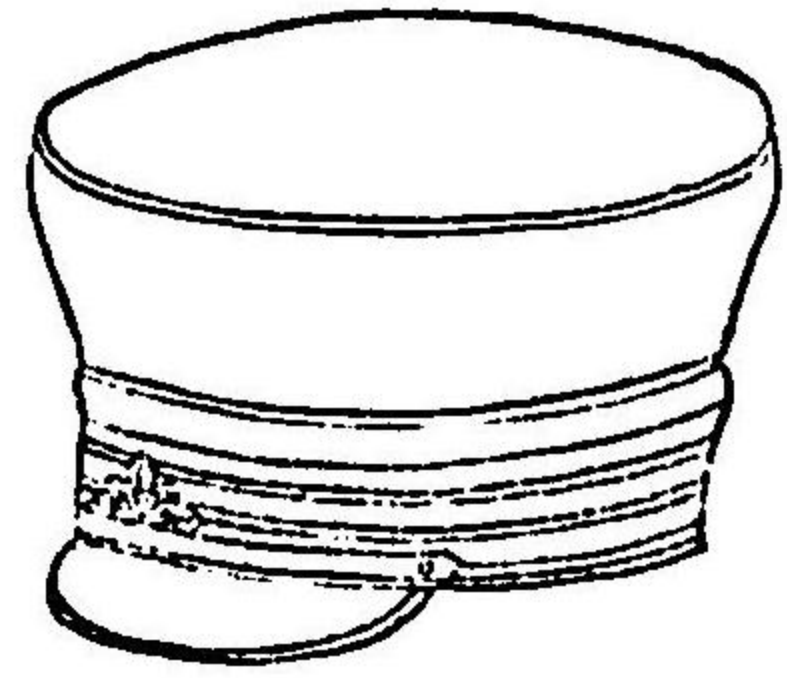
衛士長



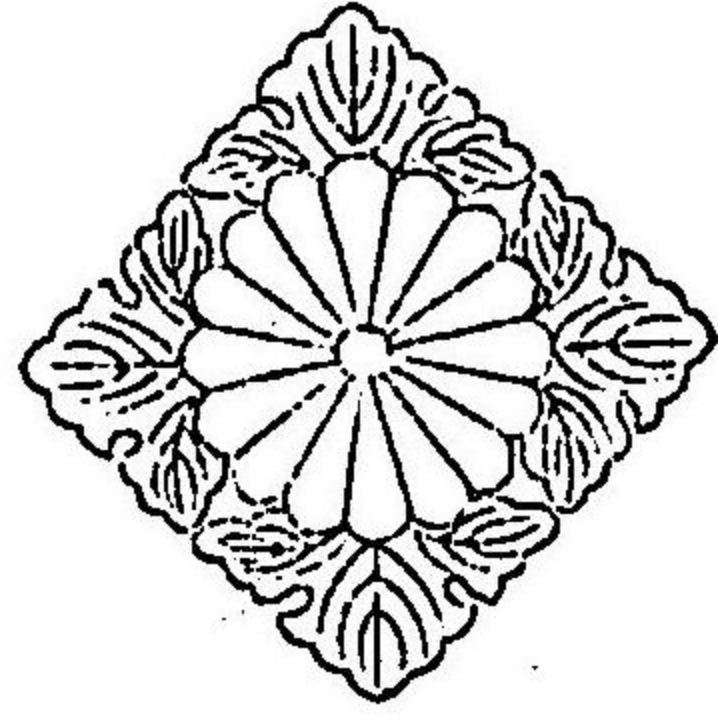
衛士副長



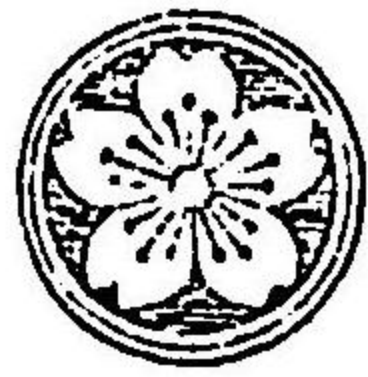
衛士



前章

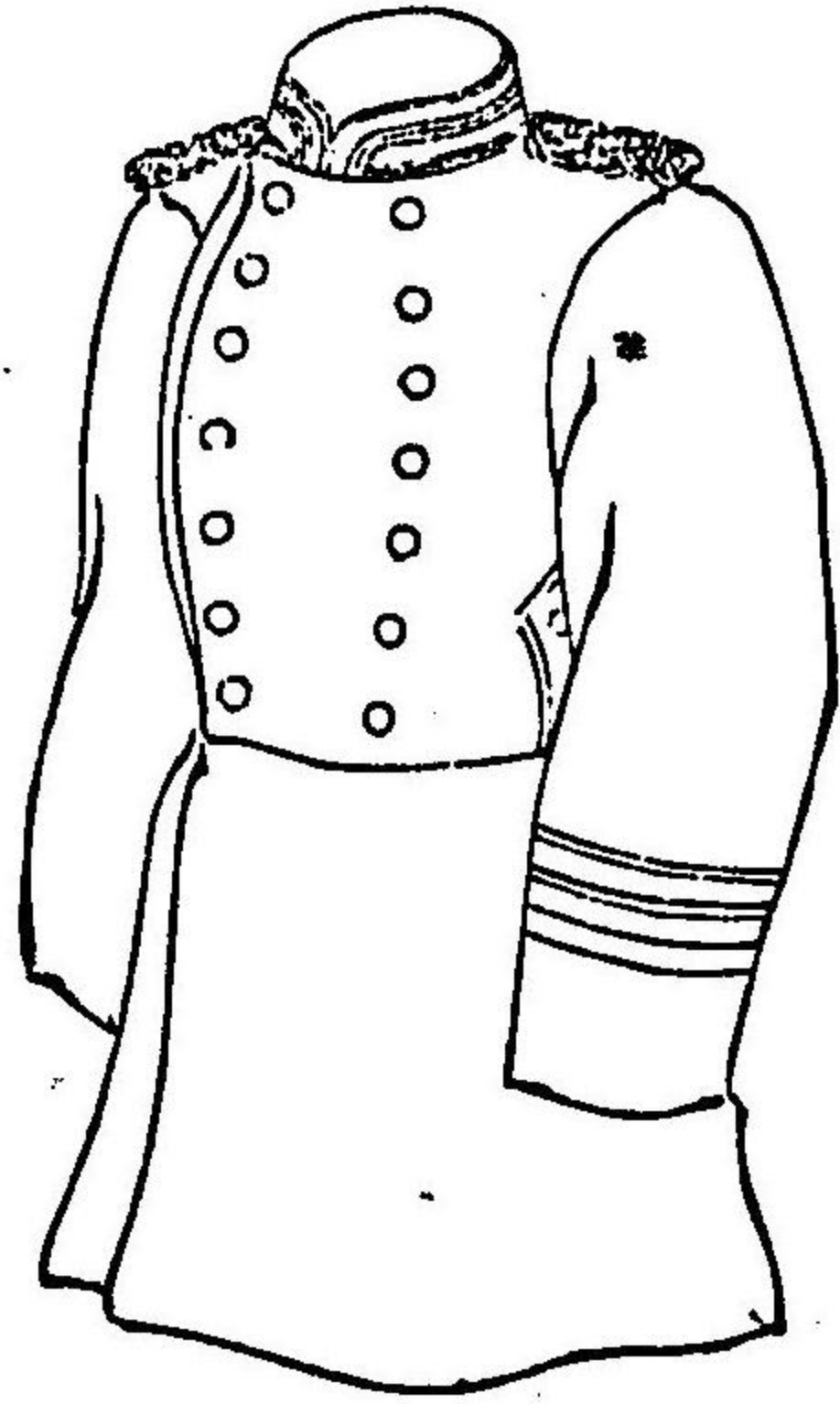


順鈕

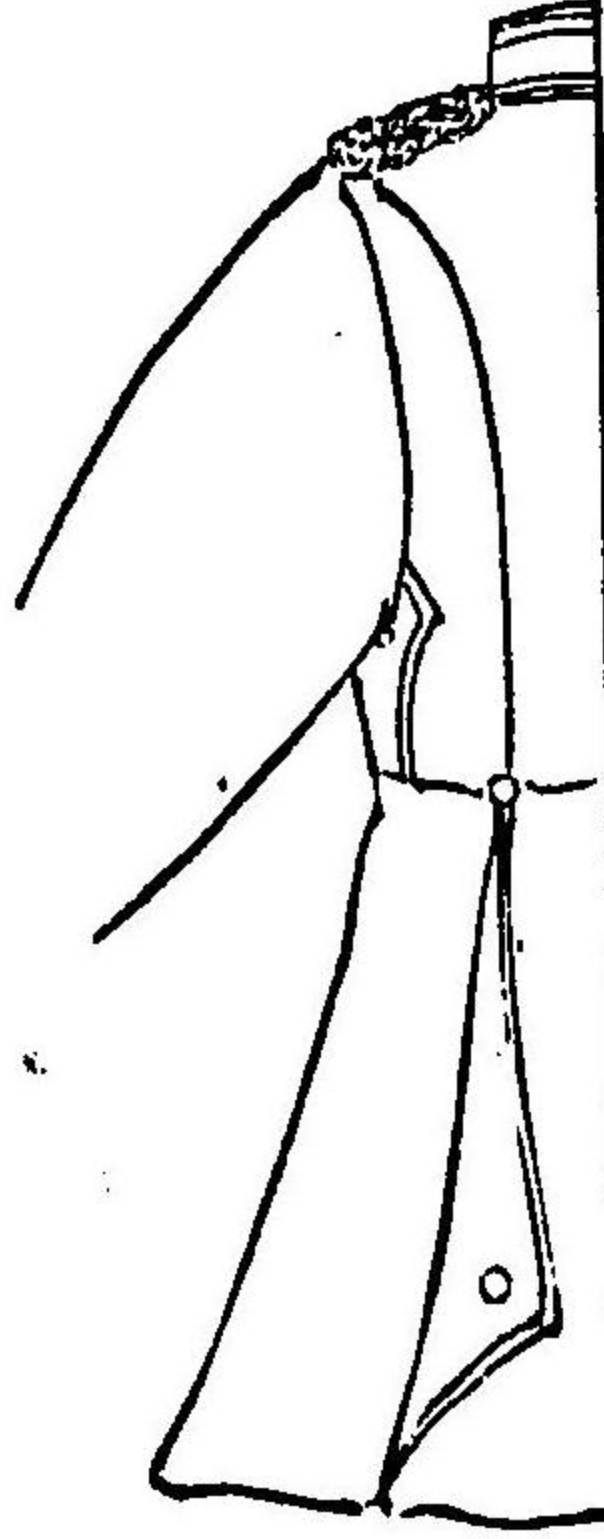
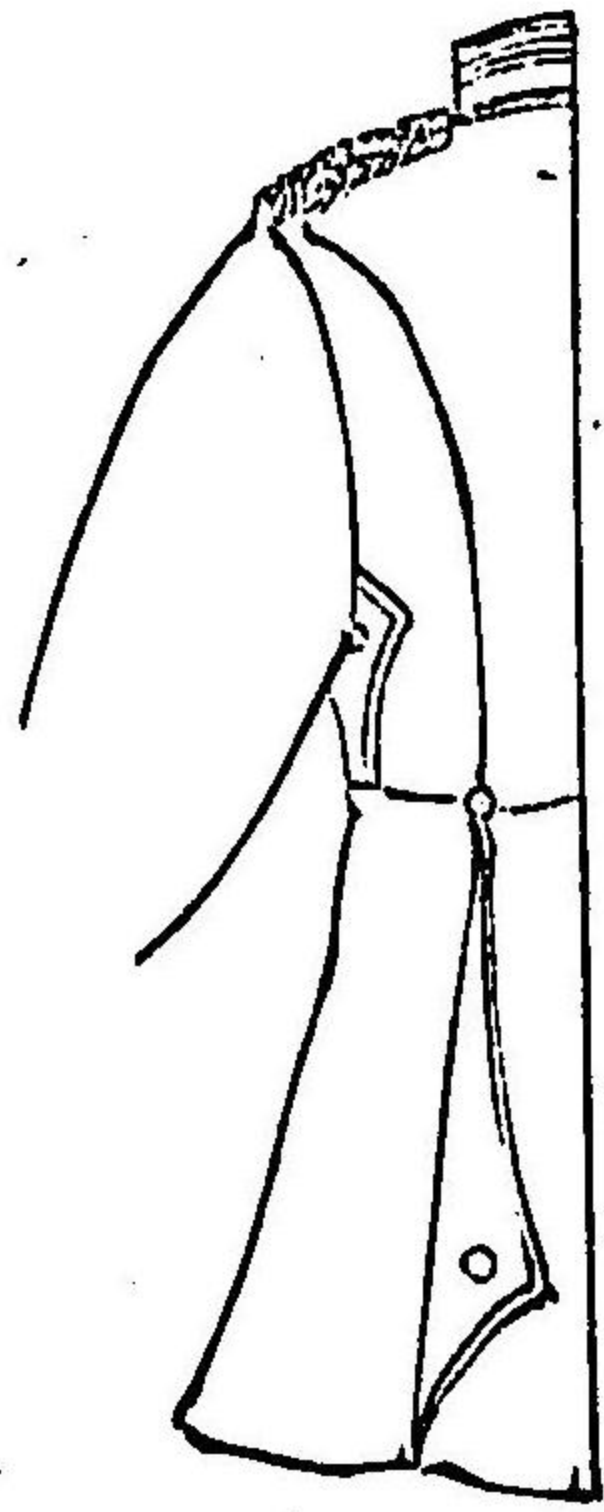
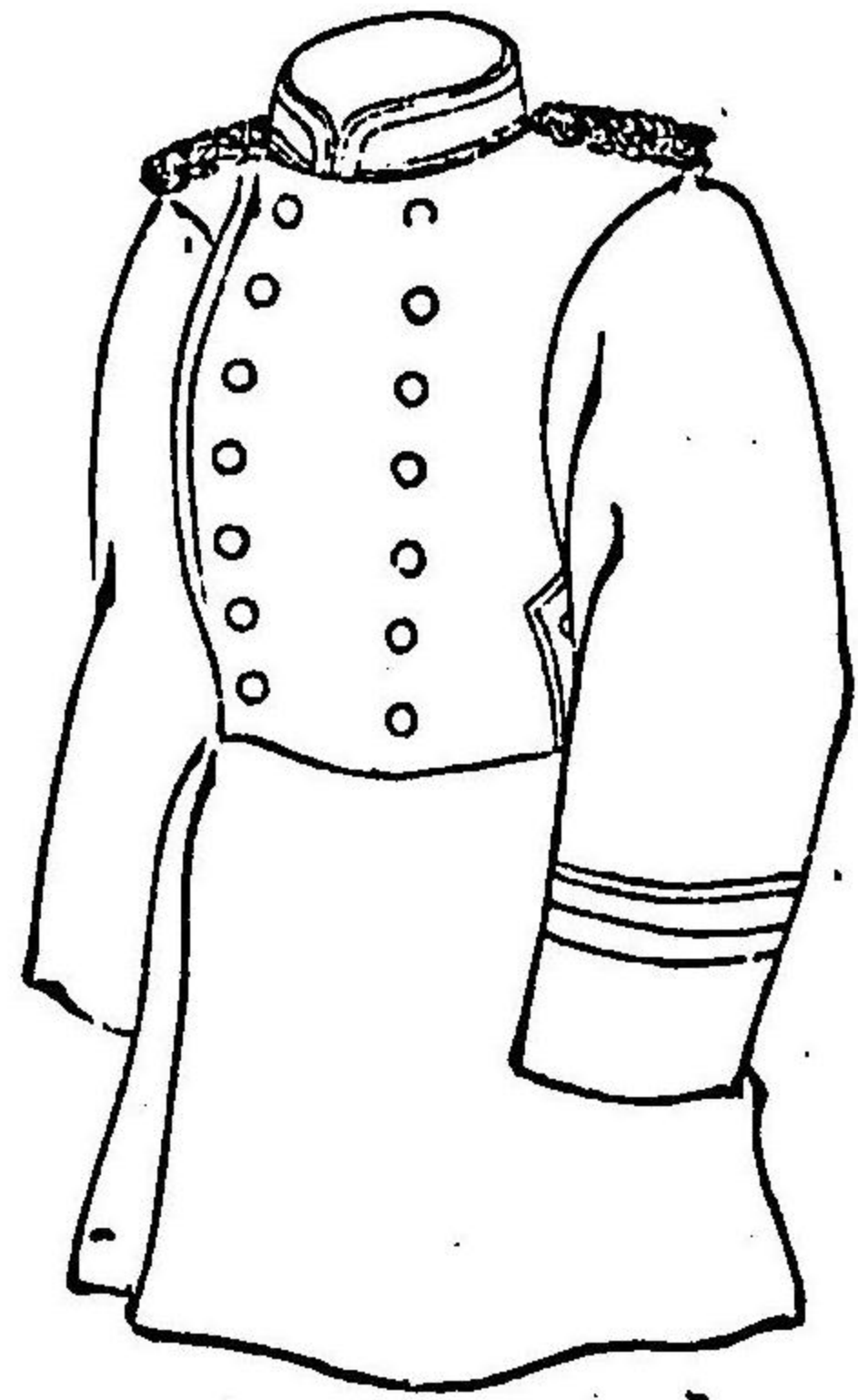


衣 前 面 後 面

衛士長

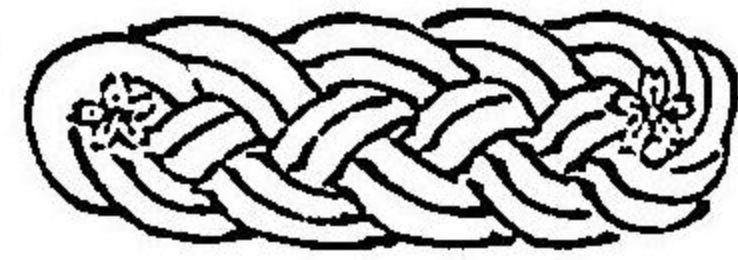


衛士副長

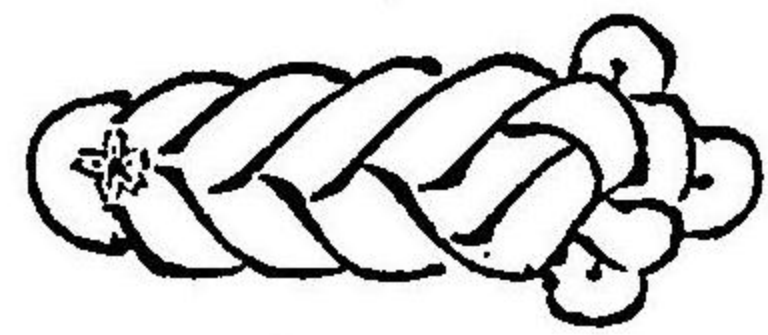




衛士長



衛士副長

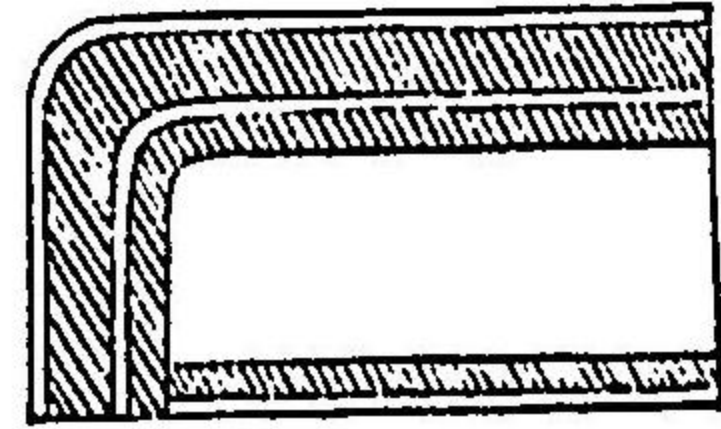


衛士

肩章  
櫻花章

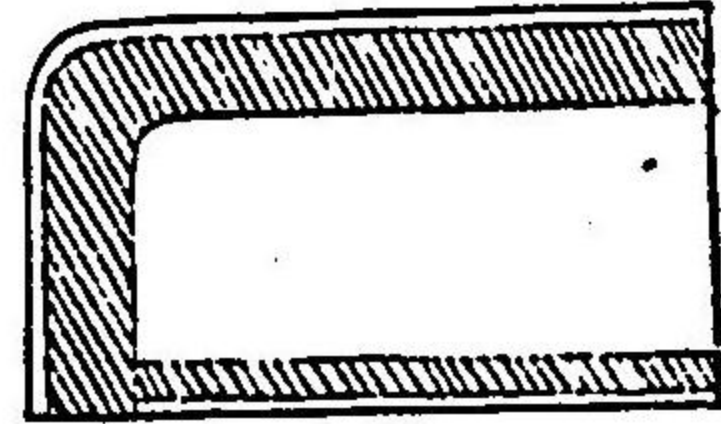


襟章



衛士長

全上



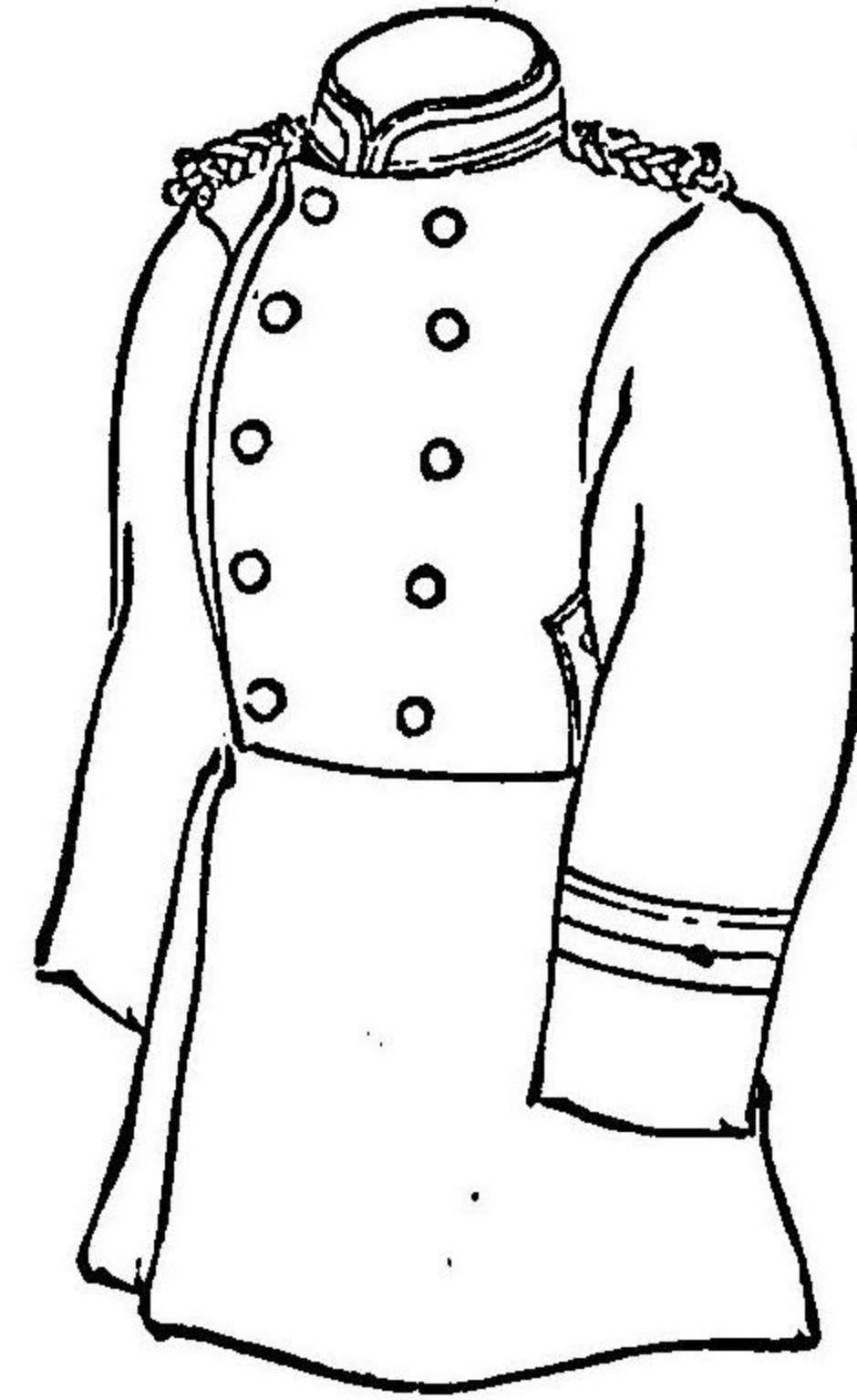
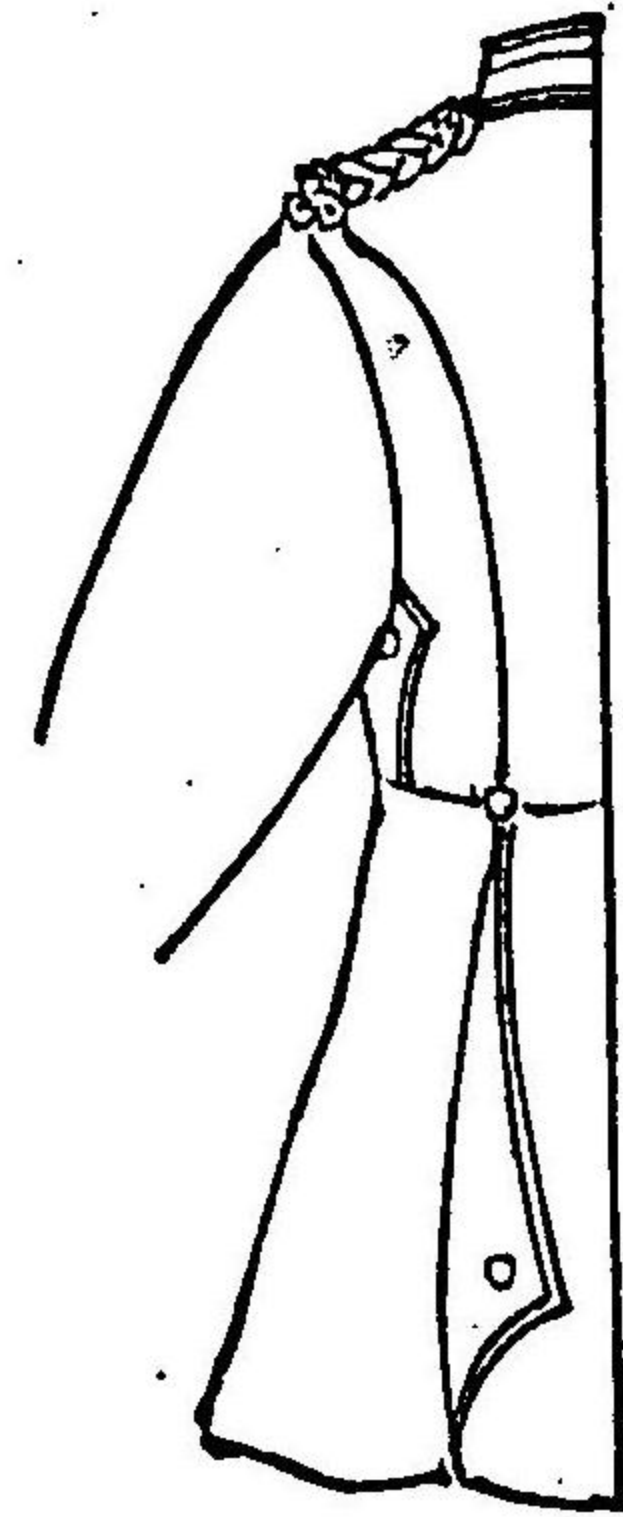
衛士副長

全上



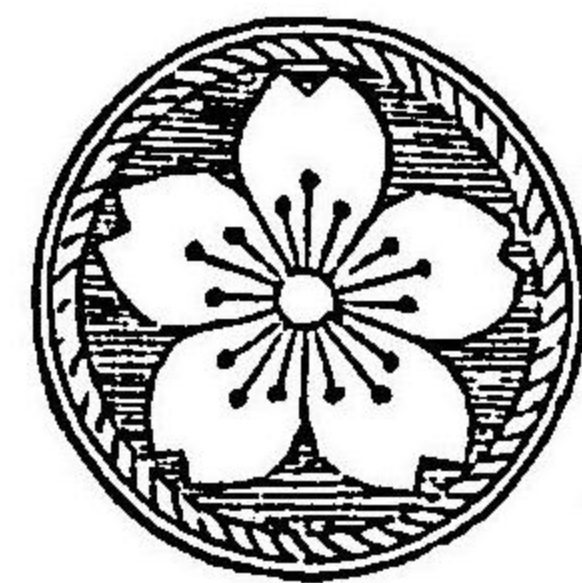
衛士

衛士



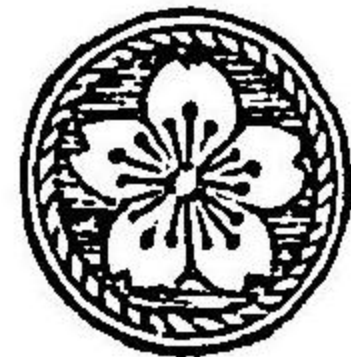
胸部

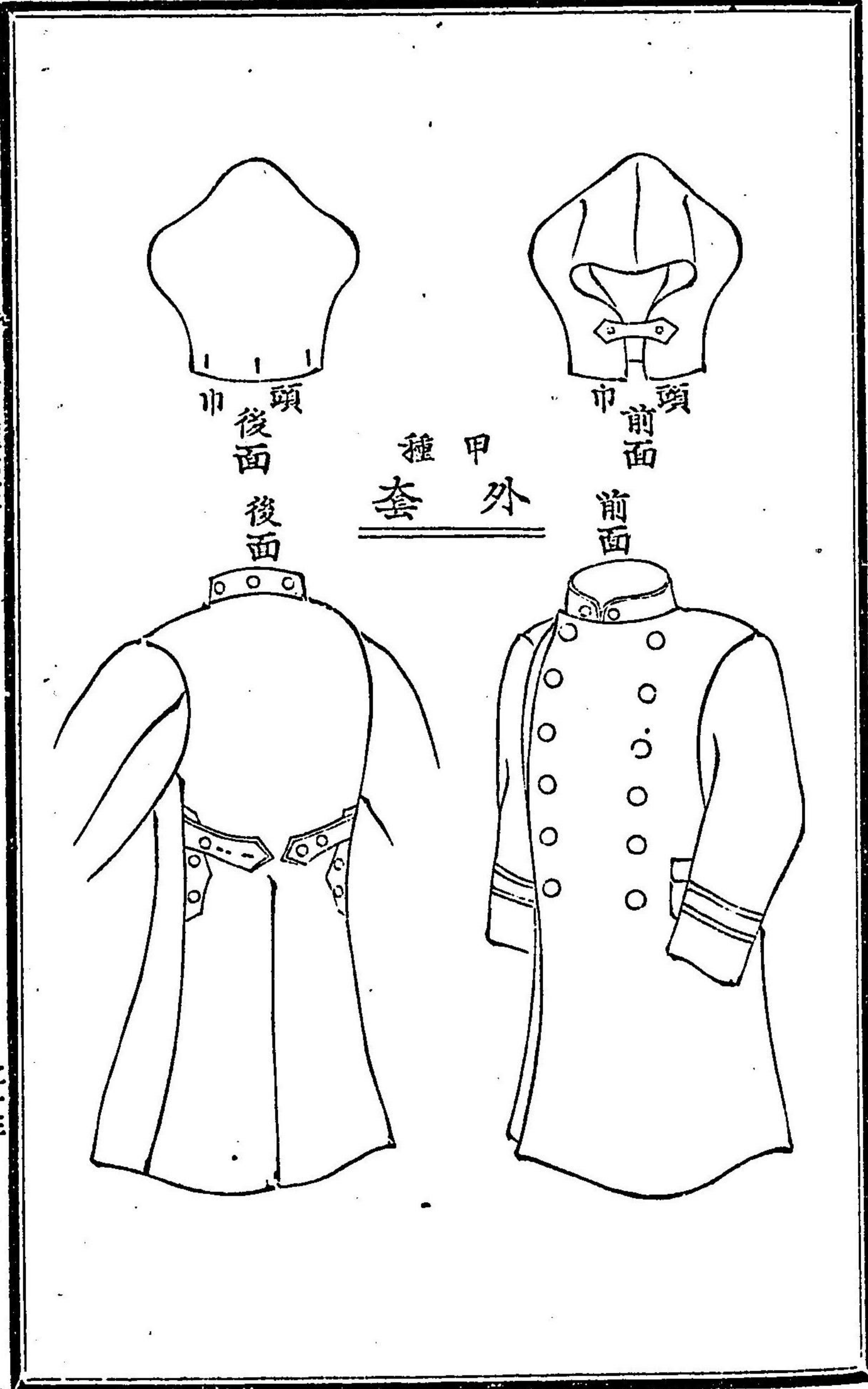
鈕部



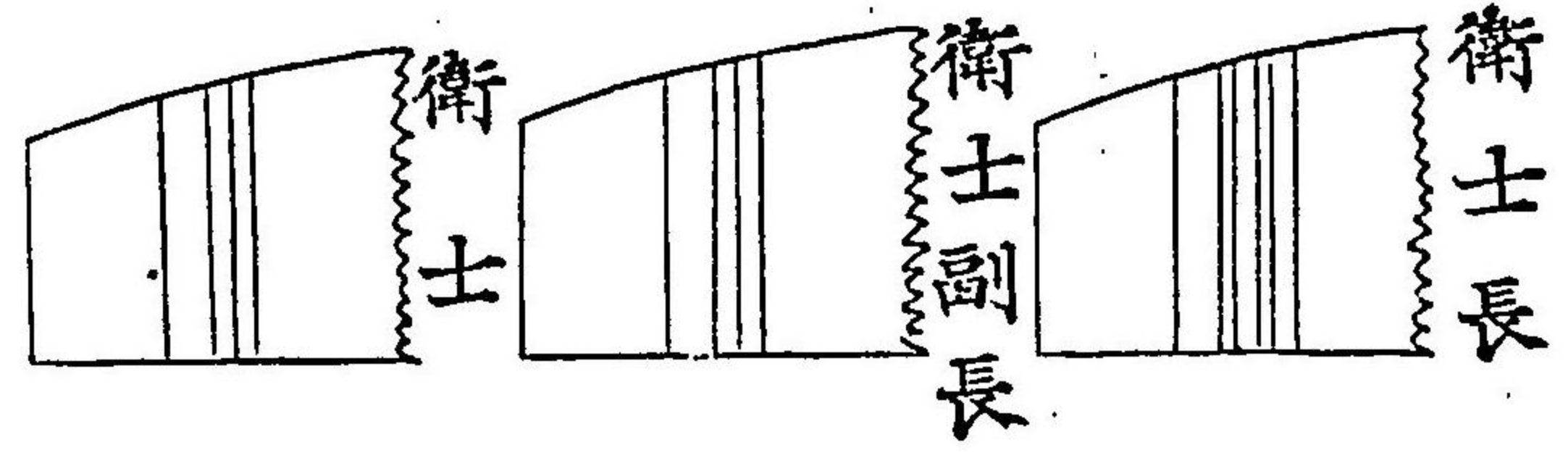
後部

其他鈕

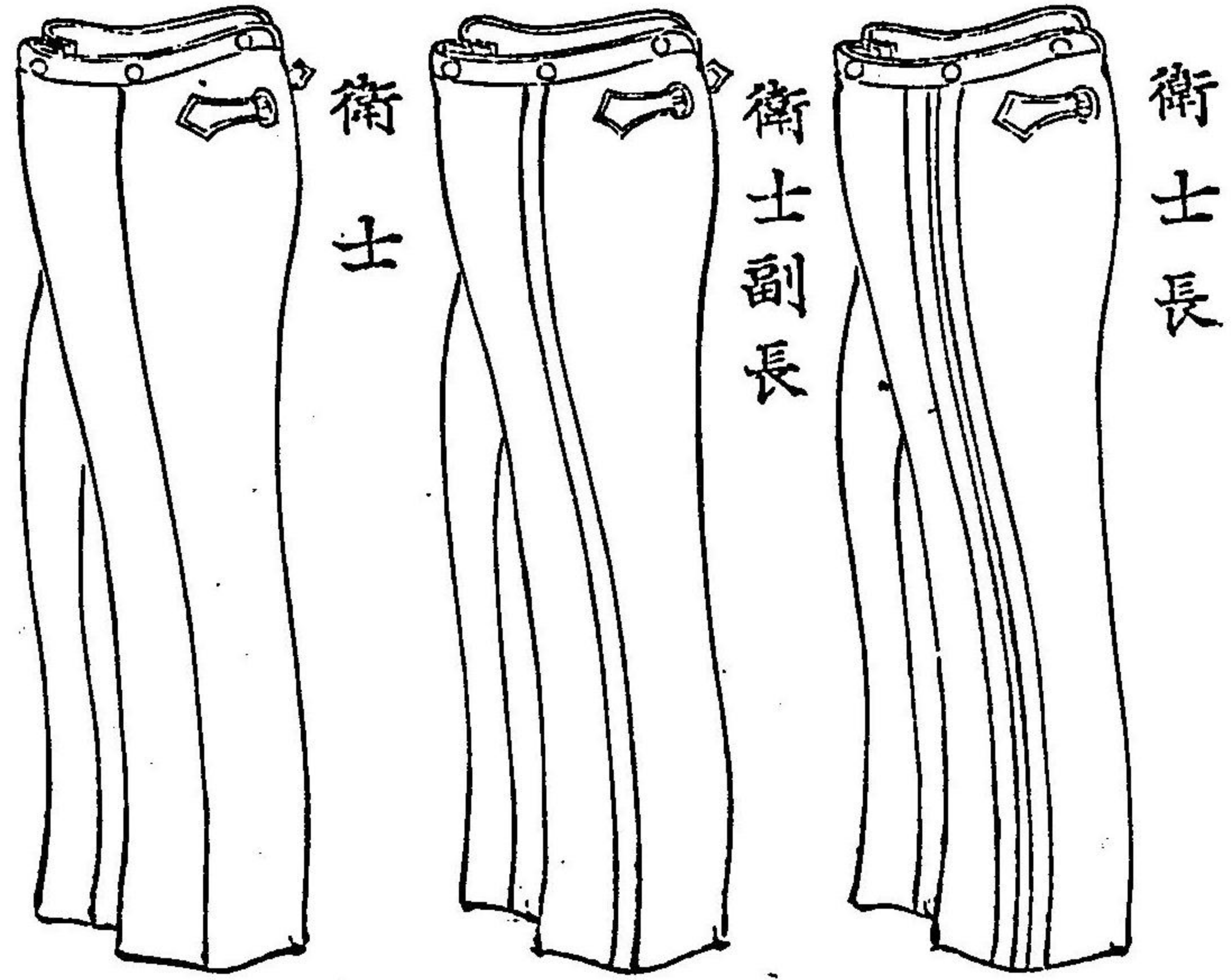




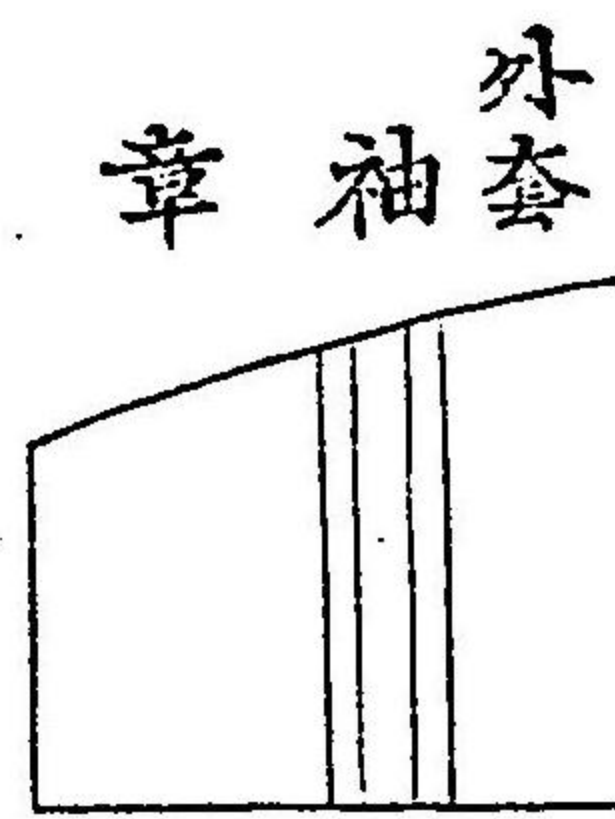
袖章



袴

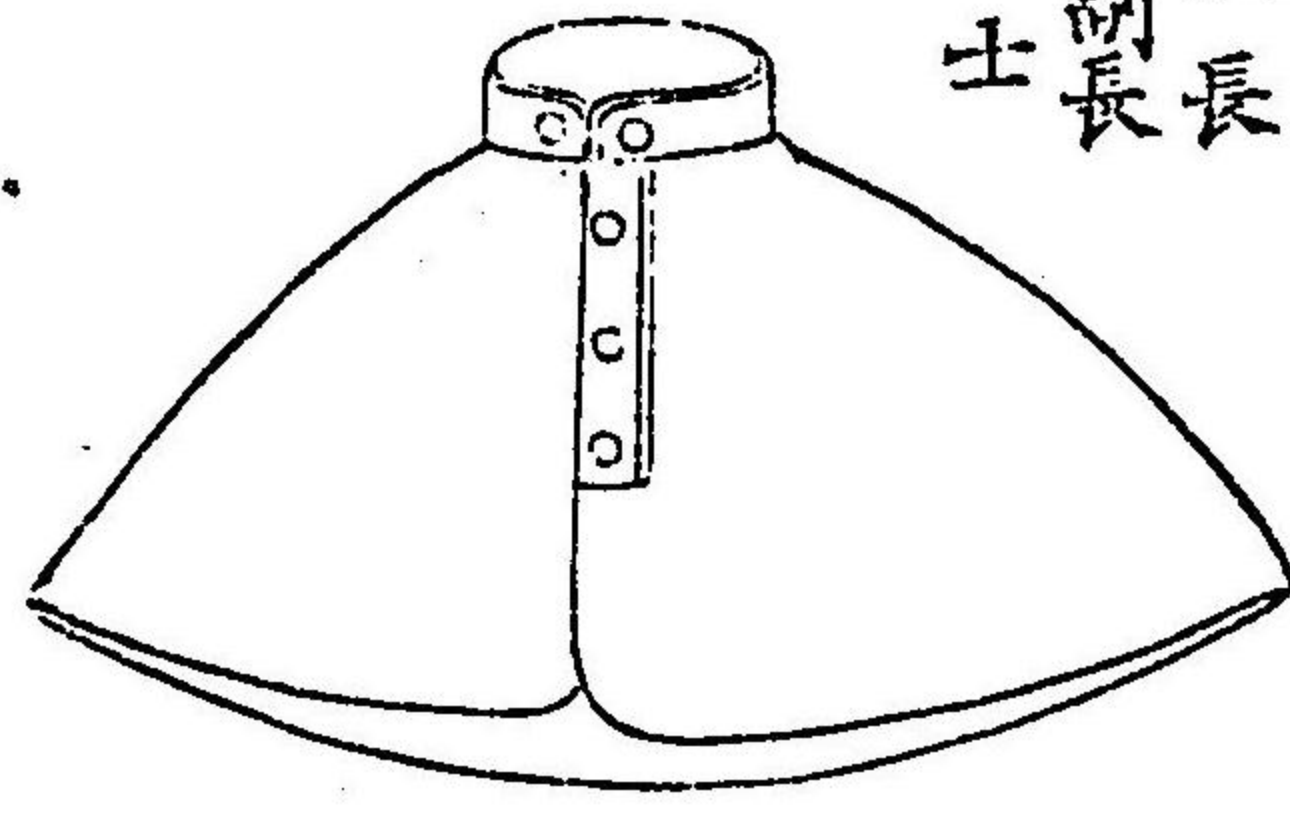


衛士長



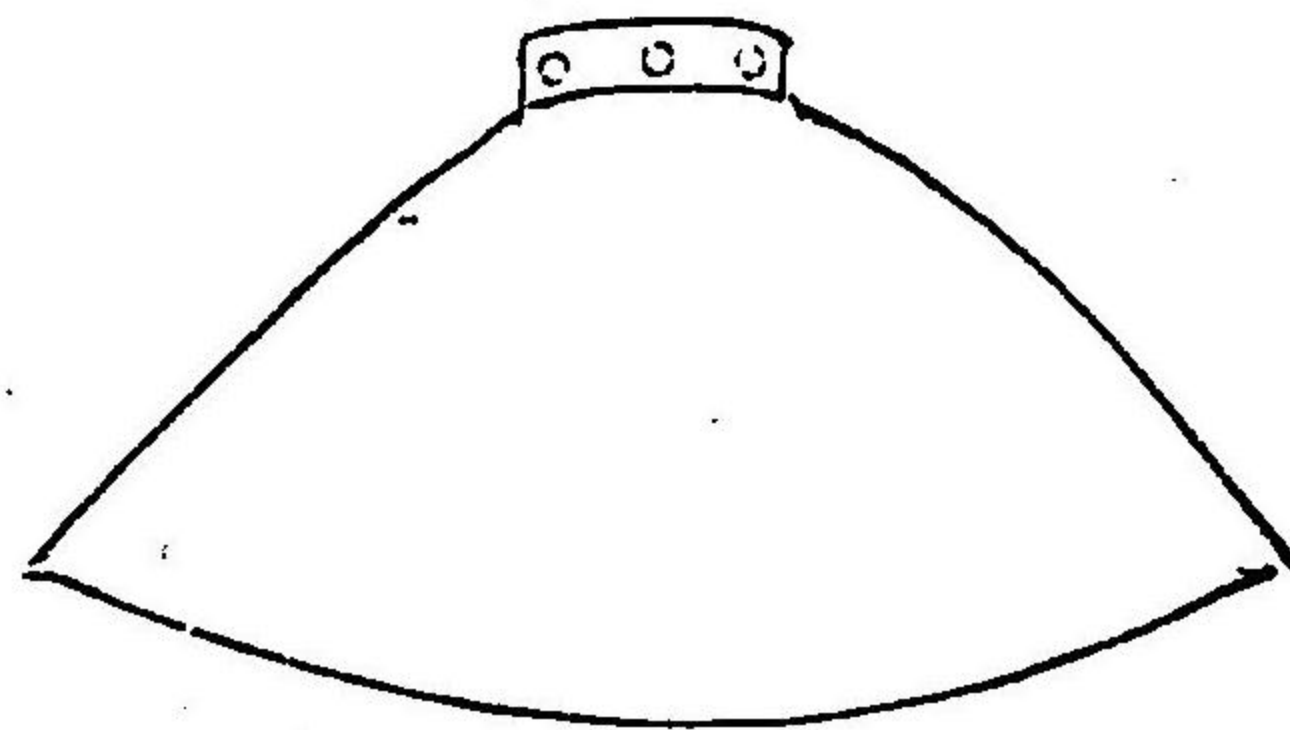
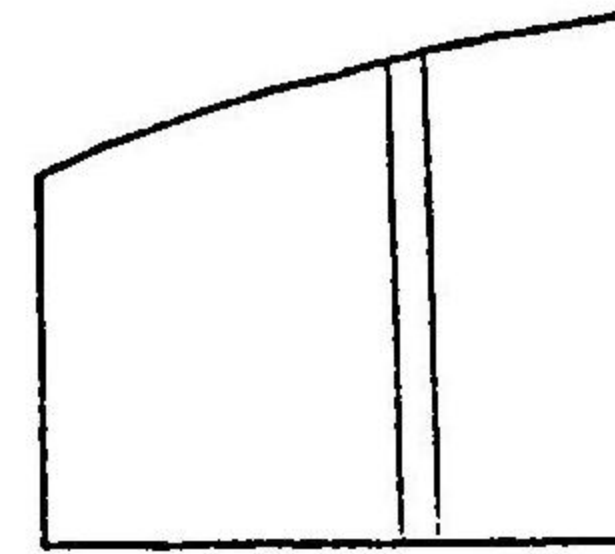
衛士長  
衛士副長  
衛士

乙種  
外  
套



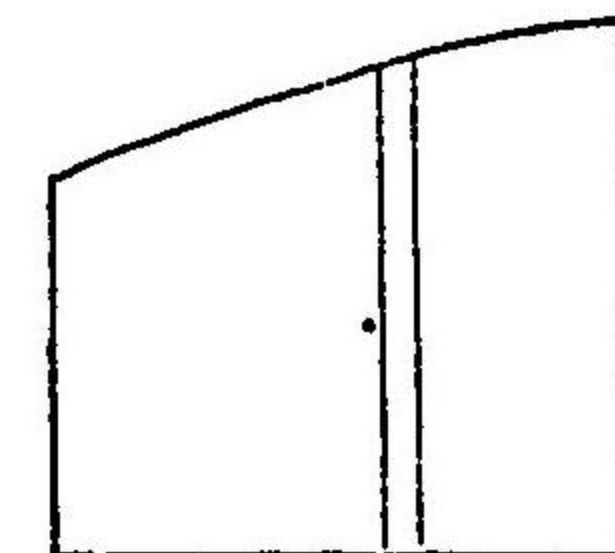
面前

衛士副長

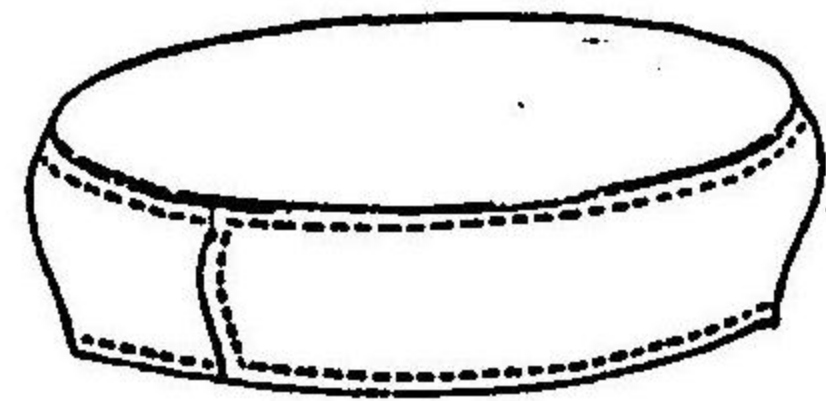


面後

衛士

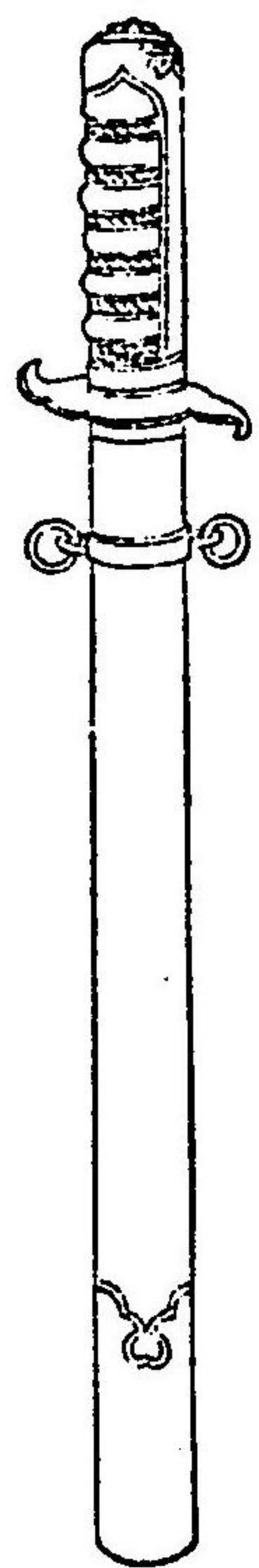


日  
覆

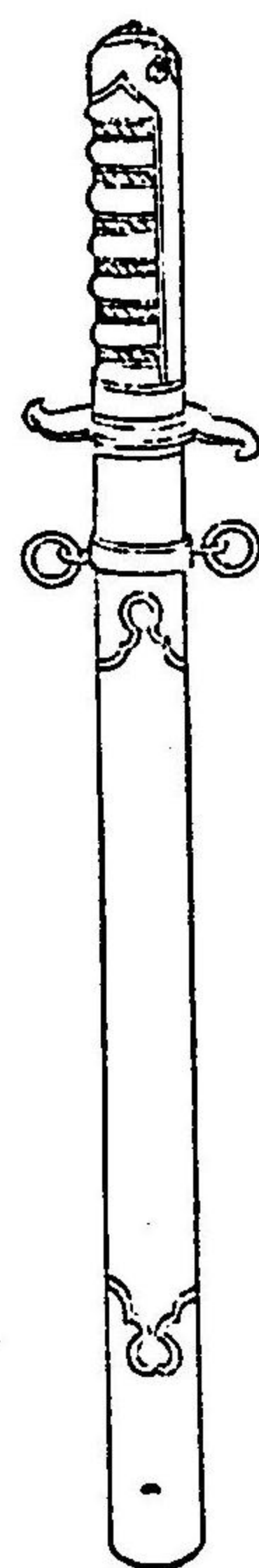


衛士長  
衛士副長  
衛士

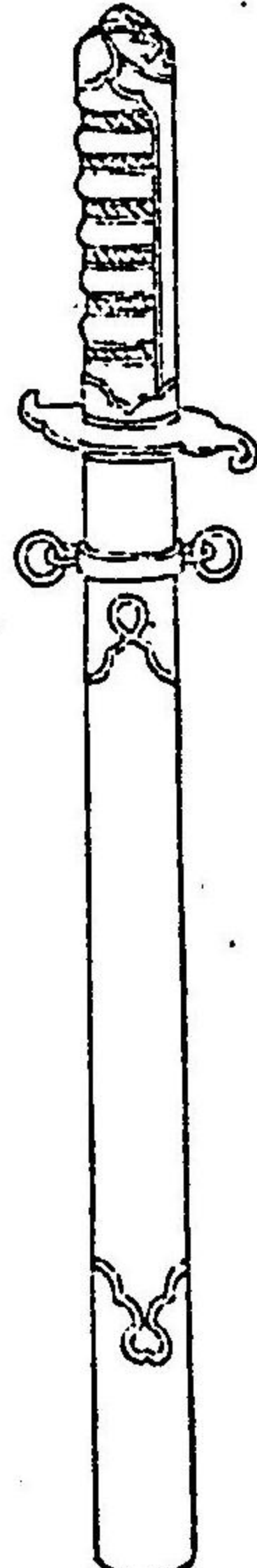
釵



衛士

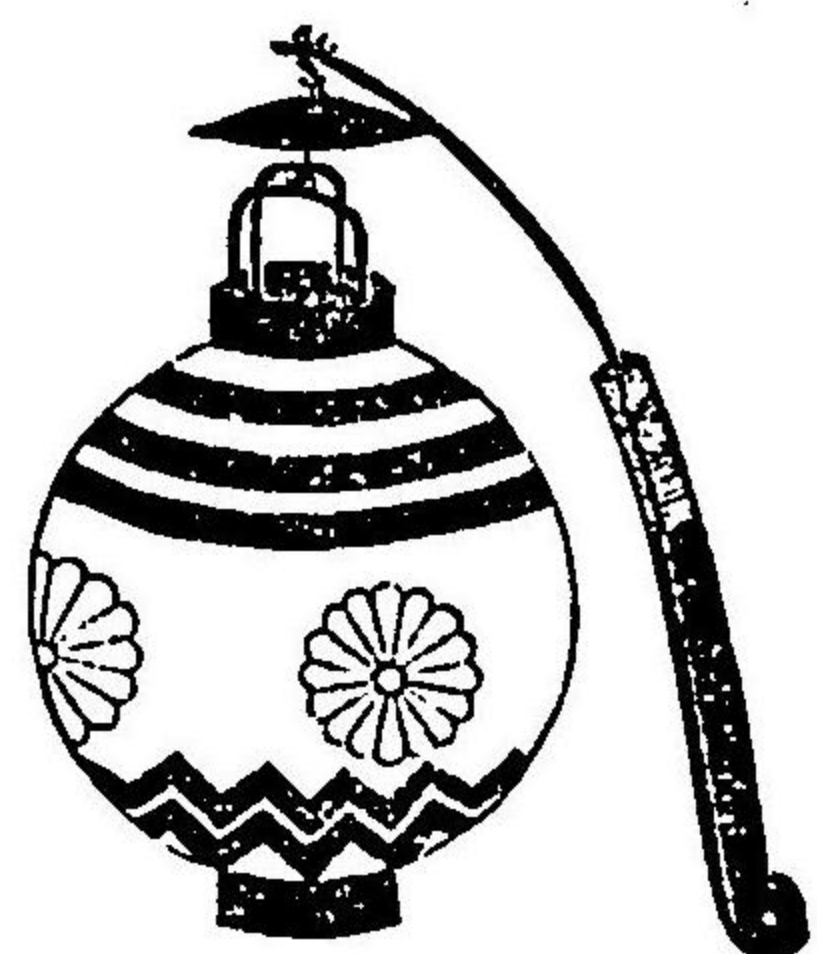


衛士副長

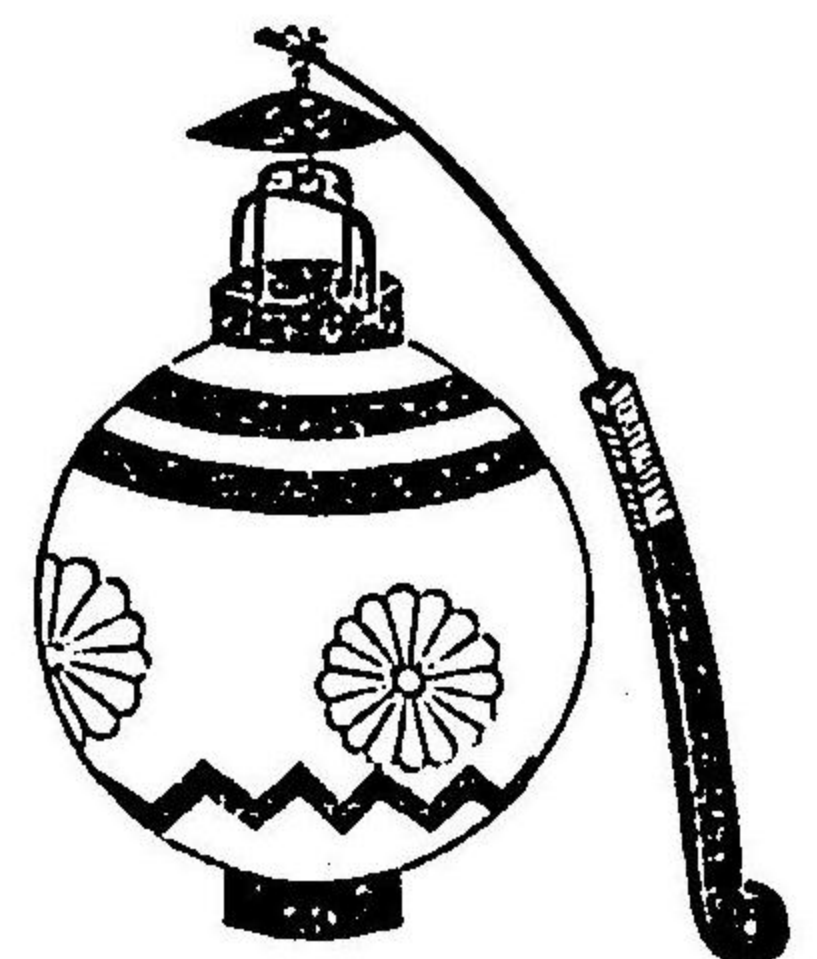


衛士長

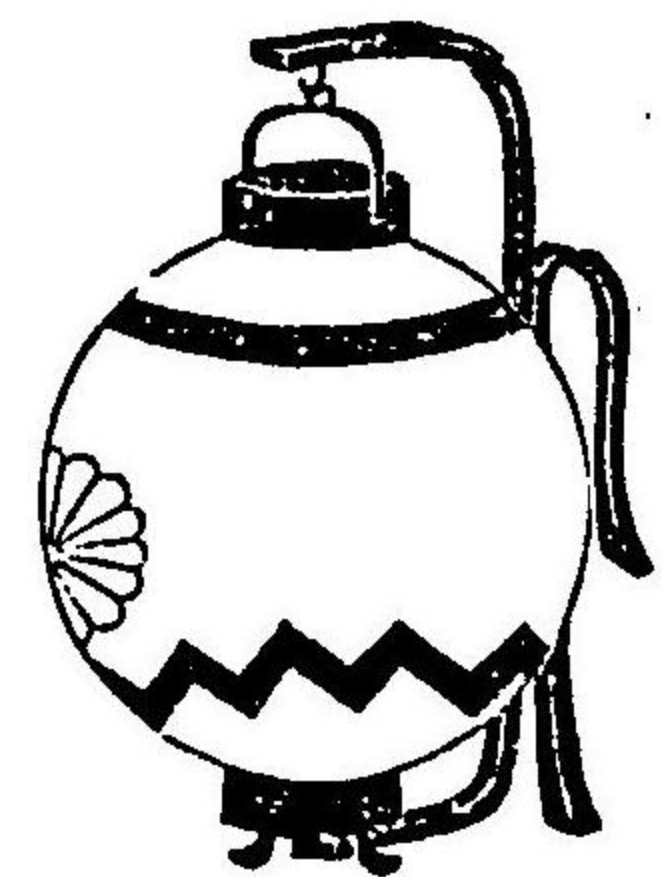
提燈



衛士長

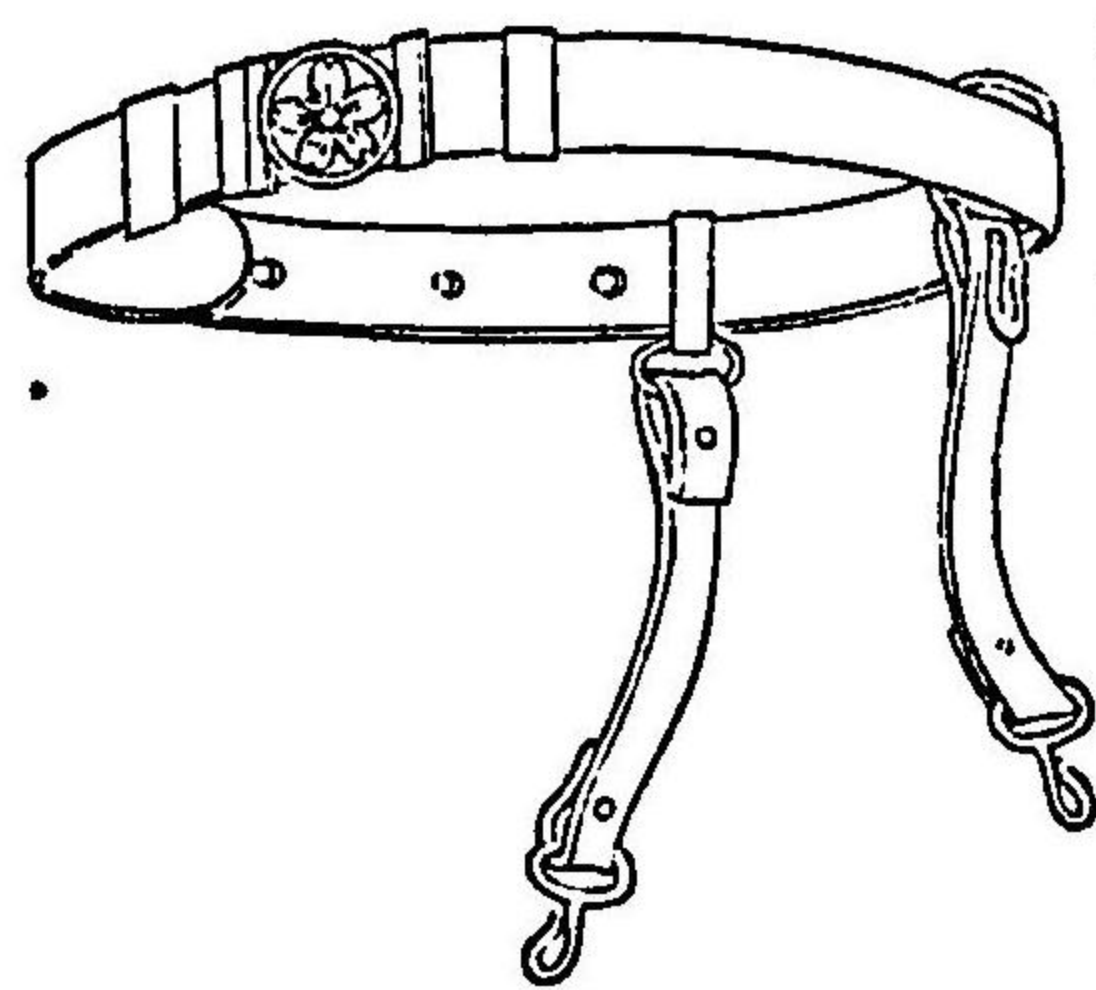


衛士副長



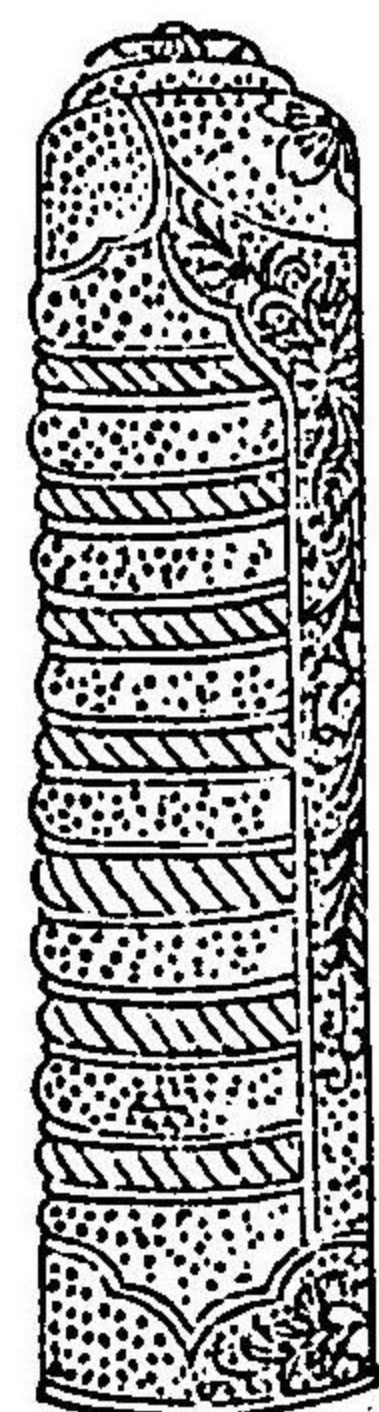
衛士

釧帶



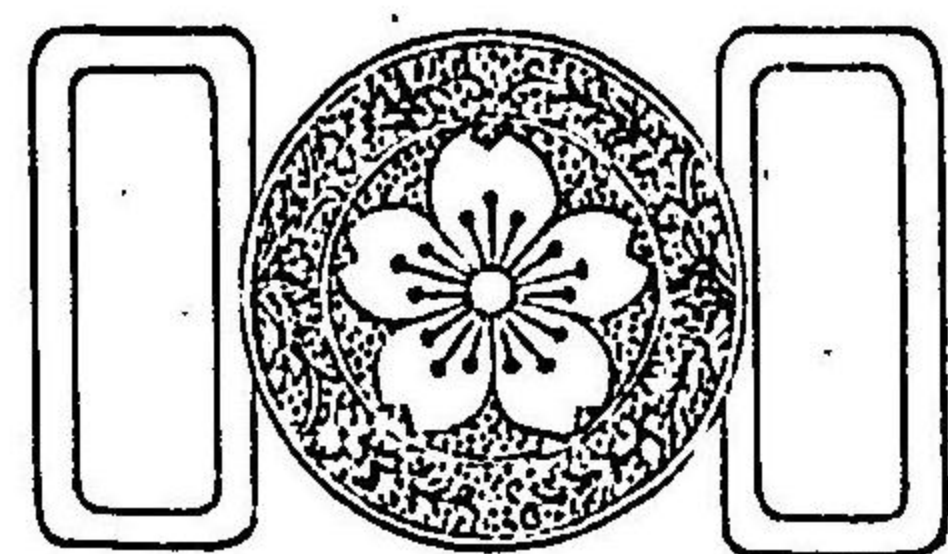
衛士  
衛士副長  
衛士長

釧柄



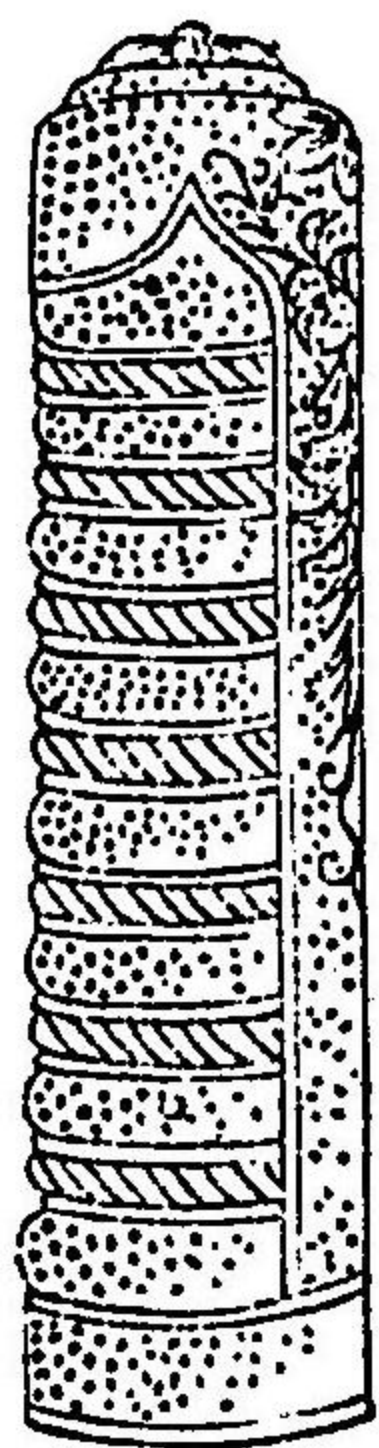
衛士長

釧前金具



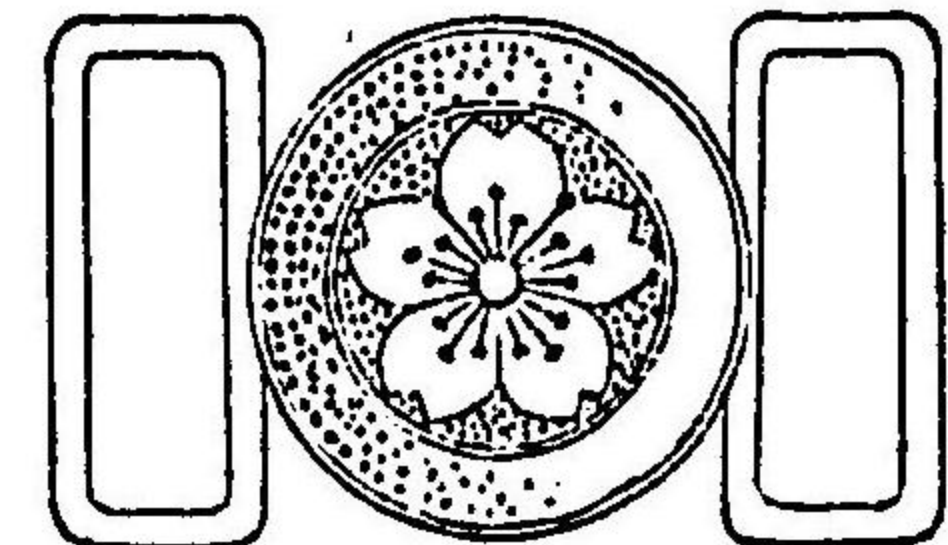
衛士長

全上



衛士  
衛士副長

全上



衛士  
衛士副長

○衛士長衛士副長衛士服務規則 明治三十二年十月十八日  
內務省令第五十三號

衛士長、衛士副長、衛士服務規則左ノ通定ム

衛士長、衛士副長、衛士服務規則

第一條 衛士長、衛士副長ハ部下諸員ノ勤惰ヲ視察シ諸般ノ報告ヲ徵シ職務ニ關スル指揮ヲ行フ

第二條 衛士ハ神地又ハ其ノ接近地ニ駐在シ若ハ神地ヲ巡邏シ水火災、惡疫及流行病ノ豫防並防止、犯罪及不良行為ノ制止其ノ他神地ノ取締ニ從事ス

第三條 衛士ハ宮域内ニ於テ服裝、言語、舉動等敬意ヲ失シ又ハ火災ノ虞アル行為ヲ爲ス者アルトキハ嚴ニ之ヲ制止スヘシ

第四條 衛士ハ神地ニ於テ死亡人、病人、迷兒、發狂人等ヲ認知シタルトキハ相當ノ處置ヲ爲シ行旅病人、行旅死亡人、飢餓凍餒ニ迫リ歩行ニ堪ヘサル行旅者、行旅中ノ妊婦產婦ニシテ手當ヲ要スルモ其ノ途ヲ有セサルモノ及其ノ同伴者ニ付テハ其ノ所在地市町村長ニ其ノ他ニ付テハ警察官吏ニ引渡スヘシ

第五條 衛士ハ神地ニ於テ殿舎、橋梁、道路ノ破損、樹木ノ顛倒、溝渠ノ淤塞等ヲ認知シタルトキハ衛士長ニ報告シ衛士長ハ之ヲ宮司ニ報告スヘシ

第六條 衛士ハ其ノ職務ヲ行フ爲メ必要ナル場合ニ於テ制止ヲ肯セサル者ヲ神地外ニ

退去セシメ妨害物又ハ不潔物ヲ神地内ニ存在セシムヘカラス

第七條 衛士ハ神地ニ於テ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯人アルトキハ之ヲ逮捕シ司法警察官ニ引致スヘシ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事違警罪ニ付テハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ告發スヘシ但止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外其ノ引致又ハ告發前衛士長ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第八條 衛士ハ神地又ハ其ノ近傍ニ火災其ノ他ノ事變アルトキ臨機ノ處置ヲ行フノ外宮司、司廳、齋宿及衛士長ヘ急報スヘシ

第九條 衛士長、衛士副長及衛士ハ祭典等ニ際シ宮司ノ命ニ依リ其ノ警衛ニ從事ス  
第十條 宮司及衛士長ハ事變其ノ他必要ノ場合ニ於テ衛士長以下衛士ヲ總テ召集スルコトヲ得

第十一條 衛士長ハ部下諸員ノ賞罰及願届等ヲ審理シ宮司ヘ具狀スヘシ

警衛事務ニ關スル宮司ヘノ上申及報告ハ衛士長之ヲ行フ

第十二條 警衛事務中重大ナルモノハ衛士長ノ指揮ヲ請ヒ衛士之ヲ施行スヘシ其ノ急施ヲ要スルトキハ施行後直ニ衛士長ニ報告スヘシ

第十三條 衛士長、衛士副長及衛士ハ職務執行ノ際制服ヲ着用スヘシ



第十四條 衛士長、衛士副長及衛士ノ配置、駐在、巡邏、心得、勤務、監督其ノ他本令施行上必要ナル事項ニ關スル細則ハ宮司ニ於テ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十五條 衛士ノ職務ハ衛士長又ハ衛士副長ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十六條 本令ハ明治三十二年十月二十三日ヨリ施行ス

○衛士長衛士副長衛士服務細則 明治三十三年六月三十日  
達第二八號

神宮衛士長衛士副長及衛士ノ服務細則別冊之通定ム

但本件ニ關スル從前ノ令達ハ總テ廢止ス

衛士長衛士副長衛士服務細則

第一章 配置勤務心得及監督

第一節 配置及勤務

第一條 衛士長及衛士副長中一名ハ皇大神宮見張所ニ出仕シ衛士副長中他ノ一名ハ豊受大神宮見張所ニ出仕シ警衛ノ事ヲ掌リ其事務ニ關シテハ一切ノ責ニ任ス

第二條 衛士長ハ神宮消防夫ヲ指揮監督ス衛士副長ハ本條衛士長ノ事務ヲ佐シ其事故アルトキハ之ヲ代理ス

第三條 衛士ハ皇大神宮豊受大神宮ニ各十六名別宮月讀宮月夜見宮瀧原宮伊雜宮ニ各

一名ヲ配置シ警衛ニ關スル諸般ノ勤務ニ從事ス

第四條 兩大神宮ニ各二名ノ豫備衛士ヲ置キ缺勤者補充其他ノ雜務ニ從事セシム

第五條 兩大神宮配置及豫備ノ衛士ハ見張所ニ出仕シ別宮配置ノ衛士ハ神地内又ハ其接近地ニ駐在スヘシ

第六條 衛士長衛士副長ハ毎日勤務トス

但休廳日ハ交互綜合常務ニ差支ナキ様休暇ス

第七條 兩大神宮配置ノ衛士ハ隔日其他ノ駐在衛士ハ毎日勤務トス

第八條 隔日勤務ハ十五時間乃至十七時間毎日勤務ハ九時間乃至十一時間實際ノ勤務ニ服スルモノトス

第九條 兩大神宮配置ノ衛士ハ共同シテ第一表並第一第二圖ノ如ク毎時間ニ宮城内及苑地ノ見張立番巡邏ヲ爲スヘシ

駐在衛士ハ第二表並第三乃至第六圖ノ如ク隔時間ニ宮城内ノ見張巡邏ヲ爲シ午前十一時ヨリ午後一時迄ノ間休憩シ其時間ハ夜間二回ノ巡邏ニ換ヘ價フヘシ

但伊雜宮駐在ノ衛士ハ佐美長神社域内モ併テ巡邏スルモノトス

第十條 月讀宮月夜見宮駐在ノ衛士ハ時宜ニヨリ兩大神宮見張所ノ勤務ヲ攝行セシムルコトアルヘシ

第十一條 山林其他巡邏線外樞要ノ箇所ハ時々豫備衛士ヲ指揮シ巡邏セシム

第十二條 諸祭典ノ節ハ左ノ區別ニ從ヒ衛士ヲシテ警衛セシム

一 正遷宮 衛士貳拾名

二 兩大神宮大祭公式祭祀別宮遷座及一月十一日ノ御饌 衛士四名  
但遙拜式大祓及與玉神祭御卜 衛士一名

三 別宮大祭及公式祭 衛士貳名

四 攝末社遷座式 全 貳名

五 神御衣護送 全 貳名

兩大神宮大祭ニ限リ鹵簿外ニ衛士一名先驅スルモノトス

第十三條 衛士長ハ神地内ニ參拜人群集等ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ適宜衛士

ヲ配置シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

第十四條 火災其他事變ニ際シ神宮消防夫指揮監督ニ關スル規定ハ別ニ定ムル處ニ依

ル

第十五條 神地内ニ於テ傳染病ノ發生者アルトキハ直ニ町村役場又ハ警察官吏ニ通知

シ患者ヲ引渡シ消毒法執行ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 衛士神地内ニ於テ遺失物ヲ拾得シタルトキハ之ヲ衛士長ニ差出シ衛士長ハ

法令ノ規定ニ從ヒ之ヲ處置シ其旨大宮司ヘ報告スヘシ

第十七條 神地内ニ於テ遺失物ヲ拾得シ届出ル者アル場合ニ於テ公衆ノ通行ヲ禁止シ

タル場所ニ於テ拾得シタルモノニ係ルトキハ前條ニ依リ之ヲ處置シ其他ノ場所ニ於

テ拾得セル者ニ係ルトキハ警察官署ヘ届出ヘキ様指示スヘシ物件遺失届出ト同時ニ

其物件ヲ拾得シタル旨届出タルトキハ双方ヘ懸示シ物件受授ヲ爲サシムヘシ

但物件ノ受授ニ付異議アルトキハ警察官署ノ處分ヲ要ス

第十八條 駐在ノ衛士ハ一週日毎ニ一日ノ非番ヲ與フ

但非番ハ繼續シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 見張所駐在所ニ日誌ヲ備ヘ當務員ノ氏名勤務時間及事故ノ細大ヲ遺漏ナク

記載シ兩大神宮ハ勤務ノ翌朝其他ハ監督巡視ノ際監督員ノ檢閲ニ供スヘシ

但事ノ緊急重要若クハ秘密ニ涉ルモノハ直ニ衛士長ニ申報シ衛士長ハ其事件ノ摸

様ニ依リ大宮司ヘ即報スヘシ

第二十條 瀧原宮伊雜宮駐在ノ衛士ハ日誌記載ノ事項ヲ賸寫シ一ヶ月毎ニ衛士長ヘ報

告スヘシ

第二十一條 日誌ハ別紙記載例ニ從ヒ必ス楷行書ヲ以テ野紙各行内ニ明記シ猥リニ欄

外ノ記入等ヲ爲スヘカラス

衛士長以下勤務及事故月表ヲ調製シ翌月五日迄ニ大宮司へ進達スヘシ

第二十二條 衛士長ハ重要ノ事件ヲ除ク外其名ヲ以テ他ノ官署ト往復スルコトヲ得此  
場合ニ於ケル文書收發及郵便電信切手出納等ノ手續ハ神宮司廳處務細則ニ準據スヘ  
シ

第二十三條 見張所勤務ノ衛士ハ每朝交代時限十五分前駐在衛士ハ監督巡視ノ際点檢  
訓授ヲ受クヘシ

第二節 心得

第二十四條 常ニ服務規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵行スヘシ

第二十五條 職務上ニ付上官ニ申告スル事項ハ總テ正實ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ行爲アル  
ヘカラス

第二十六條 服務中ハ常ニ謙肅ヲ主トシ敬神ノ意ヲ失セサル様特ニ注意スルヲ要ス

第二十七條 職務ヲ執行スルニハ剛毅活潑ナルヲ要ス然レトモ參拜人等ニ對スルトキ  
ハ丁寧親切ヲ旨トシ決シテ傲慢不遜ノ言語ヲ用ヒ威權ケ間敷所行アルヘカラス

第二十八條 非常事變ニ際シテハ奮發勇進職務ノ爲メニ身命ヲ抛チ苟モ逡巡卑怯ノ舉  
動アルヘカラス

第二十九條 衛士ハ非番ノ際体力ヲ養ヒ心膽ヲ鍊ル爲メ擊劍其他ノ武術ヲ講習スヘシ

第三十條 機密ノ件ハ勿論職務ニ關スル事件ハ他ニ漏洩スヘカラス

第三十一條 職務執行中ハ諸般ニ注意シ非違ヲ戒メ若シ禁條ニ觸レントスル者アルト  
キハ懇切ニ説諭ヲ加ヘ防止スヘシ

第三十二條 人ヲ制止シ若クハ説諭スルニ方リテハ忍耐沈着ヲ主トシ決シテ怒氣ヲ發  
スル等ノ事アルヘカラス

第三十三條 參拜人其他ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ鄭重ニ答禮ヲ爲シ決シテ横柄ノ舉  
動アルヘカラス

第三十四條 勤務中見聞セシ事件ニシテ職務ニ關係アルモノハ細大漏サス手帖ニ扣ヘ  
見張ノ日誌ニ詳記スヘシ

第三十五條 見張中ハ讀書習字ヲ爲シ又ハ雜談遊戲ノ所爲アルヘカラス

第三十六條 私ニ職務ヲ交換シ又ハ規定ノ時間ヲ變更スルコトヲ許サス  
但事情止ムヲ得サルトキハ衛士長ニ申請スヘシ

第三十七條 執務中醉態ヲ露ハシ其他戲ケ間敷所行アルヘカラス

第三十八條 兩大神宮月讀宮月夜見宮及攝末社並諸附屬舍(宇治山田町及其附近)近傍  
ニ火災又ハ非常事變アルトキハ非番ノ者ト雖モ速ニ現場ニ駆付防禦ヲ爲スヘシ

第三十九條 非番ノ際外出スルトキハ必ス其行先ヲ宿主又ハ家族ニ告知シ臨時ノ要務

ニ差支ナキ様注意スヘシ

第四十條 見張所ハ每朝清潔ニ掃除スヘシ

第四十一條 同僚ハ一心同体ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘシ

第四十二條 常ニ節儉ヲ守リ身分不相應ノ事アルヘカラス

第四十三條 擅ニ同僚相會合シテ宴席ヲ開キ其他自ラ品行ヲ傷クル等ノ事アルヘカラス

第四十四條 疾病ニ罹リ欠勤スルトキハ當日午前十一時迄ニ其旨届出ヘシ

但五日以上ニ涉ルトキハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ更ニ届出ヘシ

第四十五條 執務中疾病又ハ止ヲ得サル事故アリテ退所セントスルトキハ其事由ヲ衛士長ニ申出許諾ヲ受クヘシ

第四十六條 辭令ヲ受ケタルトキハ直ニ受書ヲ宮司官房ニ出シ新任ノ者ハ五日以内ニ履歷書ヲ差出スヘシ

但出張及賞與ニ關スル辭令ハ受書ヲ要セス

第四十七條 出張ノ辭令ヲ受ケタル者ハ出發届ヲ發程前ニ歸任届ヲ歸着ノ當日若クハ翌日ニ差出スヘシ

但至急ノ場合ハ此限ニアラス

第四十八條 出張ノ事ヲ了リ歸任シタルトキハ三日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ事簡易ナルモノハ口述スルコトヲ得

第四十九條 族籍住所氏名及家族ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ届出ヘシ

第五十條 看護(祖父母父母妻子)墓參(父母)轉地療養ヲ爲サントスル者ハ豫メ往復及滞在日數往先等ヲ記載シ(轉地療養ハ醫按其他ハ確証トナルヘキモノヲ添付シ)願出ヘシ

第五十一條 看護墓參轉地療養中事故アリテ期限内歸任スルコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ準シ延期ヲ追願スヘシ

第五十二條 休暇及非番ト雖モ一日間ニ歸任スルコト能ハサル地方へ旅行スルトキハ願出許可ヲ受クヘシ

第五十三條 私事旅行ノ途中天災等ニテ滞在シ許可日數外ニ涉ルトキハ其事實ノ証明書ヲ添付シ届出ヘシ

第五十四條 親族ノ喪ニ遭ヒ忌服ヲ受クル者ハ其親族ノ續柄及忌服日數ヲ詳記シ届出ヘシ墓參葬儀其他遠慮スヘキ場合モ亦同シ

第五十五條 父母正忌日ニ丁ルトキハ其旨前日ニ届出ヘシ

第三節 監督

第五十六條 衛士長衛士副長ハ部下ノ勤惰職務執行ノ如何注意ノ厚薄服裝姿勢及動作

品行ノ正否等ヲ監査スヘシ

第五十七條 衛士長衛士副長ハ疾病其他止ヲ得サル事故アルニアラサレハ左ノ程度ニ  
從ヒ巡視スヘシ

一 衛士長ハ皇大神宮域内及苑地ヲ一晝夜一回以上豊受大神宮ノ域内及苑地及月讀  
宮月夜見宮ノ域内ヲ毎月十回以上

二 衛士副長ハ皇大神宮又ハ豊受大神宮ノ域内及苑地ヲ各一晝夜二回以上月讀宮月  
夜見宮ノ域内ヲ各毎月十五回以上

三 衛士長衛士副長ハ一名宛繰合瀧原宮及伊雜宮佐美長神社ノ域内ヲ二ヶ月一回又  
兩宮山林其他巡邏線外極要ノ箇所適宜

第五十八條 衛士長ハ毎月五回衛士副長ハ全七回ニ降ラサル夜警ヲ爲スヘシ

第五十九條 監督巡視ノ際ハ見張所日誌ノ勤務一覽部ニ捺印スヘシ

第六十條 衛士副長ハ日誌ヲ備ヘ監督上ニ係ル事項ハ細大洩サス記載シ衛士長ノ檢閱  
ニ供スヘシ

第六十一條 衛士長ハ監督上重要ノ意見アルトキハ大宮司ヘ開申スヘシ

第二章 非常召集

第六十二條 非常召集ハ非常事變ニ際シ臨時多數ノ衛士又ハ消防夫ヲ要スル場合ニ之  
ヲ行フモノトス

第六十三條 召集ヲ分テ甲乙ノ二種トス  
甲召集ハ大宮司ニ於テ衛士長以下消防夫ヲ乙召集ハ衛士長ニ於テ衛士副長以下及消  
防夫ヲ召集スルモノトス

第六十四條 衛士長以下ヲ召集スルトキハ第一號様式ノ召集令狀召集ヲ受クヘキ者ノ  
職氏名及召集ノ場所日時ヲ記入シ當務ノ衛士又ハ小使ヲシテ本人ノ宿所又ハ所在ニ  
配送セシムヘシ

第六十五條 消防夫ヲ召集スルトキハ小頭ヲシテ其召集スヘキコト及場所日時ヲ組員  
ニ告知シテ直ニ之ニ應セシムヘシ

第六十六條 召集ヲ行フニ際シ猶人員ヲ要スルトキハ第二號様式ノ要求書ニ必要ノ人  
員及場所日時ヲ記入シ最寄警察官署ニ送致シ援助ヲ求ムルコトアルヘシ

但時機緊急ノ場合ニ於テハ便宜巡行又ハ駐在ノ警察官吏ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十七條 召集令狀及要求書ハ司廳名ヲ以テ發スルモノニシテ常ニ見張所一定ノ場  
所ニ備置クヘシ





ヲ以テ論セス

第八十二條 忌引遠慮及父母ノ正忌日並豫備後備ノ軍籍ニアル者點呼若クハ非常召集

中ノ日數ハ勤務及欠勤ニ算入セス

第八十三條 皆勤ノ者ニハ左ノ様式ニ從ヒ皆勤証ヲ下付スヘシ

但半ケ年間ノ皆勤証ヲ得タル者其休暇ヲ爲サス引續尙ホ半ケ年間皆勤セシトキハ一ケ年間ノ皆勤証ト交換スヘシ

用紙仙花

皆勤証

職氏名

表 自明治何年何月何日何ケ年間皆勤  
至明治何年何月何日

右爲後照此証附與候也

長四寸五分

明治何年何月何日ヨリ  
全月何日迄幾日間賜暇

衛士長印

幅五寸

第八十四條 休暇日數ハ便宜分與スルヲ得ルト雖モ第七十八條第一項ノ休暇ハ皆勤滿

期ノ翌日ヨリ一年内ニ得ルニアラサレバ其効力ヲ失フ

第八十五條 休暇ヲ爲サントスル者ハ衛士長へ皆勤証ヲ出シ賜暇日數ノ記入ヲ請フヘシ

第八十六條 衛士長衛士副長ノ休暇ハ一般官吏ノ例ニ依ル

日誌記載心得

- 一 日誌ノ用紙ハ常用半紙對トス
- 一 日誌中ニ勤務表並ニ事故表ヲ製シ月日天氣七曜當直員ノ職氏名ヲ記シ勤務ニ服シタルトキハ各其時間欄内ニ認印シ事故表ハ各自取扱ヒタル件數ヲ記入スヘシ
- 一 事故表外ノ出來事其他他日ノ參考ヲ要スルモノハ日誌ノ上部ニ標題ヲ設ケ下部ニ事件ノ要領ヲ簡明ニ記スヘシ
- 一 衛士副長以上ノ出所及退所ノ時間並ニ所員ノ勤不勤其他出張等通常外ノ事柄ハ其事由ヲ記シ置ヘシ
- 一 皇族大臣勅任官華族其他重立タル官民ノ參拜アリタルトキハ爵位官等氏名ヲ記シ他日ノ參考ニ供スヘシ

記載例





意	制					
	宿引人馬車客引	禁止ノ場所ニ出入セントスルモノ	花又ハ樹皮ヲ探ラントスルモノ	便所外ニ放尿セントスルモノ	放歌又ハ喧器	喫烟又ハ飲食
重大又ハ見苦敷物						
掃除						
出	所何衛士長ハ午前何時何十分出所					
出	勤何衛士ハ病氣引籠中ノ處出勤セリ					
忌	引何衛士ハ何々ノ喪ニ丁リ本日ヨリ何日間忌引届ヲ差出シタリ					

大臣參拜 何爵何大臣ハ午前何時正式參拜アリ休憩中ノ何衛士ハ前驅セリ

退 所 何衛士長ハ午後何時退所

犯人引渡 何時ヨリ立番又ハ交代線中何處ニ於テ現行ノ何犯罪ヲ認メ取押  
 へ衛士長ノ指揮ノ上警察署又ハ何巡查派出所該巡查何某ニ引渡  
 告發セリ (關係衛士捺印)

第一表

神宮衛士勤務一覽表

朱書ハ豐受宮城内勤務ノ箇所

△印ハ朱書

見	張		九
	晝	夜	
表見	張晝	張夜	十
見	甲	戊	十一
	巳	丁	十二
	庚	丙	十三
	辛	乙	十四
	戊	甲	十五
	丁	巳	十六
	丙	庚	十七
	乙	辛	十八
	甲	戊	十九
	巳	丁	二十
	庚	丙	廿一
	乙	辛	廿二
	甲	戊	廿三
	巳	丁	廿四
	庚	丙	廿五
	乙	辛	廿六
	甲	戊	廿七
	巳	丁	廿八
	庚	丙	廿九
	乙	辛	三十

衛士長衛士副長衛士職務細則

休 休		休 休				裏 見		外幣殿際立番		修祓所際立番		神前立番		授與所際立番	
憇 憇		憇 憇				張		立番		立番		立番		立番	
夜	晝	夜	晝	夜	晝	夜	晝	夜	晝	夜	晝	夜	晝	夜	晝
乙	丙	丁	辛	庚	巳	甲	戌	巳	丁	庚	丙	庚	辛	乙	甲
乙	丙	甲	辛	庚	戊	巳	丁	庚	丙	辛	乙	戊	丁	巳	庚
乙	巳	甲	辛	丁	戊	庚	丙	辛	乙	戊	甲	丁	丙	巳	庚
庚	巳	甲	丙	丁	戊	辛	乙	甲	丁	丙	庚	辛	乙	甲	戊
庚	己	辛	丙	丁	乙	戊	甲	丁	丙	庚	辛	乙	甲	戊	丁
庚	戊	辛	丙	甲	乙	丁	巳	丙	乙	辛	甲	戊	己	丁	丙
丁	戊	辛	巳	甲	乙	丙	庚	辛	甲	巳	丁	丙	辛	乙	甲
丁	戊	丙	巳	甲	庚	乙	辛	戊	甲	巳	丁	丙	辛	乙	甲
甲	乙	丙	巳	辛	庚	巳	丁	庚	丙	辛	乙	甲	丁	戊	甲
甲	乙	巳	戊	辛	丁	庚	丙	辛	乙	戊	甲	丁	戊	甲	巳
甲	庚	巳	戊	丙	丁	辛	乙	戊	甲	丁	戊	甲	丁	戊	甲

毎日八人勤務ニシテ一日一人ノ實際勤務十五時間休憩九時間

第二表

勤 務 一 覧 表					
休 憇		警 邏		見 張	
夜	晝	夜	晝	夜	晝
		△			○
			○		
					○
	○				
	○				
					○
			○		
					○
		△			○
			○		
					○

月讀宮警邏線路  
見張ヲ發シ神前ヨリ左ニ折レ各正殿ノ後ヲ通り抜ケ再ヒ神前ニ出テ井水場ノ側ヨリ古殿地ニ到リ林中ニ入り御井ノ側ニ出テ見張所ニ歸ル

此延數 五丁

時間 一時間

備考 全線路一週ノ警邏ニ費ス時間ハ二十五分間ニシテ殘ル三十五分間ハ見張ノ勤務ニ從事セシム

月夜見宮警邏線路

見張所ヲ發シ神前ヨリ左ニ折レ正殿ノ後ヲ通り抜ケ再ヒ神前ニ出テ左ニ折レ高河原神社ノ側ヲ經テ林中ニ入り左ニ廻リ宿衛屋ノ側ニ出テ見張所ニ歸ル

此延數 四丁

時間 一時間

備考 全線路一週ノ警邏ニ費ス時間ハ二十分間ニシテ殘ル四十分間ハ見張ノ勤務ニ從事セシム

瀧原宮警邏線路

見張所ヲ發シ左ニ折レ手水場ヲ經テ參道及神前ヲ通過シ若宮神社ノ側ヨリ林中ニ入り里道ニ出テ左ニ折レ北方ノ宮域線ヲ通り抜ケ四方ノ道路及一鳥居ヲ經テ見張所ニ歸ル

此延數 二十五丁

時間 一時間

伊雜宮警邏線路

見張所ヲ發シ左ニ折レ正殿及古殿地ヲ一周シ一鳥居ヲ出テ村道ヲ通過シテ佐美長神社域内ヲ一周シ再ヒ右村ニ出テ見張所ニ歸ル

此延數 二十六丁

時間 一時間

○衛士長衛士副長衛士懲戒ニ關スル件 明治三十一年八月十三日 內務省訓第七一九號

神宮司廳

衛士長衛士副長衛士懲戒ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條 職務ノ規則ニ反シ及過誤怠慢アル者ハ其情狀輕重ヲ審案シ懲戒ニ處ス

第二條 懲戒ヲ分テ譴責、罰俸、免職ノ三種トス

第三條 譴責ハ呵責書ヲ付シ罰俸ハ一ヶ月五十分一ヨリ少ナカラス一ヶ月ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪ヒ免職ハ其職ヲ褫ク

罰俸ニ處シタルトキハ其ノ奪ヘル俸給ト同一ノ比例ニ於テ手當ノ給與ヲ減スルモノトス

第四條 罰俸ハ毎月ノ俸給ヲ控除シテ完納セシム但月俸ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得

ス

罰俸ニ處シタルニ依リ減シタル手當ノ處分ニ就テモ前項ニ同シ

第五條 前諸條ノ外懲戒ニ關シテハ官吏懲戒例ニ依ル

第六條 宮司ハ懲戒ニ處スヘキ事實アリト認メタルトキハ本人ノ手續書ヲ徴シ意見ヲ付シ進達スヘシ

○衛士長衛士副長衛士給與品及貸與品規則

明治三十一年八月十三日  
内務省訓第七一八號

神宮司廳

衛士長衛士副長衛士給與品及貸與品規則左ノ通相定ム

衛士長衛士副長衛士給與品及貸與品規則

第一條 衛士長衛士副長及衛士ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 甲種衣袴
- 一 乙種衣袴
- 一 甲種外套
- 一 乙種外套
- 一 帽

一 長靴

一 短靴

前項ノ外衛士ニ限リ給與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 日覆
- 一 下襟白
- 一 手套白
- 一 靴下
- 一 襦袢袴下

第二條 衛士長衛士副長及衛士ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

- 一 帽章
- 一 肩章
- 一 劍及劍帶
- 一 呼子笛
- 一 手帖
- 一 提燈

第三條 給與品ハ現品ヲ以テ給ス其ノ保存期限ハ左ノ通り之ヲ定ム

- 一 甲種衣袴各一個 二年但衛士長衛士副長ハ三年
  - 一 乙種衣袴各二個 二年但全上
  - 一 甲種外套一個 二年但全上
  - 一 乙種外套一個 二年但全上
  - 一 帽一個 一年
  - 一 日履一個 一年
  - 一 長靴一組 一年但衛士長衛士副長ハ一年六ヶ月
  - 一 短靴二組 一年但全上
  - 一 下襟一個 四ヶ月
  - 一 手袋一組 四ヶ月
  - 一 靴下一組 一ヶ月
  - 一 襦袢袴下一組 六ヶ月
- 第四條 免職轉職若クハ死亡等ノ者アルトキハ其ノ貸與品ハ速ニ之ヲ還納セシムヘシ  
保存期限内ニ在ル給與品モ亦同シ
- 第五條 貸與品又ハ保存期限内ノ給與品ヲ破毀、消費若クハ紛失シタル者アルトキハ職務上止ムヲ得サル事情アリト認ムルモノニ限り代品ヲ給與又ハ貸與シ取扱ノ疎虞

懈怠等ニ出テタルモノナルトキハ代料ヲ徵收シテ代品ヲ給與又ハ貸與スヘシ

第六條 給與品及貸與品ノ修補ハ總テ自辨トス

附則

第七條 給與品及貸與品ニ屬スル費用ハ社費トス

○衛士點檢及訓授規則 明治三十一年十一月十五日 達第三一號

衛士長

衛士點檢及訓授規則左ノ通相定ム

衛士點檢及訓授規則

第一章 通則

第一條 點檢訓授ハ衛士長之ヲ行フ衛士長不在若クハ差支アルトキハ衛士副長ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二條 皇大神宮豐受大神宮ニ於テハ毎朝出勤ノ衛士ニ對シ其他ハ監督巡視ノ際適宜點檢訓授ヲ行フモノトス

第二章 點檢

第三條 點檢ハ衛士ノ人員服裝姿勢禮式及給與品貸與品保存ノ適否ヲ檢査スルモノト

ス

第四條 號令ハ衛士副長ヲシテ之ヲ司ラシム但時宜ニ依リ衛士長自カラ號令司トナル  
コトアルヘシ

第五條 嚮導ハ上席衛士ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 點檢時限ニ至レハ衛士副長又ハ上席衛士呼子笛ヲ鳴シ各衛士ニ點檢ヲ受クル  
ノ準備ヲ爲サシメ號令司ハ「集レ」ノ令ヲ發シ其位置ヲ定ムヘシ

嚮導ハ先ツ列ノ右翼トナルヘキ位置ニ立チ標準ヲ示スヘシ  
各衛士ハ遲滯ナク參集シ身幹ノ順序ニ從ヒ一列ニ整列スヘシ

第七條 點檢ノ順序及號令左ノ如シ

一 「氣ヲ付ケ」

此ノ令ニテ列員ハ活潑ニ直立不動ノ姿勢ヲ爲スヘシ即チ兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ  
着ケ兩足ハ矩形ヨリモ少シク狭ク開キテ同様ニ外側ニ向ケ兩膝ハ凝ラサル様ニ之ヲ伸  
ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ附ケ且ツ少シク前ニ傾ケ兩肩ハ故ラニ張ルコトナク  
後方ニ引キ一樣ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ハ些カニ外側ニ向ケ指ハ輕ク屈メテ  
之ヲ並ヘ小指ハ袴ノ縫目ノ後ロニ當テ頭ハ正シク且ツ自然ニ保チテ頸ヲ真直ニシ思

ハ輕ク頸ニ近ツケ兩眼ハ前面ヲ直視シ地上ヲ見ルコトナシ

二 「番號」

此ノ令ニテ右翼員ハ少シク頭ヲ左ニ向クルト同時ニ番號ヲ唱起シ直ニ正面ニ復シ他  
ハ順次之ニ準ヒテ左翼ニ至ル

三 「右ヘ一準」

此令ニテ其姿勢ヲ崩スコトナク右手ノ拇指ヲ後ロニシ其他ノ四指ヲ整閉シテ前方ニ  
向ケ之ヲ腰骨ノ上部ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ輕ク隣員ノ右翼ニ觸ル、ヲ度トシ頭ヲ右  
轉シ右眼ヲ以テ已レヨリ三番目ノ者ノ胸部ヲ見ル様摺足ニテ敏速ニ右翼ニ準フヘシ  
整頓正シカラサル列員アレハ號令司ハ逐次整頓ヲ正シ「何番後ヘ又ハ前ヘ」ノ令ヲ下  
ス呼ハレタル列員ハ其度ヲ見計ヒ靜カニ整頓線ニ就クヘシ

號令司ハ列員ノ整頓スレハ直ニ左ノ令ヲ下スヘシ

四 「直レ」

此令ニテ列員ハ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ活潑ニ右手ヲ垂下スヘシ

五 「手帖」「名刺」「收メ」

手帖ハ常ニ上衣ノ隱袋ニ收メ置キ「手帖」ノ令ニテ列員ハ右手ヲ以テ手帖ヲ索取シ之  
ヲ左手ニ持チ上衣左側第五鈕ノ下ニ付ケ印章アル所ヲ開披シテ前面ニ出スヘシ

「名刺」ノ令ニテ之ヲ手帖ノ印章アル所ニ出スヘシ

衛士長ハ此時列員ノ前面右翼ヨリ左翼ニ至リ又背後ニ回リテ手帖名刺並姿勢及帽服刀靴ノ着裝保存手入等ノ精粗ヲ點檢シ畢テ舊位ニ復ス

「收メ」ノ令ニテ手帖ヲ閉チ一齊ニ之ヲ收ム

六 「呼子」「收メ」

呼子笛ハ常ニ上衣ノ後口隠袋ニ收メ置キ「呼子」ノ令ニテ右手ヲ以テ呼子ヲ索取シ前項ノ動作ニ依リ前面ニ出シ「發聲」ノ令ニテ右翼員ヨリ順次呼子笛ヲ鳴スハシ但發聲方ハ初メ二度長ク後三度短ク吹クヲ例トス

發聲ノ點檢ハ時々之ヲ行ヒ毎朝行フヲ要セス

「收メ」ノ令ニテ一齊ニ呼子笛ヲ收ム

七 「脱帽」「元ヘ」

此令ニテ右手ヲ以テ帽ノ前庇ヲ摘ミテ之ヲ脱シ垂直ニ提ケ其内部ヲ右股ノ外方ニ對セシムヘシ

脱帽ハ時々之ヲ行ヒ毎朝行フヲ要セス

衛士長ハ此時第五項ノ例ニ依リ頭髮ヲ點檢ス

「元ヘ」ノ令ニテ一齊ニ冠帽ス

八 「休メ」

此令ニテ列員ハ姿勢ト動かサルトニ意ヲ留ムルコトナク片足ヲ舊位ニ置キ其場ニ立チテ休憩ス但休憩中ト雖モ談話スルヲ得ス此時衛士長ハ訓練ヲ爲スヘシ若シ他ノ場所ニ於テ訓練ヲ行フ時ハ本令及次ノ令ヲ要セス

九 「氣ヲ付ケ」

此令ニテ列員ハ第一令ニ同シキ姿勢ヲ取ルヘシ

十 「分レ進メ」

此令ニテ列員ハ一齊ニ行禮シテ解散スヘシ

第八條 刀身ノ點檢ハ毎土曜日ニ之ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ前條第七令ノ次ニ於テ

基準員ヲ示シテ左ノ令ヲ下スヘシ

一 「何歩ニ開ケ一進メ」

此令ハ「何番基準」ト指示シタル上發スルモノニシテ基準員ノ外其儘左(右)向ヲ爲シ駈歩ニテ示サレタル間隔ヲ取り停止シテ右(左)向ヲナスヘシ

號令司ハ整頓正シカラサル列員アレハ之ヲ整正ス

二 「抜ケ一刀」

此拔ケ一ノ豫令ニテ列員ハ姿勢ヲ崩スコトナク左手ヲ以テ鞘ノ鏢元ヲ握リ其拇指ニ



テ鯉口ヲ寬ケ刃方ヲ稍ヤ外方ニ向ケテ少シク鞘尻ヲ上ケ右手ヲ以テ柄ヲ握リ「刀」ノ  
 動令ニテ活潑ニ抜刀シ直ニ刃方ヲ左方ニ向ケ柄頭ヲ腹部中央點ニ當テ刃尖ヲ凡ソ四  
 十五度ニ下ケ肘ヲ體ニ付ケ之ヲ支持シ點檢官正面ニ來リ一面ノ檢査ヲ終リタルトキ  
 靜ニ刃方ヲ右方ニ轉回シ其通過ヲ待チテ元ニ復スヘシ  
 衛士長ハ列員ノ前面右翼ヨリ左翼ニ至リ又背後ニ回リテ刀ノ手入レノ精粗ヲ點檢シ  
 畢テ舊位ニ復ス  
 三「收メー刀」

此收メーノ令ニテ刀身ヲ鞘ニ收メ鏢元凡ソ二寸ヲ餘シ置キ「刀」ノ動令ニテ一齊ニ全  
 ク收ムヘシ

四「集レ」

此令ニテ列員ハ直ニ基準員ノ方ニ向ヒ駢歩ニテ集リ敏捷ニ整頓スヘシ

第三章 訓練

第九條 衛士長ハ衛士ヲシテ實務ニ習熟シ執行ノ周到正確ヲ保タシムル爲メ職務上緊  
 要ノ法規及事項又ハ當日特ニ注意スヘキ要件若クハ事實ニ付執行ノ方法又ハ心得等  
 ヲ教示シ又ハ質議ニ對シテ訓示シ若クハ問ヲ發シテ之ニ應答セシムルモノトス

第十條 訓練ノ際ニハ衛士ヲシテ前日執行ノ事件ヲ簡明ニ申告セシメ其當否ヲ指示ス

ヘシ

第十一條 訓練ヲ受クル者ハ第七條第一令ニ同シキ姿勢ヲ取り訓練者ノ方ニ正面シ應

答スヘシ

第十二條 訓練ノ事項ハ訓練簿ニ記載シ置キ大宮司ノ檢閱ニ供スヘシ

○衛士帶劍心得 明治三十二年十一月二十九日  
達第三二號

衛士長衛士副長衛士

衛士帶劍心得別紙之通定ム

衛士帶劍心得

第一條 職務上正服ヲ着用シタルトキハ必帶劍スヘシ

第二條 帶劍ノ時ハ容姿ヲ正シ劍ノ柄頭ヲ前ニシ若シ劍ヲ垂下シタルトキハ其柄頭ヲ

握ルヘシ

第三條 拜賀儀式上ノ參拜及ヒ最敬禮ノトキハ劍ヲ垂下シ其他ハ總テ劍脊部ノ鍔ヲ劍

帶ノ鈎金ニ掛クヘシ

第四條 革帶ハ上衣ノ上ニ締メ外套ヲ着シタルトキハ柄頭ノミ其外部ニ現スヘシ

第五條 帶劍ハ左ノ場合ノ外決シテ拔劍スルコトヲ得ス

- 一 神地内ニ於テ兇器ヲ持シ暴行ヲ爲ス者アルニ當リ他ニ防禦若クハ保護ノ手段ナキトキ
  - 一 犯罪人逮捕ニ際シ渠レ兇器ヲ持シ抗拒スルニ當リ他ニ防禦ノ手段ナキトキ
  - 第六條 前條ノ場合ニ於テ不得已拔劍スト雖トモ兇人畏服ノ模様アルトキハ穩ニ取押ヘ決シテ勢ニ乘シ殺傷スル等ノコトアルヘカラス且誤テ關係ナキ者ニ負傷セシメサル様注意スヘシ
  - 第七條 拔劍シタルトキハ兇人ヲ傷スルト否トニ拘ラス其情況ヲ速カニ衛士長ニ申告シ衛士長ハ大宮司ニ具申スヘシ
  - 第八條 劍及ヒ革帶ハ常ニ丁寧ニ保存シ金屬ノ部分ニ錆銹ヲ生セシメサルハ勿論破損セサル様注意スヘシ
  - 第九條 劍ハ室内ノ豫テ定メアル場所ニ置クヘシ
- 衛士長衛士副長衛士ノ服務ニ關シ規程ヲ設ケルノ件 明治三十一年九月十日 内務省訓第七九五號  
神宮司廳
- 衛士長衛士副長衛士ノ服務ニ關シ本大臣ニ於テ定ムルモノノ外適宜規程ヲ設ケ本大臣ノ認可ヲ請クヘシ

明治三十二年十月三十一日訓第九四號ニ據リ修正ス

○衛士長衛士副長衛士旅費規程 明治三十一年八月二十九日 内務省訓第七六二號  
神宮司廳

- 衛士長衛士副長衛士旅費規程左ノ通相定ム
- 衛士長衛士副長衛士旅費規程
- 第一條 衛士長衛士副長衛士ノ旅費ハ第二條ニ定ムル場合ノ外第一號表ニ依ル
- 第二條 衛士長衛士副長衛士神宮所轄地ヘ旅行スルトキハ其旅費ハ第二號表ニ依ル
- 第三條 本規程ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

第一號表

區別	瀛車 <small>一哩ニ付</small>	船賃 <small>一海里ニ付</small>	車馬賃 <small>一里ニ付</small>	宿泊料 <small>一夜ニ付</small>	日當 <small>一日ニ付</small>	食卓料 <small>一日ニ付</small>
衛士長	四錢	四錢	十五錢	一圓	五十錢	九十錢
衛士副長	四錢	四錢	十五錢	一圓	五十錢	九十錢
衛士	參錢	參錢	十錢	七十錢	三十錢	五十錢

第二號表

衛士長衛士副長衛士旅費規程

區別	瀧車賃 <small>一哩</small>	車馬賃 <small>一里</small>	宿泊料 <small>一夜</small>	日當 <small>一日</small>
衛士副長	參錢	十二錢	六十錢	四十錢
衛士	二錢五厘	十錢	四十錢	三十錢

○瀧原宮、伊雜宮見張所詰衛士日當并宿泊料ノ件 明治三十三年十二月二十九日 達第五三號

瀧原宮及伊雜宮見張所詰トシテ出張衛士日當支給額並宿泊料ノ件左ノ通伺定メ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

但事故ニ依リ宮中へ宿泊セシムルコトアルトキハ本年六月達第六號ニ據ル一 日當金貳拾五錢宿泊料ハ支給セス

○神宮消防規程 明治三十五年二月二十八日 達第一四號

神宮消防規程左ノ通相定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

但明治三十二年八月達第一六號神宮消防組規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

神宮消防規程

第一條 皇大神宮豐受大神宮域内及所屬神地内ノ消防ニ備フル爲メ神宮司廳ニ足留人夫ヲ置キ神宮消防夫ト稱ス

第二條 消防夫ハ八十一名ヲ以テ定員トシ内四名ヲ小頭ニ充テ左ノ通配置ス

甲部

皇大神宮附

消防夫小頭

一名

消防夫

四十名

乙部

豐受大神宮附

消防夫小頭

一名

消防夫

二十五名

丙部

瀧原宮附

消防夫小頭

一名

消防夫

六名

丁部

伊雜宮附

消防夫小頭

一名

消防夫

六名

第三條 消防夫ハ成年ノ男子ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナク身體強壯ニシテ滿二年以上其地方ニ居住ノ者ヲ採用ス

第四條 消防夫指揮監督及蒸氣機關運轉整理ノ爲メ左ノ職員ヲ置ク

監督長

監督副長

監督

機關長

機關係

調馬係

監督長ハ衛士長監督副長ハ衛士副長監督ハ衛士ヲ以テ之ニ充テ機關長機關係調馬係ハ監督中ヨリ選抜シ大宮司之ヲ命ス

第五條 監督長ハ大宮司ノ命ヲ承ケ消防ノ指揮監督及部下ノ勤怠賞罰ヲ監視シ其他消防ニ關スル一切ノ事ヲ掌ル

第六條 監督長ハ消防夫ノ命免ヲ大宮司ニ具申ス

第七條 監督副長ハ監督長ヲ佐ケ監督長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第八條 監督ハ監督長ノ指揮ヲ承ケ諸務ニ從事シ正副監督長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

代理ス

機關長機關係及調馬係ハ前項ノ外監督長ノ指揮ヲ承ケ機關ノ運轉整理保存及馬匹練習等ノ諸務ニ從事ス

第九條 小頭ハ監督以上ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ召集其他ノ事務ニ從フ

第十條 消防夫ハ火災ノ警鐘アルトキハ各受持部内ノ衛士見張所ニ駆付上長ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十一條 監督ハ前條駆付一番ノ者ヲシテ直ニ火元ニ到リ左ノ事項ヲ取調ヘシメ甲、乙部ハ神宮司廳及參集所ニ丙、丁部ハ各所屬ノ宿衛屋ニ其狀況ヲ急報スヘシ

火元ノ町村名燒燬物ノ種類及可成其所有主ノ氏名別宮並ニ攝末社所在地ナラハ其距離及危險ノ有無等

第十二條 地方ノ火災ト雖モ必要ヲ認メタルトキハ監督長ヨリ大宮司若クハ齋宿員ニ

申告シ地方消防組ニ應援スヘシ

丙、丁部ハ監督ヨリ宿衛屋詰員ニ合議シ前項ノ處置ヲ施スヘシ

丙、丁部ハ監督ヨリ宿衛屋詰員ニ合議シ前項ノ處置ヲ施スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ警察官吏ニ合議スルコトヲ要ス  
 第十三條 監督長ハ毎年二回消防夫ヲ召集シ紀律ノ保持及技術ノ成績器具ノ手入保存等ヲ點檢スヘシ

監督ハ毎月二回蒸氣唧筒ノ火入演習ヲ爲シ其成績ヲ檢スヘシ

第十四條 唧筒其他器具ハ使用ノ都度監督若クハ消防夫ヲシテ十分掃除手入ヲ爲サシメ破損等アラハ監督長書面ヲ以テ速ニ修繕若クハ新調ヲ請求スヘシ

第十五條 消防夫ニハ左ノ物品ヲ貸與ス

提灯、頭巾、法被、帶、股引、刺子半纏(唧筒一臺ニ付二着ニ限ル但筒先用)

第十六條 消防夫ニハ左ノ足留料及駝付手當等ヲ給ス

足留料	
甲、乙部	
消防夫小頭	一ケ年 金八圓
消防夫	一ケ年 金五圓
丙、丁部	
消防夫小頭	一ケ年 金四圓
消防夫	一ケ年 金參圓

駝付手當

甲、乙部

一番駝付	金五拾錢
二番駝付	金參拾錢
三番駝付	金貳拾錢

丙、丁部

一番駝付	金參拾錢
蠟燭草鞋及辨當料	一人ニ付一度 金拾錢

但長時間ニ涉ルトキハ二度分又ハ現品ヲ適宜ニ給與スルコトアルヘシ

第十七條 消防中衆ニ超エ盡力シ又ハ勤務ノ爲メ死傷セシ者ニハ左ノ金額ヲ給與ス

賞與金	五圓以下
祭糝料	拾圓
遺族扶助金	五拾圓
癈疾扶助	自由ヲ辨スル能ハサル者 五拾圓
傷痍手當	身體ヲ殘弱シタル者 參拾五圓
療治料	休業中一日參拾錢
	入院料又ハ藥價ノ實費

第十八條 賞與及死傷手當ヲ給スヘキモノト認メタルトキハ其事實ヲ詳明シ死傷ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ監督長之ヲ具申スヘシ

第十九條 消防夫ニシテ監督ノ指揮ニ違背シ又ハ粗暴ノ所行ヲ爲シ其情重キモノハ解免ス

第二十條 定期及臨時若クハ風水災等警戒防禦ノ爲メ消防夫ヲ召集シタル場合ニ於テハ第十六條十七條ヲ適用ス

第九類

神宮皇學館

○神宮皇學館職制 明治三十一年十二月二十九日  
達第三四號  
神宮皇學館職制別紙之通り改定本日ヨリ施行ス

神宮皇學館職制

第一條 神宮皇學館ニ左ノ職員ヲ置ク

- 總裁 一人
- 館長 一人
- 副館長 一人
- 教監 一人
- 教頭 一人
- 幹事 一人
- 教授 十人
- 助教授 十人
- 學生監 三人

書記 二人

- 第二條 總裁ハ神宮祭主ヲ推戴スルモノトス
- 第三條 館長ハ神宮大宮司副館長ハ神宮少宮司之ヲ兼ス
- 第四條 教監教頭幹事教授ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ神宮大宮司之ヲ進退ス
- 第五條 助教授學生監書記ノ進退ハ神宮大宮司之ヲ專行ス
- 第六條 教監ハ教育上經驗ニ富ミ學識名望アルモノニ囑託シ本館教育ニ關シ館長ノ諮問ニ應シ意見ヲ陳ヘシム
- 第七條 教頭ハ教授ヨリ之ヲ兼テシム幹事ハ神官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第八條 館長ハ内務大臣指令ノ範圍内ニ於テ館務ヲ掌理シ職員ヲ統督ス
- 第九條 副館長ハ館長ノ職掌ヲ佐ケ館長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
- 第十條 教頭ハ館長ノ命ヲ承ケ教務ヲ整理シ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ教室ノ秩序ヲ保持ス
- 但時宜ニ依リ教頭ヲ置カス上席教授ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
- 第十一條 幹事ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務財務ヲ掌理ス
- 第十二條 教授ハ館長及教頭ノ指揮ヲ承ケ各學科ヲ分擔シ學生ノ教授ヲ掌ル
- 第十三條 助教授ハ教授ノ職掌ヲ助ク

第十四條 學生監ハ館長ノ命ヲ承ケ寮務ヲ幹理シ寄宿生及通學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十五條 書記ハ上長ノ命ヲ承ケ教務庶務財務ニ從事ス

附則 本制施行ノ日現在職員ハ其職ヲ解カレタルモノトス

○神宮皇學館規則 明治三十二年八月三十一日 達第一七號

神宮皇學館規則別紙之通改正シ來九月一日ヨリ施行ス

神宮皇學館規則

第一章 總則

- 第一條 本館ハ皇學ヲ教授シ併セテ其ノ研究及應用ニ須要ナル學科ヲ修メシムル所トス
- 第二條 本館ニ本科專科ノ二科ヲ置ク
- 第三條 本科ハ專ラ高等ノ學科ヲ授ケ專科ハ簡易速成ヲ欲スル者ノ爲ニ置ク
- 第四條 修業年限ハ本科ヲ四年トシ專科ヲ三年トス
- 第五條 本館職制及職員定數ハ別ニ之ヲ定ム

明治三十四年一月二十四日達第三號同三十五年一月九日達第一號ニ據リ修正ス

第六條 本館學生ハ本科百名専科六十名ヲ以テ定員トス  
 第七條 本館事務分掌及學生取締ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學科

第八條 本科ノ學科ハ倫理、歷史、法制、文學、哲學、禮式、體操ノ七科トス

第九條 専科ノ學科ハ倫理、歷史、法制、文學、算術、簿記、禮式、體操ノ八科トス

第十條 各學科ノ程度及授業時間ノ配當左ノ如シ

本科學科課程表

學科	學年	第一 年	第二 年	第三 年	第四 年	學年	
						數	時
倫理	人倫道德ノ要旨	一	同	同	同	一	同
		數	時	數	時	數	時
歷史	內國史	上古史	中上古史	近古史	神祇 近世史 今代史	四	五
		數	時	數	時	數	時
外國史	南北朝以前 隨唐宋史 元明清史 最近史	六	五	五	五	五	五
		數	時	數	時	數	時

法	文	學	哲	禮	體	學年	
						數	時
法制	國文	漢文	英文	心論 理學	兵式 劍式	二	同
						數	時
神祇制度	釋義 撰集ノ類	作文 作歌	釋義 撰集ノ類	倫理學	同上	二	同
						數	時
武家法制	文學史	作文 作歌	釋義 撰集ノ類	倫理學	同上	二	同
						數	時
憲行神社法	文學史	作文 作歌	釋義 撰集ノ類	哲學總論	同上	二	同
						數	時



每週  
時間  
合計

三三

三三

三三

三三

專科學科課程表

算術	學文		法制	史	歷	倫理	學科	
	漢文	國文					第一年	第二年
分數 迄二比 例迄二 開平開立求積迄二	釋義 平易ナル漢文	語法 初歩 作文	古代制度ノ一班	支那史	內國史ノ大要	人倫道德ノ要旨	二	二
	六	六	三	四	五	二	同	同
	六	六	同	上	二	上	一	一
	釋義 稍高尙ナル漢文	語學 祝詞日記 草紙ノ類 作文	四	萬國史	六	同	同	同
	五	六	現行神祇制 社法度	二	上	上	一	一
	釋義 同	語學 宣命草紙 萬葉ノ類 作文	四	史	六	上	一	一
	上	六		二	上	一	一	一
	五	六		二	六	一	一	一

每週 時間 合計	體操	禮式	簿記	單式		複式	
				式	一	式	一
一三	兵擊			祭	式	同	上
	劍式			式	一	同	上
	三			同	一	同	上
一三							
一三							
一三							

第三章 學年學期及休業

第十一條 學年ハ四月十一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十二條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月十一日ヨリ七月二十日ニ至リ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第三學期ハ翌年一月十一日ヨリ三月三十

一日ニ至ル

第十三條 休業期日ハ左ノ如シ

夏期休業

冬期休業

春期休業

(七月二十一日ヨリ  
八月三十一日マテ)

(十二月二十五日ヨリ  
翌年一月十日マテ)

(四月一日ヨリ  
全月十日マテ)

神宮祭日

大祭祝日

日曜日

第四章 入學及退學

第十四條 募集ハ毎年一回學年ノ終ニ於テシ期日及人員ハ其ノ都度新聞紙若クハ其ノ他ノ方法ヲ以テ廣告ス

但時宜ニ依リ臨時募集スルコトアルヘシ

第十五條 本科第一年級ニ入學スルコトヲ得ヘキモノハ各府縣中學校ヲ卒業セルモノ

若クハ年齡滿十七歲以上ニシテ第十七條ノ入學試驗ニ及セル者ニ限ル

第十六條 專科第一年級ニ入學スルコトヲ得ヘキモノハ高等小學校ヲ卒業セルモノ又

ハ各府縣中學校第二年級以上ノ課程ヲ修了シタルモノ若クハ年齡滿十五歲以上ニシ

テ第十八條ノ入學試驗ニ及セルモノニ限ル

第十七條 本科第一年級ニ入學セント欲スル者ノ入學試驗科目ハ左ノ如シ

一 倫理

一 內國史

一 外國史

一 國文

一 漢文

一 英語

一 地理地文

一 數學

一 理科

一 習字

一 圖畫

一 體操

博物 物理 化學

但中學校卒業ノ程度ニ依ル

第十八條 專科第一年級ニ入學セント欲スル者ノ入學試驗科目ハ左ノ如シ

一 修身

一 內國史

一 外國史

一 讀書作文

一 地理

一 算術  
一 習字

但高等小學校卒業ノ程度ニ依ル

第十九條 本科又ハ專科ノ第二年級以上ニ入ラント欲スルモノニハ先第十七條又ハ第十八條ノ試験ヲ受ケシメ更ニ志願ノ年級ニ至ルマテノ各年級ノ課目ニ付キ試験ヲ受ケシム

但其最上級ニ入ルコトヲ許サス

第二十條 各府縣中學校及之ト同等以上ト認定セラレタル學校ノ三年級以上ノ者ニシテ專科一年級以上ニ入ラント欲スル者ハ履修證書若クハ其學校ノ證明書ヲ有スルモノニ限リ試験ヲ要セス之ニ該當スル年級ニ入學セシム

但最上級ニ入ルヲ許ササルコト前條ニ同シ

第二十一條 本科學科ノ一科目若クハ數科目ヲ選修セント欲スルモノアルトキハ選修科生トシテ入學ヲ許ス

但之ニ關スル規程ハ別ニ定ム

第二十二條 入學者ハ總テ本館ノ体格検査ニ合格シタルモノタルヘシ

第二十三條 入學志願者ハ學業履歷書ヲ添ヘ左ノ願書ヲ差出スヘシ

入學願書

某 儀

御館何科第何年級へ入學仕度候ニ付(試験、上)御許可相成度履歷書相添此段奉願候也

何府縣何郡市何區町村大字何々番地

何族某子弟

年月日

氏 名 實印

本館長氏名宛

但師範學校中學校卒業ノモノハ卒業試験點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書ヲ添付シ師範學校卒業ノモノニアリテハ別ニ服務義務終了ニ關スル地方長官ノ證明書ヲ添付スヘシ

第二十四條 入學志願者ニシテ試験ヲ要スルモノハ受験料トシテ金五拾錢ヲ本館會計係へ納ムヘシ

但第十九條ニ據リ試験ヲ受クルモノハ每年級ニ金貳拾錢ノ受験料ヲ遞加ス

第二十五條 入學試験ノ評点ハ第五十四條ノ例ニ準ス

第二十六條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ身元保證人ヲ定メ左ノ在學證書ヲ差出スヘシ但保證人ハ二名ニシテ一名ハ其父兄又ハ親族一名ハ宇治山田町内ニ住シ共ニ土地

若クハ家屋ヲ有スル公民又ハ本館ニ於テ適當ト認ムルモノニ限ル  
在學證書 (二錢印紙貼用)

何府縣何國何郡市何區町村大字何々番地何族某子弟

氏名

何年何月何日生

右者今般入學御許可相成候ニ付テハ本人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受  
可申候依テ茲ニ保證仕候也

何府縣何國何郡市何區町村大字何々番地何族某父兄又ハ親族

保證人 氏名 實印

三重縣度會郡宇治山田町大字何々番地何族

保證人 氏名 實印

本館長氏名宛

第二十七條 保證人ハ其町村長ノ身元證明書ヲ在學證書ニ添フルヲ要ス

但本館ニ於テ適當ト認ムルモノハ此限ニアラス

第二十八條 保證人一ヶ月以上他府縣へ旅行セントスルトキハ其旨本館へ届出ツヘシ

第二十九條 保證人轉居又ハ改印等ヲナシタルトキハ速ニ本館へ届出ツヘシ死去若ク

ハ第二十六條但書ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ十日以内ニ本館へ届出  
ツヘシ

第三十條 左ノ數項ノ一以上ノ事實アルモノハ退學ヲ命ス

一 正當ノ理由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタルモノ又ハ何等ノ名義ヲ以テス  
ルモノ一ヶ年以上缺席シタルモノ

二 學業懈怠ニシテ學年試驗ニ落第二回ニ及フモノ

三 授業料ノ納付ヲ怠リ督促數回ニ及フモ尙其義務ヲ盡ササルモノ

四 學力劣等體質虛弱又ハ疾病等ニヨリ成業ノ目的ナキモノ

第三十一條 學年試驗ニ昇級セサルモノニシテ次學年始業後一週間以上無届出席セサ  
ルモノハ退學者ト見做シ除名ス

第三十二條 疾病又ハ止ヲ得サル事故ニヨリ退學セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ保  
證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第五章 特待生 貸費生 館費生

第三十三條 本科專科ヲ通シ學術優等品行方正ナルモノアルトキハ特待生トシ授業料  
ヲ免除ス

第三十四條 本科生中學術優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノハ其志望ニヨリ

貸費生トシテ一ヶ年金六拾圓以内ノ學費ヲ貸與ス

第三十五條 新ニ本科ニ入學スル者ニシテ第十五條ノ無試験入學ノ資格ヲ有シ其卒業セル學校長ノ證明(學業品行ニ關スル)アルモノ及其資格ナキモノモ第十七條ノ入學試験ニ於テ成績優等且品行方正ナルモノニシテ學費支辨ノ途ナキモノハ其志望ニヨリ特ニ貸費生ニ採用スルコトアルヘシ

第三十六條 前條ノ志望者一時ニ定員ニ超過スルトキハ左ノ試験ヲ行ヒ之ヲ選拔ス

- 一 國文
- 一 國史
- 一 漢文
- 一 英語

第三十七條 貸費ヲ志望スルモノハ市町村長ノ與書アル財産調書ヲ添ヘ左ノ願書ヲ差出スヘシ

貸費願書

某儀

學費支辨ノ途無之候ニ付御館貸費生ニ御採用被成下度依テ別紙財産調書相添此段奉願候也

本館長氏名宛

本科第何年級(新入學生ハ入學願書ノ頁書ニ準スヘシ)  
氏名 實印

第三十八條 本科卒業生中俊秀ナルモノアルトキハ其ノ志望ニヨリ館費生トシテ連月金拾貳圓以内ノ學費ヲ給シ更ニ高等ノ學校ニ入ラシムルコトアルヘシ

第三十九條 特待生、貸費生、館費生ノ資格ハ每學年ノ終若クハ始ニ教員會議ヲ經テ館長之ヲ選定ス

但館費生ノ資格ニ限リ臨時行フコトアルヘシ

第四十條 貸費生又ハ館費生ニ選定セラレタルモノハ保證人二名ト連署シ貸費生ハ左ノ甲號誓約書、館費生ハ乙號誓約書ヲ差出スヘシ

但保證人ノ資格及之ニ關スル手續ハ第二十六條但書及第二十七條第二十九條ヲ適用ス

(甲號) 誓約書 (二錢印紙貼用)

私儀今般御館貸費生ニ御採用被成下候ニ付テハ貸費規約ヲ遵奉シ卒業ノ上ハ就職後俸給額ノ十分ノ一以上毎月賦ヲ以テ御返納可仕依テ此段誓約仕候也

本科第何年級

年月日

氏名 實印

右何某今般御館貸費生ニ御採用被成下候ニ付テハ右誓約書ノ通り本人ヲシテ卒業後ニ於ケル學資返納ノ義務ヲ履行セシムヘキハ勿論萬一中途退學若クハ其他ノ事故ノ爲メ學資償還ヲ命セラルルコト等アルトキ本人ニ於テ其義務ヲ相怠候節ハ私共ニ於テ必辨償可仕依テ此段保證仕候也

原籍住所

保證人

氏名 實印

原籍住所

保證人

氏名 實印

本館長氏名宛

(乙號) 誓約書 (二錢印紙貼用)

私儀今般御館館費生ニ御撰被成下候ニ付テハ館費規約ヲ遵奉シ成業ノ上ハ學資ノ給與ヲ受ケタル年數ト均シキ年限内御館ノ教務ニ従事可仕依テ此段誓約仕候也

原籍住所

卒業生

氏名 實印

年月日

右何某今般御館館費生ニ御撰被成下候ニ付テハ右誓約書之通り本人ヲシテ其義務

ヲ履行セシムヘキハ勿論萬一半途廢學若クハ其他ノ事故ノ爲メ學資償還ヲ命セラルルコト等アルトキ本人ニ於テ其義務ヲ相怠候節ハ私共ニ於テ必辨償可仕依テ此段保證仕候也

原籍住所

保證人

氏名 實印

原籍住所

保證人

氏名 實印

本館長氏名宛

第四十一條 貸費生ニシテ其學年間ニ於ケル學業品行ノ成績不良ナルトキハ貸費ヲ停止ス

第四十二條 特待生、貸費生ニシテ第六十一條ニ據リ處分セラレ若クハ第三十條一項二項及第三十一條第三十二條ノ事故アルトキハ共ニ其資格ヲ解キ貸費生ハ從來貸與シタル資金ヲ即時ニ償還セシム

第四十三條 館費生ニシテ半途廢學シ若クハ其品位ヲ毀損スル等ノ行爲アルトキハ從來支給シタル學資ヲ即時ニ償還セシム

第四十四條 貸費生館費生ノ學資返納及之ニ關スル義務細則ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 進級及卒業

第四十五條 學生ノ進級ハ試験ノ評點ニ依リ之ヲ定ム

第四十六條 試験ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 臨時試験
- 二 學期試験
- 三 學年試験

第四十七條 臨時試験ハ現ニ履修中ノ學科ニ付キ受持教員ノ見込ヲ以テ臨時ニ之ヲ行フモノトス

第四十八條 學期試験ハ第一學期第二學期ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第四十九條 學年試験ハ每學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

但本科第四年ノ終ニ行フ學年試験ハ卒業論文ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十條 試験ノ評點數ハ各課目一百點ヲ以テ最高點トス

第五十一條 各課目ノ學年評點數ハ前兩學期ノ評點平均數ノ二倍ニ學年試験ノ點數ヲ加ヘ三除シテ得タルモノトス

第五十二條 試験ノ平均點數ハ總課目ノ評點數ヲ合算シ課目ノ數ヲ以テ除シテ得タルモノトス

第五十三條 最終學年試験ノ評點數ハ前每學年ノ評點數ト其學年ノ評點數トヲ合セ學年ノ數ヲ以テ除シテ得タルモノトス

モノトス

第五十四條 每學年ノ終ニ於テ左表ニ依リ學生ノ及落ヲ定ム

諸課目評點平均數	學年評點六十未滿ノ課目數	要件	處分
六十以上	無	最下點五十以上	及第
同	一	最下點五十未滿	落第
同	一	最下點四十以上ニシテ學年試験點數或ハ學期評點平均數六十以上ナルトキハ	及第
同	二	最下點五十以上	及第
同	二	最下點五十未滿	落第
同	二	最下點四十以上ニシテ之ニ次クモノ五十以上ニシテ二課目共ニ學年試験點數或ハ學期評點平均數六十以上ナルトキハ	及第
同	三		落第
六十未滿			落第

五十未滿

退學

第五十五條 疾病其他不得止事故ノ爲メ學期及學年試驗ニ缺席シタルモノハ教員ノ見込ニヨリ補缺試驗ヲ行フコトアルヘシ

第五十六條 學年試驗ニ合格シタルモノニハ進級證書ヲ與ヘ全學科ヲ卒業シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第七章 授業料

第五十七條 授業料ハ本科ハ一ケ年金拾壹圓專科ハ金五圓五拾錢トス

第五十八條 授業料ハ拾壹圓ニ分割シ暑休ノ月(八月)ヲ除キ毎月本科ハ金壹圓宛專科ハ金五拾錢宛納付セシム

第五十九條 授業料ハ毎月五日(二月四月ハ十五日)ニ本館會計係ヘ納ムヘシ

但當日休日ナルトキハ翌日納ムヘシ

第六十條 授業料ヲ定日迄ニ納付セサルモノアルトキハ之ヲ保證人ヨリ徴收シ又ハ時宜ニヨリ教場ニ入ルヲ許ササルコトアルヘシ

第八章 罰則

第六十一條 館則若クハ其他ノ命令規則ニ背戾シ又ハ本館ノ學生タル体面ヲ汚スモノハ其情狀ニヨリ懲罰ス其懲罰ヲ分チ左ノ三種トス

一 戒飾

二 停學

三 放校

第九章 寄宿寮

第六十二條 寄宿寮ヲ置キ學生ヲシテ寄宿セシム

第六十三條 寄宿寮規則ハ別ニ之ヲ定ム

附則

一 文部省令第二十五号第一條ノ取扱ヲ受クルモノニハ本科學科課程中第四年ニ於テ實地授業ノ一科ヲ授クヘシ

一 本科四年ノ終ニ行フ學年試驗ヲ以テ卒業試験トス

一 文部省令第二十五号第一條ノ取扱ヲ受クルモノニハ第十九條ノ試験及第四十九條ノ但書ヲ適用セス  
○文部省令第二十五号第一條ハ本館未尾参照ニ載ス

○神宮皇學館選修科規定 明治三十四年一月二十四日 達第四號

神宮皇學館選修科規定左ノ通相定ム



明治三十五年一月九日  
達第二號ニ  
據リ修正ス

神宮皇學館選修科規定

- 第一條 選修科ニ入ルコトヲ得ヘキ者ハ本館專科卒業生及第二條ノ入學試験ニ合格シタルモノニ限ル
- 但專科卒業生ト雖在學中履習セサル學科ヲ選フモノハ其學科ニ限リ試験ヲ行フ
- 第二條 選修科ノ入學試験ハ本科入學試験ノ程度ニ準シ其選修セント欲スル學科目ニツキ之ヲ行フ
- 第三條 選修科生ニハ其選修科目ノ何タルヲ問ハス体操ノ一科ハ必之ヲ修メサル事ヲ得ス
- 第四條 選修科目ハ左ノ如シ
  - 一 倫理
  - 一 內國史
  - 一 外國史
  - 一 法制
  - 一 國文
  - 一 漢文
  - 一 英文
  - 一 哲學
  - 一 禮式
- 第五條 選修科ノ科業ハ本科生ト同時ニ之ヲ授ク
- 第六條 幾科目ヲ選修スルモ學年試験ノ評點平均六十點以上ヲ以テ及第トス  
但一科目五十點未滿ノモノアルトキハ落第トス
- 第七條 選修科授業料ハ本科授業料ノ半額トス

明治三十五年二月二十八日達第一號ニ據リ修正ス

第八條 本規定ノ外本科專科規則ヲ準用ス

但該規則第五章貸費生及館費生ニ關スル事項ハ此限ニアラス

○神宮皇學館館務分掌規程 明治二十九年三月二十七日  
達第九號

神宮皇學館館務分掌規程左ノ通定メ本年四月一日ヨリ施行ス

但客年達第一五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

神宮皇學館館務分掌規程

- 第一條 館務ヲ分チ教務庶務寮務ノ三部トス
- 第二條 教務部ニ教務係、圖書係、庶務部ニ庶務係、會計係、寮務部ニ寮務係ヲ置ク
- 第三條 教務部ハ教頭之ヲ管理シ庶務部ハ幹事之ヲ監理シ寮務部ハ上席學生監之ヲ監理ス
- 第四條 教務部庶務部ノ係員ハ書記ヲ以テ之ニ充テ寮務部ハ學生監ヲ以テ之ニ充ツ  
但教授助教ヲ以テ兼テシムルコトアルヘシ
- 第五條 館務ノ都合ニヨリ備員ヲシテ各係ノ事務ヲ補助セシムルコトアルヘシ
- 第六條 各部各係ノ擔任スヘキ要項ハ左ノ如シ  
教務部

教務係

- 一 教室及日課配當ニ關スル事
- 二 試業及成績表ニ關スル事
- 三 學生ノ學級進退及卒業ニ關スル事
- 四 學生ノ入學退學及賞罰調査ニ關スル事
- 五 學生ノ品行及勤惰ニ關スル事
- 六 學生ノ修學旅行及運動等ニ關スル事
- 七 學生ノ學籍ニ關スル事
- 八 教室備付物品ヲ監守スル事
- 九 教室ニ關スル一切ノ事項

圖書係

- 一 圖書ノ保存、出納整頓ニ關スル事
- 二 圖書目錄編纂ニ關スル事
- 三 圖書貸付ニ關スル事
- 四 圖書購入及拂下手續ニ關スル事
- 五 前各号ノ外圖書ニ關スル一切ノ事項

庶務部

庶務係

- 一 館長印及館印ヲ監守スル事
  - 二 職員ノ服務ニ關スル事
  - 三 文書ノ起案及往復記錄編纂ニ關スル事
  - 四 各係成案ノ回議ヲ審査スル事
  - 五 願伺届ニ關スル事
  - 六 一覽、年報、官報、報告ニ關スル事
  - 七 宿直ニ關スル事
  - 八 館内衛生ニ關スル事
  - 九 備付物品ヲ監守スル事
  - 十 他係ニ屬セサル一切ノ事項
- 會計係
- 一 豫算及決算ニ關スル事
  - 二 物品ノ購入及賣却ニ關スル事
  - 三 金錢收出ニ關スル事

- 四 物品ノ出納ニ關スル事
- 五 金錢物品ノ諸帳簿調製ニ關スル事
- 六 前各号ノ外會計ニ關スル一切ノ事項  
察務部
- 察務係
- 一 學生ノ入寮、退寮及下宿、旅行等ニ關スル事
- 二 學生取締ニ關スル事
- 三 寄宿生學資保管及出納ニ關スル事
- 四 寄宿生食料ニ關スル事
- 五 食堂、浴室及盥嗽場ニ關スル事
- 六 物品貸付ニ關スル事
- 七 賄方ノ取締及進退ニ關スル事
- 八 寄宿寮備付物品ヲ監守スル事
- 九 寮内衛生ニ關スル事

○神宮皇學館職員俸給規程 明治二十九年三月十二日 達第五號

明治三十年  
一月十九日  
達第五號  
五月十七日  
達第一九號  
ニ據リ修正  
ス

神宮皇學館職員俸給規程左之通定メ本年四月一日ヨリ施行ス

神宮皇學館職員俸給規程

第一條 教授ノ俸給助教、學生監及書記ノ俸給ハ之ヲ別テ共ニ八級トシ教授ノ俸給ハ第一號表助教、學生監、書記ノ俸給ハ第二號表ニ依ル

年俸等級

職名	年俸等級	
	上	下
一級	千二百圓	千圓
二級	千圓	八百圓
三級	八百圓	七百圓
四級	七百圓	六百圓
五級	六百圓	五百圓
六級	五百圓	四百圓
七級	四百圓	三百圓
八級	三百圓	

第二號表

年俸等級

職名	年俸等級
助教、學生監、書記	一級 三百五十四圓
	二級 三百十圓
	三級 二百七十圓
	四級 二百四十圓
	五級 二百十圓
	六級 百八十圓
	七級 百五十圓
	八級 百二十圓

第二條 教授、助教授ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ一號表二號表

ニ掲クル俸給等級相當ノ額ヲ減少スルコトヲ得

第三條 年俸ハ十二分シテ毎月二十三日之ヲ支給ス

但休日ニ當ルトキハ順延トス

第四條 俸給ハ新任、増俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第五條 退職及死去ノトキハ當月分俸給ノ全額ヲ其際支給ス

第六條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノ

トス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

第七條 退職者事務引繼殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ職務ニ從事スルトキハ其間尙從

前ノ俸給ヲ支給ス

第八條 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサル

コト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給月額ノ半額ヲ減ス

但職務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此限ニアラス

第九條 事務引繼殘務調理ノ爲メ翌月以後ニ涉リ全月分ヲ支給スルモノハ第三條ノ支

給定日ニ依ル

但最後ノ月ハ日割ヲ以テ事務終了ノ日迄ヲ其際支給ス

○神宮皇學館職員退職死亡賜金規程 明治二十九年三月十二日 達第六號

神宮皇學館職員退職死亡賜金規程左之通定メ本年四月一日ヨリ施行ス

神宮皇學館職員退職死亡賜金規程

第一條 皇學館教授、助教授、學生監及書記在職滿四年以上ニシテ退職シタルモノニハ

退職現時ノ俸給月額三分ノ一ヲ以テ在職年數(前三ヶ年ヲ除ク)ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應ス

ル金額ヲ一時支給ス

第二條 公務ノ爲メ受ケタル傷疾ニ原因シテ死去シタルトキハ在職最終ノ俸給三箇月

分ヲ一時扶助料トシテ其遺族ニ給ス

第三條 在職中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一

ヲ在職年數ニ乘シタル金額ヲ一時扶助料トシテ其遺族ニ給ス

但一年ニ滿タサル月數ハ算入セス

第四條 懲戒ニヨリ免職セシ者又ハ年齢六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職セ

シ者ハ本規程ノ賜金ヲ給セス

第五條 本規程ハ神官ヨリ兼務ノ者ニハ之ヲ適用セス

○神宮皇學館館費及貸費規約 明治三十五年二月二十八日  
達第一二號  
神宮皇學館館費規約及貸費規約左ノ通定ム

館費規約

- 第一條 神宮皇學館規則第三十八條第三十九條ニ依リ選定セラレタル館費生ニシテ本館ノ認許シタル學校ヲ卒業シタル者ハ本規約ヲ遵奉スヘシ
- 第二條 館費ヲ支給セラレタル者ハ其支給ヲ受ケタル年數ニ均シキ年限内本館教務ニ従事セシム但相當ノ俸給ヲ支給ス
- 第三條 館費ヲ受ケタル者本館ノ主旨ニ背キ又ハ本館ニ對スル義務ヲ履行セサルトキハ嘗テ給付シタル館費ヲ一時ニ辨償セシム
- 第四條 館則第四十條ニ依リ差出シタル誓約書及保證書ハ其義務解除シタルトキ之ヲ返付スヘシ

貸費規約

- 第一條 神宮皇學館規則第三十四條乃至第三十九條ニ依リ選定セラレタル貸費生ニシテ本館ヲ卒業シタルモノハ本規約ヲ遵奉スヘシ
- 第二條 貸費ヲ受ケタルモノハ就職後滿三ヶ月ヲ出テス月賦ヲ以テ貸費ヲ返納セシム

第三條 貸費ヲ受ケタルモノ就職シタルトキハ其業務及所得額ヲ本館ニ報告スヘシ

業務及所得額ニ異動アルトキ亦同シ

第四條 返納金額ハ本人收入年額ノ十分一トシ月割ヲ以テ毎月本館會計係ヘ送附スヘシ

第五條 貸費ハ元金ヲ返納セシメ利子ヲ徴セス

第六條 規則第四十條ニ依リ差出シタル誓約書及保證書ハ貸費全額ヲ返納シタルトキ之ヲ返付スヘシ

○神宮皇學館學生取締規則 明治三十二年十一月二日  
達第二八號

神宮皇學館學生取締規則別紙之通定ム

神宮皇學館學生取締規則

- 第一條 學生ハ本館ノ規則命令ヲ遵奉シ常ニ本館學生タル体面ヲ汚ササル様注意スヘシ
- 第二條 學生ハ禮讓德義ヲ重シ常ニ輕躁ノ所爲アルヘカラス
- 第三條 師長ニ對シテハ勿論學生相互ノ間タリトモ必ス敬禮ヲ行フヘシ
- 第四條 學生ハ服装容儀ヲ正シ常ニ本館學生タル威儀ヲ保ツヘシ
- 第五條 服装ハ本館所定ノ制服若シハ袴ヲ着シ外出ノ際ハ必ス制帽ヲ着スヘシ

- 第六條 制帽ハ夏季ニ限リ麥稈帽ヲ以テ代用スルコトヲ得  
但シ帽章ハ之ヲ畧スルヲ得ス
- 第七條 學生ニシテ通學スルモノハ其宿所ヲ届出ツ可シ
- 第八條 病氣其他事故ノ爲登館セサルモノハ其事由ヲ具シ届出ツヘシ  
但シ引繼キ三日以上ニ及フモノハ保證人ノ證明書若クハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ
- 第九條 病氣又ハ事故ノ爲歸郷、旅行又ハ他ニ宿泊セントスルトキハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ
- 第十條 學生ハ稗史小説ヲ所持シ又ハ卑猥ノ樂器等ヲ弄スルコトヲ許サス
- 第十一條 學資金ハ寄宿生ハ之ヲ學生監ニ通學生ハ之ヲ父兄又ハ保證人ニ預ケ置クヘシ
- 第十二條 學生ハ互ニ金品等ヲ貸借スヘカラス
- 第十三條 學生ニシテ本館ノ書籍ヲ紛失シ又ハ器具物品ヲ破損シタル者ハ之ヲ辨償セシム
- 第十四條 學生ニシテ本館ニ差出ス願何届書ノ類ハ總テ學生監ヲ經由スヘシ
- 第十五條 學生ニシテ本則ニ違背スルモノハ館則第六十一條ニ據リ處分スヘシ

○神宮皇學館寄宿寮規則及學生學資保管規程 明治三十二年十一月二日  
達第二九號

神宮皇學館寄宿寮規則並ニ學生學資保管規程別紙之通改正ス

神宮皇學館寄宿寮規則

入寮退寮及閉寮

- 第一條 入寮又ハ退寮セント欲スルモノハ凡テ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ
- 第二條 寄宿寮ハ冬期夏期休業中閉寮ス  
自修室及寢室
- 第三條 寄宿寮ニ自修室、寢室ヲ置キ自修室ハ自修スル所トシ寢室ハ就寢スル所トス
- 第四條 自修室、寢室ノ學生配置ハ學生監之ヲ行フ
- 第五條 自修室、寢室ハ常ニ清潔整頓ニ注意シ各自物品ヲ亂置スヘカラス
- 第六條 特ニ定ムル自修時間内ハ猥ニ他室ニ往來シ又ハ音讀スルコトヲ許サス
- 第七條 寢室ニハ就寢時ノ外入ルコトヲ許サス
- 第八條 消燈時後ハ各室ニ點燈ヲ許サス  
整頓及掃除
- 第九條 寮内備品、共有品其他各自ノ所有品等凡テ指定ノ場所ニ整頓シ必ス亂雜ナラシムヘカラス

第十條 室内掃除ハ當番ヲ設ケ毎日規定時限内ニ之ヲ行フヘシ

但シ不時不潔ヲ生スルコトアルモ該日當番ノ責トス

第十一條 毎週土曜日ニハ各室大掃除ヲ行ヒ學生監ノ檢閲ヲ受クヘシ

但シ大掃除ハ其室學生共同ニテ行フモノトス

食事、喫茶、入浴

第十二條 食事ハ必ス食堂ニ於テスヘシ止ヲ得サルコトアルトキハ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 食事ハ定時刻ニ於テスヘシ止ヲ得サルコトアルモ一時間以上遅クルルヲ許

サス

第十四條 喫茶ハ喫茶室ニ於テスヘシ

第十五條 喫茶室ノ備品ヲ他ニ使用スルコトヲ許サス

第十六條 入浴ハ定時限内ニ於テスヘシ

應接室、病室及欠課

第十七條 來訪者アルトキハ必ス應接室ニ於テ應接スヘシ

第十八條 來訪者ヲ猥ニ室内ニ誘引スルコトヲ許サス

但シ止ヲ得サルコトアルトキハ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 病氣ニ罹ルモノハ病室ニ入レ療養セシム

但シ病症ノ如何ニ依リ退寮ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 病室ニハ看病者ノ外猥ニ入ルコトヲ許サス

但シ格別ノ事由アルモノハ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 病氣ニテ缺課セントスルモノハ就課時前ニ學生監ヲ經テ主任教員ニ届出ツヘシ

外出、外泊、歸郷、旅行

第二十二條 外出ハ毎日定時限内之ヲ許ス

但シ病氣ニ依リ朝点檢ヲ缺キ若クハ當日缺課シタルモノハ外出スルヲ許サス

第二十三條 外出セントスルトキハ其都度一定ノ手續ヲ踏ムヘシ

第二十四條 定時限外ニ外出ヲ要スルトキハ豫メ其事由ヲ具シ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第二十五條 外出ノ際病氣又ハ事故ノ爲門限ニ遅刻シ又ハ外泊シタルモノハ必ス保證人ノ證明書ヲ差出スヘシ

第二十六條 歸郷、旅行等ヲ要スルコトアル時ハ其事由期日等ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出ツ可シ

但シ此場合ニ於テハ本館ヨリ借用セル書籍器械等ノ返納又ハ食料等ノ支拂ヲ了スヘシ

點檢及神拜

第二十七條 毎朝夕人員點檢ニハ號鈴ニ應シ直ニ所定ノ場所ニ整列スヘシ

但シ病氣等ニテ點檢ニ應シ難キモノハ室長ヲ經テ部長ヘ届出ツヘシ

第二十八條 朝夕ノ外臨時ニ點檢ヲ行フコトアルトキハ運動場ニ整列スヘシ

第二十九條 毎朝點檢後一同講堂ニ整列シ神宮ヲ遙拜スヘシ

但シ本科生及専科三年生ニ於テ順番ニ祝詞ヲ奏スヘシ

炊事

第三十條 炊事ハ學生ノ自炊トス

第三十一條 炊事ノ事務ハ當番ヲ設ケ之ニ服スヘシ

第三十二條 炊事當番ハ其月ノ決算表ヲ翌月五日迄ニ調製シ之ヲ學生監ニ差出スヘシ

役員及其選舉

第三十三條 寮内整理ノ爲學生中ヨリ左ノ役員ヲ置ク

部長 三名

室長 若干名

第三十四條 部長室長ハ學生ヲシテ其候補者ヲ互選セシメ部長ハ館長之ヲ命シ室長ハ

學生監之ヲ認可ス

但シ候補者ノ數ハ選舉ノ際之ヲ定ム

第三十五條 選舉ハ記名投票トシ學生監臨檢ノ上之ヲ行ハシム

第三十六條 部長候補者ハ本科二年生以上ニシテ入寮以來一學年以上ヲ經過シタルモノトス

ノトス

第三十七條 室長候補者ハ本科一年生以上及専科三年生ニシテ入寮以來一學期以上ヲ

經過シタルモノトス

第三十八條 部長、室長ヲ選舉スルコトヲ得ヘキモノハ入寮以來一學期以上ヲ經過シ

タルモノトス

第三十九條 部長ノ任期ハ一學年トシ室長ノ任期ハ一學期トス

但シ其職務ニ堪ヘサルカ若シハ其職責ヲ守ラサルモノト認ムルトキハ臨時改選セ

シム

第四十條 部長ハ任期中毎月貸費額ヲ給シ室長ハ同シク授業料ヲ免除ス

役員ノ職務

第四十一條 部長ハ學生監ノ指揮命令ニ從ヒ各室ヲ統監シ兼テ左ノ事務ニ服スヘシ



- 一 上長ノ命令通知等ノ傳達及學生ヨリ差出ス願届書等ノ進達ヲ取計フコト
- 二 朝夕學生監ニ隨從シテ人員ノ點檢ヲ行フコト
- 三 毎朝各室ノ掃除整頓ヲ檢視スルコト
- 四 毎夕就寢時後各室ノ洋燈火爐等ノ消火及戸締等ヲ巡檢スルコト
- 五 炊事事務ヲ監督スルコト

第四十二條 室長ハ學生監及部長ノ指揮命令ニ從ヒ室内學生ヲ取締リ又ハ其室學生ヲ

- 代表シ左ノ事項ノ責ヲ負フヘシ
- 一 室内學生ノ風紀ニ關スルコト
- 二 室内ノ掃除整頓ニ關スルコト
- 三 室内學生ヨリ差出ス願届等ニ關スルコト

食料及學資金

第四十三條 食料ハ毎月前納スヘシ若シ滞納ニケ月以上ニ及フトキハ之ヲ保證人ヨリ徵收ス

第四十四條 學資金ハ學生自ラ所持スヘカラス必ス之ヲ學生監ニ預ケ置クヘシ

但シ學生監ハ別ニ定ムル學資保管規程ニ依リ之ヲ保管ス

寮内時間規程

第四十五條 學生ハ左ノ時間規程ヲ守ルヘシ

晨起	掃除	朝點檢	朝食	自修	晝食	外入	浴出	夕食	夕點檢	夜自修	就寢	消燈
四月六時	自晨起 至朝點檢	六時半	六時十分	自七時 至八時半	十二時	自終業時 至夕點檢	五時	七時	自夕點檢 至九時	九時半	十時	
五月五時半	六時	六時半	六時十分	自六時半 至八時半	全	全	七時半	全	全	全	全	
六月五時	五時半	五時十分	五時十分	自六時 至七時半	全	全	七時	全	九時	九時半		
七月六時	六時半	六時十分	六時十分	自七時半 至八時半	全	全	全	全	九時半	十時		
九月六時	六時半	六時十分	六時十分	自七時半 至八時半	全	全	全	全	全	全		
十月六時半	七時	七時十分	七時十分	自七時半 至八時半	全	全	四時半	六時半	全	全		
十一月七時	七時半	七時十分	七時十分	自八時半 至九時半	全	全	六時	六時半	全	全		
十二月六時半	七時	七時十分	七時十分	自七時半 至八時半	全	全	六時半	全	全	全		
三月六時	六時半	六時十分	六時十分	自七時半 至八時半	全	全	五時	全	全	全		

但シ休日ハ朝自修時ヲ置カス外出ヲ朝食後ヨリ夕點檢時マテトシ休日ノ前日ハ夜自修時ヲ置カス且就寢時ヲ凡テ九時トス

雜則

第四十六條 集會其他學生間ニ於テ催ス共同事件ハ凡テ學生監ノ許可ヲ受クヘシ

第四十七條 寮内ニテハ各自火ノ元ヲ警戒シ特ニ燈火爐火其他吹烟等ニ注意シ最其取扱ヲ慎ムヘシ

第四十八條 寮ノ内外ヲ問ハス非常ノ事アルトキハ學生監ノ指揮ニ從フヘシ

第四十九條 小使室、炊夫室等ニ出入シ又ハ炊夫、小使ヲ猥ニ使役スヘカラス

第五十條 寮内ニハ骨牌、碁、將碁、小説本、俗曲ノ樂器其他凡テ風儀ヲ紊スヘキ物品ヲ所持スヘカラス

第五十一條 寮内ニテハ俗歌ヲ謠ヒ俗技ヲ演スル等凡テ風儀ヲ紊スヘキ動作ヲナスヘカラス

第五十二條 本則ニ規定セサルモノハ凡テ學生取締規則ニ據ルヘキモノトス

第五十三條 本則ノ禁條ヲ犯スモノハ館則第六十一條ニ據リ處分スヘシ

神宮皇學館學生學資保管規程

第一條 本館學生學資保管ハ神宮爲替方ニ委託シ其出納ハ學生監之ヲ管理ス

第二條 學資ハ父兄、後見人若クハ保證人ヨリ直チニ學生監ニ宛一ヶ月若クハ數ヶ月

分ヲ前納セシム

第三條 學生監學資ヲ領收シタルトキハ直チニ領收證書ヲ差出人ニ送附シ現金ヲ爲替

方ニ預ケ入ルヘシ

第四條 學生監ハ帳簿ヲ製シ學資金ノ出納ヲ登記シ毎月初前月分ノ決算ヲ父兄後見人

若クハ保證人ニ報告スヘシ

第五條 領收書、報告書發送費ハ學資ノ内ヲ以テ支拂フモノトス

第六條 必要缺ク可カラサルモノニ付キ學資ノ支出ヲ要スルトキハ預金通帳ニ金員ヲ

記入シ學生監ニ申出ヘシ

○神宮參拜日及勅語奉讀日 明治三十二年十一月二十一日 達第三一號

神宮參拜日及勅語奉讀日ヲ左之通和定候ニ付參拜日ハ職員學生一同參拜シ奉讀日ニハ

同ク奉讀式ニ參列スヘシ

一 神宮參拜日

二月十七日 (祈年祭) 兩宮

十月十六日 (神嘗祭) 豐受大神宮

十月十七日 (同上) 皇大神宮

十一月廿三日 (新嘗祭)

兩宮

一 勅語奉讀日

一月一日 新年拜賀日

二月十一日 紀元節

十月三十日 勅語發布日

十一月三日 天長節

卒業式日

一 參拜及奉讀日參集時刻並ニ儀式次第ハ其都度揭示スヘシ

一 參拜奉讀式ニハ事故ナクシテ不參スルコトヲ得ス

但病氣其他不得已事故アルトキハ必時刻前届出ヘシ

○徵兵猶豫及教員免許資格

學科程度認定 明治三十一年十二月二十四日  
文部省告示第七十二號

神宮皇學館 本科

右ハ明治二十二年法律第一號徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ノモ

ノト認ム

教員免許資格申請 明治三十二年七月二十七日  
官第二二號申請

文部省令第二十五號教員免許資格之儀ニ付申請

神宮皇學館ハ明治十六年五月内務省ノ認可ヲ得神宮司廳ニ於テ設置セシモノニ有之創立以來漸次擴張シ昨年十二月ニ至リ文部省告示第七十二號ヲ以テ本科及豫科共徵兵令第十三條ニヨリ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認定セラレ候處將來本科ヲ一層擴張スヘキ計畫ニテ本年三月以來右豫科ヲ廢シ自今主トシテ中學校師範學校等ノ卒業者ヨリ選拔入學セシムヘキ方法ヲ取り是迄本科豫科ニ使用シ來レル蓄積金拾四萬貳千圓ノ利子金七千壹百圓ヲ本年度以降年々悉皆本科教育費ニ使用スル事トシ大ニ其基礎ヲ鞏固ナラシメ候且今般更ニ規則ヲ改正シ學科程度ヲ高尚ニシ專務教師ヲ增聘シ文部省令第二十五號第三條第二項ノ要件ヲ具備致居候ニ付テハ同館本科卒業生中同令第一條ニ該當スヘキ資格アル者ニハ別冊調書日本史國語二科ニ付試験ヲ須キス教員免許狀ヲ與ヘラレ候様相成度此段申請候也

歷史及國語ニ關スル標本器械ノ類ハ教授上差支無之様設備可致候

同 指令 明治三十二年九月十六日  
文部省文書課亥普甲第一五五號

神宮皇學館設立者

本年七月二十七日官第二二號申請其館卒業生ニ關シ本年文部省令第二十五號第一條ノ取扱ヲ受クルノ件許可ス

教員免許資格申請 明治三十三年七月三十日 官第五一號申請

教員免許資格ニ關スル申請書

昨明治三十二年九月十六日附ヲ以テ當神宮皇學館本科卒業生ハ日本史料及國語科ニ限リ同年文部省令第廿五號第一條ノ取扱ヲ受クル事ニ御認可相成居候處本年六月同省令第十號ヲ以テ教員檢定規則御改正ニヨリ右二科ハ何レモ一科目トシテ成立セサル事ニ相成候ニ付今般別紙ノ通り學科課程表ニ改正ヲ加ヘ候間此際萬國史及漢文ヲモ該廿五號第一條ノ御取扱ヲ受クル事ニ御認可相成度依テ別紙改正課定表相添此段及申請候也

(學科課程表略ス)

同 指令 明治三十三年九月十二日 文部省文書課于普甲二四六三號

神宮皇學館設立者

神宮宮司伯爵冷泉爲紀

本年七月三十日附官第五一號申請其館本科卒業生ニ對シ國語漢文科及歴史科ニ就キ明治三十三年當省令第十號第五條第一項第二號ノ教員免許資格ニ關スル件許可ス

明治二十二年十一月十二日法律第二十號同二十二年三月十一日法律第三十五號ニ據リ修正ス

(參照)

○徴兵令 明治二十二年一月二十一日法律第一號

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校(小學科及攪科等ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校者クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校者クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食糧被服器具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾分ヲ官給スルコトアルヘシ

一年志願兵ノ豫備後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス 前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在ル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歳迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十八歳迄ニ止ミ又ハ二十八歳ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス

外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歳迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歳ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

○公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規定 明治三十二年四月五日文部省令第二十五號 第一條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第一項第一號ニ掲グル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲ爲ス但修業年限三箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル

明治三十三年十一月十二日法律第二十號同三十三年三月十一日法律第三十五號ニ據リ修正ス

者ノ在學スヘキ年數ハ四學年以上トシ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

第二條 公立私立學校ニシテ其卒業生ニ關シ第一條ノ取扱ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニアリテハ其管理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

一 試驗ヲ須ヒスシテ教員免許狀ヲ受ケヘキ見込ノ學科目

二 學則

三 校地、校舍、寄宿舎圖面

四 教科書及參考書目錄

五 教授器械及標本目錄

六 教員履歷書、受持學科及專任兼任ノ區別ヲ記シタル調書

七 一箇年ノ經費收入支出金額及其細目

前項ノ學校ハ左ノ要件ヲ具備スルモノタルヘシ

一 前項第一號ノ學科目ハ高等師範學校女子高等師範學校ノ當該學科目ト同等以上ノ程度ニシテ別ニ相當ノ補助科目ヲ具フルコト

二 學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員其他ノ設備アルコト

三 維持ノ方法確實ナルコト

第三條 第一條ノ取扱ヲ受ケル學校ニ於テ卒業試驗ヲ施行スルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者ニ於テ私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ試驗ノ期日及其生徒中師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ數ヲ具シ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 文部大臣ハ師範學校中學校高等女學校教員檢定委員又ハ其他ノ吏員ヲ派遣シテ卒業試驗ニ立會ヲ爲サシ

△但委員又ハ吏員ハ試驗問題及答案ヲ查閱シ試驗場ニ參列ス

前項ノ委員又ハ其他ノ吏員ニ於テ試驗問題又ハ試驗ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ又ハ變更セシムルコトアルヘシ

第五條 學校長ハ卒業試驗合格者ノ族籍氏名生年月及許可ヲ受ケタル學科ノ點數ヲ具シ試驗後遲滞ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 卒業試驗合格者中各學年ヲ通シテ總授業時數ノ四分ノ一以上授業ヲ受ケサル者ハ卒業試驗ニ於テ合格スルコト第一條ノ取扱ヲ爲スノ限ニアラス

第七條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ學則ヲ變更シ又ハ校地校舍寄宿舎ヲ變更セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第八條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第一項第四號前段又ハ第六號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第九條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ師範學校中學校高等女學校卒業生ノ入學ヲ許可セントスルトキハ願書ニ左ノ書類ヲ添付セシムルコトヲ要ス

一 履歷書

二 卒業試驗點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書

師範學校卒業生ニアリテハ前項各號ノ外服務義務修了ニ關スル地方長官ノ證明書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備ヘ永久ニ保存スヘシ

一 其學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復書類

二 學則

三 日課表、各教員受持學科及時間表、教科書配當表

四 職員名簿及履歷書

五 生徒學籍簿

六 學年試驗問題、答案及成績表

七 職員出勤簿、生徒毎大出席簿

八 資産原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿

九 圖書、器械、器具、藥品、標本目錄

十 生徒諸願屆

生徒學籍簿ニハ生徒ノ族籍氏名住所生年月日入學前ノ學歷等ヲ記載スヘシ

徵兵猶豫及教員免許資格

三〇九

第十一條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シタルトキ又ハ第二條第二項ノ要件ノ一ヲ失ヒタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向ヒテ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校ニ於テ修學シ學位ヲ受領シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第一項第一號ニ掲グル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十三條 本令中師範學校ノ卒業證書トアルハ師範學校簡易科ノ卒業證書ヲ包含セス

○教員免許令 明治三十三年三月三十日勅令第三百三十四號

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サルハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復権シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復権セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ

第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

明治三十四年五月九日  
文部省令第  
一二號ニ據  
リ修正ス

第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用非之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ收メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學校卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

○教員檢定ニ關スル規程 明治三十三年六月一日文部省令第十號

第一條 教員檢定ハ受檢人ノ學力、品行、身体ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノトス

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身 教育 國語及漢文 英語 佛語 獨語 歷史 地理 數學 物理及化學 博物  
法制及經濟 習字 圖畫 家事及裁縫 体操 音樂 簿記 農業 商業 手工 手藝

歷史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何、三角法、解折幾何、微分積分ノ四部ニ物理及化學ハ物理、化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理、植物、礦物ノ三部ニ圖畫ハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ家事及裁縫ハ家事、裁縫ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ具ノ手数料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三角法ハ算術代數幾何ニ解折幾何ハ三角法ニ微分積分ハ解折幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第三條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限、試驗ヲ爲スヘキ學科目及試驗施行ノ期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及教員タラムト欲スル學校ノ種類、學科目ヲ記シタル願書(一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書(二號書式)及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫

二 學校醫ノ身体検査書(三號書式)但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若  
 八第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ検査書ヲ以テスルモ妨ケナシ  
 地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其ノ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者及選科修了者
  - 二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタ  
 ル公立、私立學校ニ入リ三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ  
 有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス
  - 三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ  
 學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者
  - 四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ  
 修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者
  - 五 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者
- (第六條) 削除
- 第七條 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス但シ學科日ノ種類ニ依リ豫備試験ヲ行ハサルコトアルヘシ  
 豫備試験ヲ施行スル學科日ニ在リテハ豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 試験ハ受檢人出願ノ學科日ニ就キ其ノ教員タラムト欲スル學校ノ學科日ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標  
 準トシ教授法ヲ併セテ之ヲ行フモノトス
- 第九條 豫備試験ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ  
 本試験ヲ行フ場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス
- 第十條 左ニ掲クル者ニシテ体操科ノ試験檢定ヲ出願シタルトキハ兵式体操ノ部分ヲ省ク
- 一 陸軍歩兵科士官
  - 二 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者
- (第十一條) 削除

第十二條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコト  
 ヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

附 則

(第十三條) 削除

第十四條 明治三十二年文部省令第二十五號第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ハ本令第五條第一項第  
 二號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 従前ノ規定ニ依リ認メラレタル豫備試験ノ合格並ニ證明書ノ效力ハ仍其ノ有効期間存續ス

(願書式略ス)

第十類

古事類苑編纂事務所

○古事類苑編纂規則 明治三十三年八月二十七日  
達第三一號

古事類苑編纂規則別紙之通改正ス

古事類苑編纂規則

第一條 本書編纂ノ目的ハ完全ナル類書ヲ編纂シ洽ク世間ニ頒チ以テ本邦文運ノ進歩ヲ裨補スルニアリ

第二條 本書ノ編纂ハ本年度ヨリ後滿七ケ年ヲ以テ事業ヲ完結スルモノトス

第三條 編纂ニ關スル費用ノ年額ハ金壹萬貳千圓トシ神宮司廳社入金第一蓄積金ノ中ヨリ之ヲ支辨ス

但印刷出版ニ關スル費用ハ相當ノ方法ニヨリ書籍代ニ於テ實費ヲ徵收シ收支相償ハシムルモノトス

第四條 編纂事務所ヲ東京小石川區市兵衛河岸第十號地ニ置ク

第五條 編纂事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

編修總裁 壹人



編修顧問 四人

編修長 壹人

編修副長 貳人

校勘 壹人

編修 拾人

校合員 四人

理事 壹人

事務員 壹人

書記 貳人

寫字生 定員ナシ

第六條 大宮司ハ古事類苑編纂及印刷ニ關スル一切ノ事務ヲ監督シ其責ニ任スルモノトス

但編纂ニ關スル規程ハ大宮司編修總裁ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム

第七條 大宮司ハ第五條ニ定メタル職員ヲ撰任ス

但編修以上ノ職員ニ限リ其都度内務大臣ニ伺出ツルモノトス

第八條 編修總裁ハ編修ニ關スル事件ヲ總判シ兼テ編修全体ノ疑義ヲ處決スルモノトス

第九條 編修顧問ハ編修ニ關スル質問ニ應シ意見ヲ述フルモノトス

第十條 編修長ハ編纂スヘキ部門及條項ヲ定メ編修ニ分賦シ之ヲ編纂セシメ而シテ其編纂シタル草稿ヲ檢閲シ分類ノ當否及材料ノ良否ヲ查ス

第十一條 編修副長ハ編修長ノ職務ヲ佐ク

第十二條 校勘ハ淨寫本ヲ通覽シ精密ニ校勘ス

第十三條 編修ハ各其分擔スル部門及條項ニ就キ材料ヲ蒐集シ草稿ヲ起草ス

第十四條 校合員ハ甲乙二種ニ分チ甲ハ淨寫本ヲ草稿及原書ニ照シテ校合シ乙ハ假印刷ヲ淨寫本ニ照シテ校合ス

第十五條 理事ハ司應事務ノ都合ニ依リ神官ヲ以テ之ニ充ツ大宮司ノ命ヲ受ケ編纂事業ニ關スル庶務及會計一切ノ事務ヲ處理ス

但會計出納ノ方法ハ總テ司應會計規則ニ依ル

第十六條 事務員ハ司應事務ノ都合ニ依リ神官或ハ司應備員ヲ以テ之ニ充ツ理事ノ命ヲ受ケ庶務及會計ノ事務ニ從事ス

第十七條 書記ハ理事及事務員ノ命ヲ受ケ雜務ニ從事ス

第十八條 寫字生ハ草稿ヲ淨寫ス

第十九條 編修ハ其編纂シタル草稿ヲ理事ニ交付シ理事ハ之ヲ帳簿ニ記入シ認印シテ

編修長ニ交付スヘシ

- 第二十條 正副編修長草稿ヲ檢閲シ訂正スヘキモノアルトキハ之ヲ編修ニ還付シ稿ヲ改メシメ其可ナルモノハ之ヲ理事ニ交付シ寫字生ヲシテ淨寫セシム
- 第二十一條 草稿及淨寫本ノ閱覽ヲ終リタル時ハ之ニ月日ヲ記入シ認印シテ其都度之ヲ事務員ニ交付スヘシ
- 第二十二條 草稿及淨寫本ハ臨時急速ヲ要スル者ノ外總テ各自受領ノ順序ニ依リテ閱覽シ完成ノ手續ヲナスヘシ
- 第二十三條 寫字生淨寫ヲ了リタルトキハ直ニ校勘及校合員ニ交付シ校合セシムルモノトス
- 第二十四條 前條ノ手續ヲ終リタル淨寫本每一部門完結シタル時理事ハ之ヲ印刷ニ附シ製本ヲ爲サシム
- 第二十五條 製本ハ和裝洋裝各一種トシ各部門ニ就キ豫約者ヲ募リ之ヲ販賣ス
- 第二十六條 理事ハ六ヶ月毎ニ編纂及會計ニ關スル事務ノ狀況ヲ大宮司ニ報告シ大宮司ハ之ヲ內務大臣ニ報告スルモノトス
- 第二十七條 大宮司ハ毎年度收支豫算書及決算書ヲ作り內務大臣ノ認定ヲ受クヘシ
- 第二十八條 此規則ノ施行ニ必要ナル細則ハ大宮司之ヲ定メ內務大臣ニ届出ツヘシ

○古事類苑編纂事務所宿直心得 明治三十一年十月五日 第三〇號

古事類苑編纂事務所宿直心得別紙之通相定ム

但明治二十八年六月二十七日達第七號當直心得ハ自今廢止ス

古事類苑編纂事務所宿直心得

- 第一條 平日ノ宿直ハ退出時刻ヨリ翌日出勤時刻迄休日宿直ハ平日ノ出勤時刻ヨリ翌日同時刻迄トス
- 第二條 宿直ハ事務員雇員ノ内一名交替勤務ス
- 第三條 宿直ハ豫メ事務員ニ於テ宿直表ヲ製シ理事ノ認印ヲ得テ之ヲ宿直者ニ同附シ捺印セシム
- 第四條 宿直ハ都合ニヨリ甲乙互ニ交換スルコトヲ得但交換スル時ハ其旨理事ニ報スヘシ
- 第五條 當直ハ休日又ハ執務時間外ニ於ケル總テノ事務ヲ處理シ所内取締ノ責ニ任ス
- 第六條 當直員ハ當直簿ニ月日職名氏名及其取扱タル事務ノ要領ヲ記スヘシ
- 第七條 信書及物件ハ左ノ區別ニ從ヒ處分スヘシ
  - 一 本所宛到達ノ信書及物件ハ悉ク受附簿ニ記載シ書留ハ封ノ儘其他ハ開緘閱覽シ

翌日事務員ニ交付シ受印ヲ徴スヘシ其急速ヲ要スルモノト認ムルトキハ直ニ事務員又ハ理事ニ送附シ指揮ヲ受クヘシ

一 職員名宛ノ電報ハ勿論信書物件ト雖急速ヲ要スルモノト認ムル分ハ速ニ名宛人ニ送附シ通常信書物件ハ翌日本人ニ交付スヘシ

第八條 至急ヲ要スル事件アリテ當直員ニ於テ處理スル能ハサルトキハ上長ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 近火ノ節ハ速ニ防備ニ着手シ傍理事務員ニ急報スヘシ

第十條 毎夜屋内ヲ巡視シ火ノ元及戸締リ等ヲ檢スヘシ

第十一條 當直員俄ニ發病等ノ事故ニ依リ退所ヲ要スルトキハ理事ニ報シ承認ヲ受クヘシ

第十二條 當直員ハ安リニ出門シ又ハ飲酒ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 當直者ニハ朝夕兩度ノ食料トシテ金七錢ヲ支給ス

但當ニ事務所内ニ宿泊スルモノハ此限ニアラス

○古事類苑編纂事務所職員旅費規程 明治三十五年二月十五日 達第八號

古事類苑編纂事務所職員旅費規程別紙之通定ム

古事類苑編纂事務所職員旅費規程

第一條 古事類苑編纂事務所職員職務ニ依リ旅行スルトキハ左表ニ據リ其旅費ヲ支給ス

第二條 旅費支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規定ニ據ル

○勅令第三百三十三號ハ第三類ニ載ス

等	級	瀛車賃 <small>一哩</small> 船賃 <small>一海里</small> 車馬賃 <small>一里</small> 宿泊料 <small>一夜</small> 日當 <small>一日</small>
一 等	編修總裁	六 錢 六 錢 參拾錢 貳 圓 壹圓五拾錢
二 等	理事、編修長、同副長、同心得	五 錢 五 錢 貳拾錢 壹圓五拾錢 壹 圓
三 等	事務員、編修、校合員	四 錢 四 錢 拾五錢 壹 圓 五拾錢
四 等	書記、雇員	參 錢 參 錢 拾 錢 七拾錢 參拾錢

○古事類苑編纂事務所理事及事務員旅費並手當金支給規程 明治二十八年十二月十四日 達第一四號  
古事類苑編纂事務所理事及事務員ニ關スル旅費並手當金支給規程左之通定ム  
但本文ニ關スル明治二十八年六月二十七日決定ノ内則ハ廢止ス

明治三十四年三月三十一日  
正號ニ據リ修

古事類苑編纂事務所理事及事務員ニ關スル旅費並手當金支給規程

第一條 理事及事務員ノ往復旅費ハ其官職相當ノ並旅費ヲ支給ス

第二條 理事及事務員在勤中特ニ月手當トシテ理事ハ金拾八圓乃至貳拾圓事務員ハ拾貳圓乃至拾五圓給與ス

但一ヶ月ニ滿タサル端日數ハ日割ヲ以テ支給ス

第三條 手當金ノ給與期間ハ在勤地到着ノ翌日ヨリ起算シ出發ノ前日迄トス

### 第十一類

#### 神宮故事編纂所

○神宮故事編纂所職制 明治三十二年九月九日 達第二〇號

神宮故事編纂所職制左之通相定ム

神宮故事編纂所職制

第一條 神宮故事編纂所ニ左ノ係員ヲ置ク

編纂委員長 一名

編纂委員 三名

書記

第二條 編纂委員長ハ大宮司ノ命ヲ受ケ材料ノ撰定取捨及分類序次等其他編纂ニ關スル事項ヲ總掌ス

第三條 編纂委員ハ編纂委員長ノ命ヲ受ケ材料ノ蒐集及編纂ニ從事ス

第四條 編纂委員長ハ全部ノ体裁及成績ニ就キ編纂委員ハ其分擔シタル部門ノ体裁及成績ニ就キ責任ヲ有ス

第五條 書記ハ上長ノ命ヲ受ケ雜務ニ從事ス

○神宮故事編纂所書記月俸 明治三十五年二月二十八日  
神宮故事編纂所書記月俸左ノ通定ム  
達第一七號

神宮故事編纂所書記月俸表

一級	二級	三級	四級	五級
拾四圓	拾參圓	拾貳圓	拾壹圓	拾圓

○神宮故事編纂所雇員採用方及給料 明治三十五年二月二十八日  
神宮故事編纂所雇員採用方及其給料左ノ通相定メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス  
達第一九號

神宮故事編纂所雇員採用方及給料

第一條 月給ノ雇員ハ故事編纂委員長ノ具申ニ依リ大宮司之ヲ命免ス  
第二條 日給ノ雇員ハ其人名給料ヲ具シ大宮司ノ認可ヲ得テ故事編纂委員長之ヲ命免  
スヘシ

第三條 月給雇員ノ給料ハ左表ニ依ル

第四條 日給雇員ノ給料ハ六拾錢以內トス

第五條 月給雇員ハ神宮司廳職員俸給支給ノ例ニ依リ日給雇員ハ神宮備人給與規程ニ  
依リ各其給料ヲ支給ス

神宮故事編纂所雇員月給表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
拾貳圓	拾壹圓	拾圓	九圓	八圓	七圓	六圓

○神宮故事編纂員旅費支給ノ件 明治三十二年八月二十五日  
無號伺  
神宮故事編纂員旅費支給方ノ儀ニ付伺

神宮故事編纂ニ付材料蒐集ノ爲メ各地ニ出張可爲致儀モ有之豫メ旅費支給額ヲ相定置  
度就テハ編纂員中華族及從六位以上ノ者ハ明治三十年十月内務省令第二十七號警察官  
吏其他内國旅費概則第五條一項ノ三等旅費ニ其他ノ編纂員及書記ハ同四等ニ準シ支給  
致度此段相伺候也

同 回答 明治三十二年九月二十七日幣甲第八八號  
内務省社寺局長回答

本年八月廿五日付ヲ以テ神宮故事編纂員旅費支給方ノ件伺出相成候處右ハ左記ノ通り  
支給相成可然命ニ依リ此段申進候也

一 華族及従六位以上勳六等已上ニシテ神宮所轄地へ旅行スルトキハ明治三十一年訓第四八六號神宮司廳職員旅費規程ニ依リ別表三等旅費ヲ支給シ有位帶勳者ニハ同訓令ノ四等旅費ヲ支給シ其神宮所轄地外旅行ニ付テハ明治三十年十月内務省令第二十七號ノ第五條ニ依リ支給セララルヘシ

一 其他ノ編纂員及書記ニシテ神宮所轄地へ旅行スルトキハ明治三十一年訓第四八六號神宮司廳職員旅費規程ニ依リ別表五等旅費ヲ支給シ神宮所轄地外旅行ニ付テハ明治三十年内務省令第二十七號甲號表ニ依リ支給セララルヘシ

〔參照〕

○内務省令第二十七號(明治三十年十月七日)

第五條 華族及有位帶勳者等ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ左ノ規定ニ依ル其ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル

- 一 華族及従六位以上勳六等以上ノ者ハ三等旅費其ノ他有位帶勳ノ者ハ四等旅費ヲ給ス
- 一 一般ノ人民ハ甲號表ニ依ル

瀛車賃	一哩ニ付	船賃	一海里ニ付	車馬賃	一里ニ付	宿泊料	一夜ニ付	日當	一日ニ付	食卓料	一日ニ付
金	三錢	金	三錢	金	十錢	金	七十錢	金	三十錢	金	五十錢

神部署

第一類

官制      任用      俸給      服制

○神部署官制 明治三十三年九月二十六日

勅令第三百七十四號

朕神部署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神部署官制

第一條 神部署ハ神宮大宮司ノ監督ニ屬シ大麻、曆ノ製造頒布及臣民ノ奉養ニ關スル事ヲ掌ル

第二條 神部署ニ左ノ職員ヲ置ク

署長 一人 奏任待遇

神部 二人 奏任待遇

神部補 十四人 判任待遇

第三條 署長ハ一切ノ署務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 神部ハ署長ノ命ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第五條 神部補ハ署長及神部ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 神部署ニ參務員ヲ置クコトヲ得

參務員ハ奏任待遇トス署長ノ諮詢ニ應ジ署務ニ關シ意見ヲ開申ス

第七條 署長事故アルトキハ上席神部其ノ事務ヲ代理ス

第八條 署長、神部及參務員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ神部補ハ内務大臣之ヲ命ス

附則

本令ハ明治三十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○神宮雇員ニ關スル規則 明治三十三年十月二日 內務省訓第九三五號 ○神宮司廳第一類ニ載ス

○官國幣社及神部署神職任用令 明治三十五年二月八日 勅令第二十八號

朕官國幣社及神部署神職任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官國幣社及神部署神職任用令

第一條 奏任待遇ノ神職ハ高等試験合格ノ者、判任待遇ノ神職ハ尋常試験又ハ高等試験合格ノ者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ神職試験ヲ受ク

ルコトヲ得

一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

四 禁治産者、準禁治産者

五 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者

第三條 高等試験ハ高等試験委員之ヲ施行シ尋常試験ハ尋常試験委員之ヲ施行ス

高等試験委員ハ主務大臣之ヲ選任シ尋常試験委員ハ主務省ニ於テ行フ試験ニ付テハ

主務大臣其ノ他ニ付テハ地方長官之ヲ選任ス

第四條 試験合格者ニハ合格證書ヲ付與ス

第五條 試験期日及場所ハ豫メ官報、公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第六條 試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一 祭式

二 倫理

- 三 國文 作文ハ高等試験ニ在リテハ宣命體公文體尋常試験ニ在リテハ祝詞體公文體
- 四 歴史
- 五 法制 高等試験ニ在リテハ現行神社法令及靈法尋常試験ニ在リテハ現行神社法令
- 六 算術
- 第七條 試験ニ關スル細則ハ試験委員ニ於テ之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ但シ地方應ニ於テ行フ尋常試験ニ關スル細則ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第八條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ奏任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得
  - 一 其ノ神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世中ニ於テ之ヲ補佐シ功績顯著ナル者若ハ其ノ相續人ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ
  - 二 高等官又ハ五年以上官務ニ從事シ判任官二等以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ
  - 三 十年以上神職(府縣社以下神社神職ヲ除ク)ト爲リ現ニ官國幣社禰宜又ハ神部署神部補ノ職ニ在ル者
  - 四 師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ國史又ハ國文科ノ教員免許狀ヲ有シ祭式ヲ修メタル者
  - 五 神宮皇學館本科卒業ノ者

- 六 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階學正ヲ付與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
- 第九條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ判任待遇ノ神職ニ任用スルコトヲ得
  - 一 五年以上官務ニ從事シ判任官以上ノ職ニ在リタル者ニシテ祭式及國典ヲ修メタルモノ
  - 二 現ニ神宮宮掌以上ノ職ニ在ル者
  - 三 前條第四號若ハ第五號ニ掲ケタル者又ハ神宮皇學館專科卒業ノ者
  - 四 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階三等司業以上ヲ付與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
  - 五 官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニシテ祭式ヲ修メタルモノ
  - 六 五年以上神職ト爲リ現ニ社司ノ職ニ在ル者
- 第十條 三年以上官國幣社又ハ神部署ニ於テ本令ニ依リ任用セラルヘキ神職ヲ勤メ退職シタル者ハ試験ヲ要セス前職同等若ハ其ノ以下ノ神職ニ任用スルコトヲ得
- 奏任待遇ノ神職ニ在リテハ各職同等ト看做シ判任待遇ノ神職ニ在リテハ禰宜及神部



補ヲ以テ同等ト看做ス

第十一條 五年以上雇員トシテ神部署ニ奉職シタル者ハ試験ヲ要セス尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ神部補ニ任用スルコトヲ得

五年以上雇員トシテ官國幣社ニ奉職シタル者ハ試験ヲ要セス尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ主典又ハ宮掌ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ主典又ハ宮掌ニ任用セラレ三年以上奉職シタル者ハ尋常試験委員ノ詮衡ヲ經テ禰宜ニ任用スルコトヲ得

第十二條 神職試験ヲ受クル資格ナキ者ニハ前四條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 本令中主務大臣ニ屬スル職權ハ別格官幣社靖國神社ノ神職ニ關シテハ陸軍大臣及海軍大臣之ヲ行ヒ其ノ他ニ關シテハ内務大臣之ヲ行フ

附則

第十四條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 神部署參務員及官幣小社波上宮ノ神職ニハ本令ノ規定ヲ適用セス

○神部署職員俸給ノ件 明治三十三年九月二十六日 勅令第三百七十五號

朕神部署職員俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神部署職員ニハ參務員ヲ除クノ外俸給ヲ支給ス其ノ金額及支給規則ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○神部署職員俸給額 明治三十三年十月九日 神宮司廳達第三九號

神部署職員俸給額左ノ通訓令セラル

訓第九三〇號 ○明治三十三年九月二十九日 内務省訓令

神宮 宮司

神部署職員俸給額別表ノ通り相定メ其支給方ニ付テハ明治二十九年十二月訓第八六一號神宮司廳職員俸給支給規則ヲ準用スヘシ 本令ハ明治三十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

別表

署	長	神部	神部	補
八百圓	壹百圓	壹百圓	三百圓	二百圓
七百圓	六百圓	五百圓	二百圓	百八十圓

【参照】

- 神宮司廳職員俸給支給規則 明治二十九年十二月二十四日内務省訓第八六一號
- 第一條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給スルモノトス
- 第二條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス
- 第三條 非職廢官退官及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス
- 第四條 非職廢官退官者事務引繼殘務調理ノ爲メ翌月後特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ年俸額ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ給ス
- 第五條 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此限ニアラス
- 第六條 傷病引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ間尙從前ノ年俸額ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ給ス
- 第七條 セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス
- 第八條 第五條ニ依リ減給ノ者非職廢官退官及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス
- 第九條 俸給支給ノ定日ハ神宮司之ヲ定ム

○神部署雇俸給表 明治三十三年十月十八日 達第一號

神部署雇俸給左之通相定ム  
神部署雇俸給表

等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	十一等
俸給	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	拾圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓

○神樂殿舞女備給表 明治三十四年四月十日 達第一二號

神樂殿舞女備給別表ノ通改定シ明治三十四年五月一日ヨリ施行ス  
神樂殿舞女備給表

名稱	等級	特等	一等	二等	三等
舞女取締	七圓	六圓	五圓	四圓	四圓
舞女	五圓	四圓五拾錢	參圓五拾錢	參圓	參圓

本表ハ皆勤者ニ對スル月額ニシテ欠勤者ヘハ日割ヲ以テ算出シ翌月三日(休日ナルト)之ヲ支給スルモノトス

○神官神職服制 明治二十七年一月三十一日 勅令第六號 ○神宮司廳第一類ニ載ス

神樂殿舞女備給表 神官神職服制

明治三十四年十二月二十八日達第一二號ニ據リ修正ス

第二類

處務

旅行

服務

懲戒

○處務細則改正ニ關スル件

明治三十四年四月一日  
神宮司廳訓第一七號

神 部 署 長

明治三十三年十月訓令第一號神部署處務細則向後改正ノ必要ヲ生シタルトキハ其都度  
認可ヲ請フヘシ

○神部署處務細則 明治三十四年四月一日  
達第一一號

明治三十三年十月神宮司廳訓第一號神部署處務細則ヲ別冊之通改正シ本日ヨリ施行ス

神部署處務細則

第一章 - 分課組織

- 第一條 神部署ニ秘書係及第一課第二課ヲ置ク
- 第二條 秘書係ニ書記二名ヲ置ク書記ハ神部補ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 秘書係ハ署長ニ直隸シ其事務ヲ處理ス
- 第四條 各課ニ係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

明治三十四年五月六日  
達第一三號  
ニ據リ修正ス

- 第五條 各課ニ課長一人課僚若干人ヲ置ク課長ハ神部課僚ハ神部補及雇ヲ以テ之ニ充ツ
- 第六條 課長ハ署長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理ス
- 第七條 課長事故アルトキハ他ノ課長ヲシテ其事務ヲ代理セシム
- 第八條 課僚ハ署長及課長ノ指揮ヲ承ケ各其分掌ノ事務ニ従事ス
  - 第二章 分課章程
- 第九條 第一課長第二課長ハ特ニ左ノ事項ヲ調査ス
  - 一 令達及諸規則ニ關スル事項
  - 二 經費豫算及決算ニ關スル事項
  - 三 參務員諮詢ニ關スル事項
  - 四 前各項ノ外重要事務及臨時事件ニ關スル事項
- 第十條 秘書係ハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 機密文書ニ關スル事項
  - 二 職員ノ進退及賞與ニ關スル事項
  - 三 署長ノ官印及署印ノ管守ニ關スル事項
- 第十一條 第一課ハ左ノ事務ヲ掌ル

第一課

庶務係

- 一 令達告示報告及諸規則ノ立案ニ關スル事項
- 二 公文ノ淨書及編纂管守ニ關スル事項
- 三 文書ノ接受及發送ニ關スル事項
- 四 統計ニ關スル事項
- 五 本署ノ當直及取締ニ關スル事項
- 六 官報新聞雜誌ニ關スル事項
- 七 諸記録ノ保存ニ關スル事項
- 八 秘書係及各課ノ主管ニ屬セサル事項
  - 大麻係
    - 一 大麻及直會奉製ニ關スル事項
    - 二 大麻及直會用印章版本ノ取扱及管守ニ關スル事項
    - 三 日給雇人及職工ノ進退身分ニ關スル事項
    - 四 大麻及直會ノ見本類保存ニ關スル事項
  - 製曆係

- 一 曆本製造ニ關スル事項
- 二 曆本用印章版木ノ取扱及管守ニ關スル事項
- 三 日給雇人及職工ノ進退身分ニ關スル事項
- 四 原本曆見本曆及參考曆ノ保存ニ關スル事項  
會計係
- 一 經費豫算及決算ニ關スル事項
- 二 金錢取扱及調査ニ關スル事項
- 三 會計諸帳簿取扱及管守ニ關スル事項
- 四 諸受負人身元保証金ニ關スル事項  
用度係
- 一 物品ノ出納及備品ノ保管ニ關スル事項
- 二 物品諸帳簿取扱及管守ニ關スル事項
- 三 不用物品ノ處分ニ關スル事項
- 四 郵便電信及運搬ニ關スル事項
- 五 給仕小使並ニ諸雇人進退身分及賞與ニ關スル事項
- 六 營造物ノ建築及修繕ニ關スル事項

- 七 建物並ニ附屬物件ノ保管及處分ニ關スル事項
  - 八 敷地及建物掃除ニ關スル事項
- 第十二條 第二課ハ左ノ事項ヲ掌ル

祈禱係

- 一 祈禱及奉賽ニ關スル事項
- 二 神樂御饌大麻曆直會料及獻備金品受渡ニ關スル事項
- 三 獻備品取扱ニ關スル事項
- 四 神樂殿ノ裝飾及取締ニ關スル事項
- 五 神樂殿ノ當直ニ關スル事項  
授與係
- 一 大麻直會及曆本受授ニ關スル事項
- 二 神樂御饌大麻直會料其他獻備金品受付ニ關スル事項
- 三 賽物取纏ニ關スル事項
- 四 撤下御物拜觀ニ關スル事項  
雅樂係
- 一 神樂並雅樂ノ奏行及講習ニ關スル事項

- 二 神饌供進ニ關スル事項
- 三 舞女及修樂生ニ關スル事項

第三章 處務順序

第十三條 凡本署ニ到達スル文書ハ庶務係ニ於テ之ヲ接受シ其要領及番號ヲ簿冊ニ記入シテ署長ノ閱覽ニ供スヘシ但定例ノ文書ハ直ニ主務ノ課長ヘ配付シ親展ノ文書ハ發着官氏名ヲ簿冊ニ記シ封緘ノ儘記名者ヘ配付スヘシ

第十四條 受領ノ文書ハ課長ニ於テ直ニ査閲シ主任者ニ交付シテ處理セシムヘシ其重要又ハ異例ト視認スル事件ハ署長ノ指揮ヲ受ケ課長自ラ處理シ又ハ特ニ主任ヲ命ジテ處理セシメ内務大臣又ハ大宮司ノ許可ヲ要スルモノハ別ニ上申ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 各課ニ於テ發議セントスル事件アルトキハ案ヲ具シ關係ノ課ニ合議シ署長ノ決裁ヲ請フヘシ

第十六條 議按ノ參考ヲ要スルモノハ其原文若クハ要領ヲ摘録シ或ハ別紙ニ記載シ添付スヘシ但參考ノ文書ハ其始メニ參考ト朱書スヘシ

第十七條 至急ヲ要スル回議按ハ欄外ニ至急ト朱記シ主任自ラ攜帶シテ決裁ヲ請フヘシ  
前項ノ文書ハ便宜赤紙ヲ貼付シ決裁ヲ請フモ妨ケナシ

第十八條 回議ハ回議用紙ヲ用ユヘシ但事ノ簡易ナルモノハ直ニ其文書ノ上欄ニ朱書立案スルコトヲ得

第十九條 文書中處分ヲ要セス閱覽ニ止マルモノハ直ニ該文書ノ餘白ニ署長名課名係名ヲ記シ回覽ニ供スヘシ

第二十條 回議ノ文案ハ努メテ冗贅ヲ避ケ意義明確ナルヲ要ス若シ字句ヲ添削シタルトキハ之ニ捺印スヘシ

前項ノ文按中金穀ノ員數ヲ記スル數字ハ壹貳參拾ノ字ヲ用フヘシ  
第二十一條 他課ノ合議ヲ受ケタル事件ニシテ其ノ處分案ニ對シ意見アルトキハ面議商量シ若シ其議諾ハサルトキハ署長ニ面陳シ決裁ヲ請フヘシ

第四章 文書發送

第二十二條 凡決裁ヲ經タル回議書ニシテ他ニ發送スヘキ文書ハ庶務係ニ送附スヘシ但課名若シハ係名ヲ以テスルモノハ其關係ニ於テ直ニ淨書發送ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 庶務係ニ於テ前條文書ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ淨書校合シ本書及原按ニ番號年月日ヲ記入シ發送ノ手續ヲ爲シ主務係ニ再回シ主務係ハ完結ヲ認メテ更ニ庶務係ニ送附スヘシ

第二十四條 急施ヲ要スル爲メ退署後又ハ休日等宿直又ハ主任ニ於テ發送ノ手續ヲ爲

シタルモノハ其翌朝主務係ニ通知スヘシ

第二十五條 文書ハ曆年ヲ以テ分界トシ其會計ニ屬スルモノハ會計年度ヲ以テ分界トシ其年度類別書目及課係名ヲ表記スヘシ

前項ノ文書ハ其類別ニ依リ卷首ニ目錄ヲ附シ完了ヲ俟テ編綴裝釘スルモノトス

第五章 機密文書取扱例

第二十六條 機密ニ屬スル文書ヲ署長ヨリ下付セラレタルトキハ秘書係ニ於テ文書収受件名簿ニ登記シ其指揮ヲ承ケ措置スヘシ

第二十七條 前條文書ノ處理ヲ命セラレタルモノハ取扱上特ニ注意シ漏洩スヘカラス

第二十八條 機密ニ屬スル文書ハ其欄外ニ秘ノ字ヲ朱記シ特ニ其取扱ニ注意シ主任者自ラ持參スルカ又ハ他見ニ觸レサル方法ニ依リ關係課係ノ議ヲ取り之ヲ署長ニ差出スヘシ

第二十九條 署長ヨリ決裁濟ノ機密文書ヲ下付セラレタルトキハ秘書係ニ於テ之ヲ取扱ヒ編纂保存スヘシ

第三十條 各課ニ於テ機密ニ屬スル内申ヲ要スル文書ハ嚴緘ノ上之ヲ署長ヘ提出スヘシ

前項ノ文書ニ對シ署長ヨリ取扱ヒノ命ヲ承ケタルトキハ内密之ヲ措置シ事若シ他ニ

發送スヘキモノニシテ秘書ノ發送番號ヲ要スルトキハ秘書係ニ就キ記入ヲ求ムヘシ

第六章 服務心得

第三十一條 新任又ハ他ヨリ轉任ノ者ハ即日宿所届印鑑届ヲ出シ猶五日以内ニ履歷書

父母正當忌日届ヲ差出スヘシ

第三十二條 職員登署ノ節ハ先ツ出勤簿ニ捺印シテ後事務ニ服スヘシ

第三十三條 疾病又ハ事故アリテ登署シ難キトキハ出勤時間後一時間内ニ其事由ヲ届

出ヘシ此ノ場合ニ於テ自己ノ擔當事件中至急ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ同係ノ者

ニ附託スヘシ病氣引籠五日以上ニ至レハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ヘシ爾後十五日毎

ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 執務時間中疾病其他ノ事故ニ依リ退出セントスルトキハ其事由ヲ課長ヘ

届出ヘシ

第三十五條 忌服ヲ受ケタルトキハ定規ノ日數ヲ記シテ速ニ届出ヘシ父母正當忌日ニ

當リ遠慮ノ欠勤ハ前日ニ届出ヘシ

第三十六條 第三十三條及第三十五條ノ届書ハ課長ヲ經テ差出スヘシ

第三十七條 休日出勤又ハ夜業ヲ爲シタル時ハ休日夜業出勤簿ニ其月日執務ノ時間及

用務氏名ヲ記シ當直ノ檢印ヲ受ケ翌日課長ヲ經テ署長ノ檢閱ニ供スヘシ但第二課員

ノ休日出勤ハ此限ニアラス。

第三十八條 出張巡回ヲ命セラレタル時ハ出發歸署トモ口頭ヲ以テ署長ヘ届出歸署後三日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ

第三十九條 出張巡回中左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ直ニ所屬課長ヲ經テ署長ニ具申スヘシ

- 一 御用ノ都合ニ依リ豫定日數ヲ超過セントスルトキ
- 二 疾病又ハ事故アリテ滞在スルトキ
- 三 忌服ヲ受ケ又ハ遠慮缺勤スヘキトキ

第四十條 各課員ハ事務ノ繁閑ニ依リ課中相互ニ之ヲ補助スヘシ

第四十一條 職員轉免セラレタルトキハ課長ノ指揮ヲ受ケ速ニ其擔任事務及其管守ニ係ル文書物品等引繼ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 署中ノ文書類ハ公務ノ外課長ノ許可ヲ得スシテ他人ニ示シ又ハ寫帖ヲ與フルコトヲ得ス但重要ノ文書ハ署長ノ許可ヲ受ルコトヲ要ス

第四十三條 文書及物件ノ授受ハ簿冊ニ記入シ受領者ノ檢印ヲ徴シ且其月日ヲ明カニシ何時タリトモ直チニ其所在ヲ知り得ルコトヲ要ス

第四十四條 日々退出ノ際ハ取扱ノ書類物品ヲ取纏メ散亂セサル様嚴重ニ取締ヲ爲シ

置クヘシ

第四十五條 會計係ハ每一ヶ月其取扱ニ係ル收支額及豫算殘高ノ月表ヲ調製シ翌月七日限リ署長ノ閱覽ヲ請クヘシ

第四十六條 各課長ハ毎年一月二日前年ノ成績表ヲ作り署長ヘ差出スヘシ

○神部署宿直規程 明治三十四年三月三十日 達第一〇號

神部署宿直規程左ノ通相定ム

但第二課神樂殿宿直規程ハ別ニ定ムル處ニ據ル

神部署宿直規程

第一條 宿直ハ二名トシ第一課員ヲ以テ之ニ充ツ

但一名ハ雇員ヲ以テ補充スルコトヲ得

第二條 宿直日割ハ主務係ニ於テ毎月末翌月中番表ヲ製シ課長ノ檢閱ヲ得テ課員ノ認印ヲ徴シ服務セシム

第三條 宿直勤務時間ハ左ノ如シ

平日退局時限ヨリ翌日出勤時限迄

休日出勤時限ヨリ翌日出勤時限迄



第四條 當直員公務又ハ病氣忌引其他ノ事故ニヨリ勤務セシメ難キトキハ臨時番ヲ以テ補充セシム

第五條 當直日ヲ交換スルトキハ主務係ノ承認ヲ受クヘシ

第六條 休日當直ノ者ハ翌日休暇スルコトヲ得

但事務繁劇ノ際ハ此限リニアラス

第七條 當直員ハ服務ノ際主務係ヨリ左ノ物件ヲ受取リ宿直室ニ於テ之ヲ保管シ勤務

ヲ終ル時ハ其取扱ヒタル事故ヲ具シ物件ト共ニ主務係ニ引續クヘシ

但翌日休日ニ當ルトキハ宿直交換員ニ引續クヘシ

一 宿直日誌 發送簿 證印簿

一 郵便受拂簿及切手 諸印及諸鍵鑰

第八條 宿直日誌ニハ當直員署名捺印シ到着文書物件其他取扱ヒタル事故ノ要領ヲ記入スヘシ

發送簿ニハ發送文書物件ノ種類宛名及郵便切手仕拂額等ヲ詳記シ捺印ヲナスヘシ

證印簿ニハ文書ノ種類要件又ハ物件ヲ記入シ受領者ヨリ領収ノ印ヲ徴スヘシ

第九條 到着文書物件ハ左ノ區別ニ從ヒ取扱フヘシ  
電報及至急ト記セル文書物件ハ披閱後直ニ課長又ハ主務係ニ送付シ其至急ヲ要セサ

ルモノハ翌日之ヲ主務係ニ配付スヘシ

第十條 急施ヲ要スル事件アルトキハ係員ノ出勤ヲ求メ又ハ臨機ノ處分ヲナスヘシ

第十一條 署内ヲ時々巡視シ火ノ元戸締及文書等散逸セサル様注意スヘシ

第十二條 非常ノ節ハ門戸ノ開閉点燈ノ配置其他適宜ノ處置ヲナスヘシ

第十三條 非常危険ノ場合ニ於テハ署長並ニ第二課及司廳ニ急報シ文書其他重要物件ノ運搬保護等臨機ノ處置ヲナスヘシ

○文書提出ニ關スル件 明治三十三年十一月二十九日  
神宮司廳訓第一八號

神部署長

其署ヨリ差出スヘキ願届書等ハ規定ニ明文アルモノ、外總テ大宮司宛ヲ以テ差出スヘク其内務省又ハ各省ヘ差出スヘキ書類ハ當廳ヲ經由スヘシ

○參務員召集ノ件 明治三十四年四月八日  
神宮司廳訓第一八號

神部署長

參務員ヲ召集セントスル時ハ豫メ諮詢案ヲ具シ伺出ヘシ

○神部署職員旅行等ニ關スル件 明治三十三年十月九日  
神部署職員旅行等ニ關スル件左ノ通訓令セラレ  
訓第九三一號 〇明治三十三年十  
月一日内務省訓令

神宮 宮 司

神部署職員ノ旅行等ニ付テハ左ノ條項ニ準據取扱スヘシ

第一條 神部署職員ノ旅行ハ第二條以下ニ規定アルモノ、外其事故日數地名等ヲ明記  
シ署長ヨリ署長及神部ニ付テハ宮司ヲ經由シ内務大臣ニ神部補ニ付テハ宮司ニ稟請  
スヘシ

第二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ署長ハ宮司ノ許可ヲ得神部及神部補ハ署長ノ許可ヲ  
得テ旅行スルコトヲ得

- 一 參泊以内ノ旅行
- 二 親戚(祖父母父母 妻)病氣危篤ニテ難擱事情アルトキ
- 三 賜暇中旅行
- 四 忌引中歸省

第三條 別宮及攝末社出張ハ署長限リ之ヲ處分スヘシ

第四條 左ニ掲クル事故アル爲メ參務員召集ニ應スルコト能ハサルトキハ其旨署長ニ

届出又召集ニ應シタル後諮詢期間内ニ召集地ヲ去ルコトヲ要スルトキハ署長ノ許可  
ヲ受クヘシ

- 一 疾病 但醫師ノ診断書ヲ添ユヘシ
- 二 親戚(祖父母父母 妻)病氣危篤ニテ難擱事情アルトキ
- 三 忌引中歸省

第五條 參務員諮詢期間外私事ノ爲メ住居地以外ニ旅行スルトキハ其事故日數地名等  
ヲ明記シ署長ニ届出ヘシ

前項ノ旅行終リタルトキハ直チニ署長ニ届出ヘシ

第六條 雇員ノ旅行ハ署長ニ於テ之ヲ許否スヘシ

第七條 職務ノ爲メ旅行スルモノ、外總テ私費ヲ以テ支辨スルモノトス

第八條 本令ハ明治三十三年十月十五日ヨリ施行ス

○神部署職員旅費支給ニ關スル件 明治三十三年十月九日  
神部署職員旅費ノ件左ノ通訓令セラレ  
訓第九三二號 〇明治三十三年十  
月一日内務省訓令

神宮 宮 司

- 神部署職員ノ旅費ハ左記條項ニ準據支給スヘシ
- 第一條 神部署職員ノ旅費ハ本令ニ規定アルモノ、外神宮司廳職員旅費規程ノ例ニ依リ之ヲ支給ス
- 第二條 署長神部及參務員ニハ神宮司廳職員旅費規程別表中三等神部補ニハ同四等雇員ニハ同五等ノ旅費額ヲ支給ス
- 第三條 參務員召集ニ應シ往復スル場合ハ其何地ニ在ルヲ問ハス住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シ旅費ヲ支給ス但召集地ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居ヲ有スル者ハ旅費ヲ支給セス
- 第四條 參務員召集ニ應シ往復スル途中又ハ諮詢期間中ニ於テ廢職死亡又ハ諭旨退職シタルトキハ前職相當ヲ以テ住居地迄ノ直路ノ里程ヲ計算シ旅費ヲ支給ス
- 第五條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則第十三條ニ準據スヘシ
- 第六條 官職又ハ公職ニ在ルモノニシテ參務員タル者所屬官廳又ハ公署ヨリ旅費ヲ受取り又ハ受取ルヘキ場合ハ別ニ旅費ヲ支給セス
- 第七條 本令ハ明治三十三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○官吏服務紀律

明治二十七年七月二十九日 勅令第三十九號

○神宮司廳第四類ニ載ス

○職員以下墓參及葬儀ニ關スル件

明治三十四年二月一日 達第六號

本署職員以下給仕小使ニ至ル迄自今墓參及葬儀等ニ關シタルトキハ左項日數本署ノ勤仕ヲ遠慮スヘシ

- 一 墓參會葬及葬家ニ立入シ者 當日
- 一 埋葬ニ立會ヒシ者 貳ケ日
- 一 死體ニ觸レシ者 五ケ日

○神職懲戒令

明治三十五年二月八日 勅令第二十九號

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ神職懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

神職懲戒令

神職ニシテ高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規

定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

○文官懲戒令ハ神宮司廳第四類ニ載ス

附則

本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス  
神官神職懲戒令ハ之ヲ廢止ス

第三類

會計

○神部署會計細則

明治三十四年一月二十八日  
神宮司廳訓第一號

神部署長

神部署會計細則別冊ノ通相定メ本年二月一日ヨリ施行ス

神部署會計細則

第一條 神部署長ハ明治三十三年十月二日內務省訓第九三八號神宮會計規則ニ依ルノ外本規則ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條 神部署長ハ毎年度決定ノ豫算額(追加豫算アルトキハ追加豫算額トモ)ヲ超過シテ金錢ノ支出ヲ要スヘキ事項ヲ施行スルコトヲ得ス

第三條 神部署ニ於テ金錢ノ支出ヲ要スヘキ事項ヲ行ヒタルトキハ其債主ヨリ神宮會計主任ニ宛テタル仕拂要求書並ニ内譯書(概算渡ヲ受ケサル旅費ニ付テハ精算書宿直賄料ニ付テハ宿直日次表)ヲ差出サシメ審査ノ上不都合ナシト認ムルトキハ神部署備付ノ帳簿ト契印ヲ爲シ神宮會計主任ニ廻付スヘシ

第四條 神部署各職員ノ任免俸給額並ニ其俸給額ノ異動ハ其都度直チニ神宮會計主任

へ報告スヘシ

雇員舞女給仕小使等ヲ命免シ又ハ其雇給及備給ヲ増額シ若クハ手當賞與ヲ給與シタルトキハ各員ニ付其雇給又ハ備給手當賞與ノ金額ヲ記シ直チニ神宮會計主任へ報告スヘシ

第五條 俸給雇給又ハ備給手當賞與ノ仕拂ニ付テハ第三條ノ手續ヲ要セス債主ヨリ直チニ神宮會計主任ニ領收書ヲ差出サシムヘシ

第六條 郵便電信料等ノ類ニシテ請求書ヲ徴スル能ハサルモノハ主任者ヨリ署長ノ審査ヲ經タル領收書及内譯書ヲ神宮會計主任ニ差出サシムヘシ

第七條 概算渡及前金渡ヲ要スルトキハ署長ノ認印ヲ受ケタル請求書並其内譯書ヲ神宮會計主任ニ差出サシムヘシ

第八條 概算渡及前金渡ヲ受ケタル主任者ハ其事故結了後十日以内ニ署長ノ審査ヲ經タル精算書ヲ神宮會計主任ニ差出スヘシ

第九條 本則ニ依リ主任者ヨリ領收書又ハ精算書ヲ差出ス場合ハ署長ノ認印ヲ經タル正當受取人ノ領收書又ハ其領收書ヲ徴シ難キ事情アルトキハ主任者ノ仕拂証明書ヲ添付セシムヘシ但一定ノ規則ニ依リ定マリタル金額ニ付テハ此限リニアラス

第十條 一事項ニ對スル仕拂ニシテ數回ニ分チタルモノハ其請求書及領收書ニ總金額

ヲ記載セシメ該金額ノ内第何回分ト記載セシムルコトヲ要ス

第十一條 毎年度取扱ニ係ルヘキ收入金及經費豫算ハ豫メ神宮會計主任ト協議ノ上大宮司ノ内閣ヲ經テ別ニ定メタル様式ニ依リ前年度十一月末日迄ニ神宮會計主任へ差出スヘシ

追加豫算ヲ要スルトキハ其都度前項ノ手續ヲ準用スヘシ

第十二條 豫算中各科目ノ流用ヲ要スルトキハ其増減ノ理由ヲ詳記シ神宮會計主任へ通知スヘシ

第十三條 神部署ニ於テ取扱フ收入金(賽物ヲ除ク)ハ司廳爲換方ノ保管証書ニ其收入金ノ内譯ヲ詳記セル署長ノ送致書ヲ添ヘ翌日(休館ノ時ハ順延)午前十時迄ニ神宮會計主任ニ廻送スヘシ

賽物ハ毎日神部署ニ於テ取纏メ會計規則第三十六條ノ二項ニ依リ順次各貨幣類別金員調査ノ上前項ノ手續ヲナスヘシ

第十四條 收入金ニシテ告知書ヲ發スヘキモノハ其收入ノ原由及納入期限ヲ詳記シ神宮會計主任へ通知スヘシ

第十五條 瀧原宮伊雜宮ニ於ケル收入金中神部署ノ收入ニ歸スヘキモノニシテ即日神部署ニ收納シ難キ事情アルモノハ該別宮駐在員ニ於テ鎖鑰アル金庫ニ假納シ置キ駐

在交代ノ場合ニ於テ神部署長ニ收納スヘシ

前項ニ依リ金庫ニ金錢ヲ出入スル場合ハ當該別宮駐在神宮權禰宜ノ立會ヲ要ス其金庫ヲ開函スル場合ハ交代員ニ於テモ之ニ立會ヘシ

第十六條 金庫ノ鑰ハ神部署長之ヲ監守スヘシ但瀧原宮伊雜宮備付ノ金庫ノ鑰ハ當分ノ内該宮駐在員ニ於テ保管スルコトヲ得

第十七條 神宮會計規則中内務大臣ニ稟請ヲ要スル事項ハ其金額事由内譯等ヲ詳記シ該稟請方ヲ大宮司ニ出願スヘシ

第十八條 大宮司ハ監督上必要アリト認ムルトキハ司應會計課員ヲシテ實況ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第十九條 金錢ノ保管及ヒ取扱ニ關スル諸帳簿ハ總テ明瞭ニ記載シ置クヘシ

第二十條 大宮司ハ神部署長又ハ瀧原宮伊雜宮駐在員ノ所爲又ハ怠慢ニ依リ損失ヲ生シタリト認ムルトキハ内務大臣へ經伺シ其損失金ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

神部署長又ハ瀧原宮伊雜宮駐在員ニ於テ水火盜難等避ケ得ヘカラサル事故ニ依リ金錢ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ其實質証明書ヲ署長ヨリ大宮司ニ提出シ責任ノ解除ヲ稟請スヘシ

第二十一條 神部署長及瀧原宮伊雜宮駐在員ハ其職務ニ屬スル金錢ノ取扱ニ付自身ニ

事務ヲ取扱ハサルヲ理由トシ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス但疾病等不得已事故ニ付署長ニ在テハ大宮司ノ許可ヲ得其他ニ在テハ署長ノ許可ヲ得特ニ代理者ヲ置キタルトキハ此限リニアラス

前項代理者ノ責任ニ付テハ前第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 神部署長ハ毎年度神部署ニ係ル金錢ノ取扱ニ付大宮司ノ検査ニ依リ責任ヲ解除セラル、迄其責任ヲ免ル、コトヲ得ス

○神宮會計規則補則 明治三十四年一月七日  
神宮司廳達第一號

神部署長

神宮會計規則補則別冊ノ通訓令セララル

神宮會計規則補則 明治三十三年十二月二十七日  
内務省訓第一二〇五號 ○神宮司廳第六類ニ載ス

○神宮物品出納規程 明治三十五年一月十六日  
神宮司廳訓第一號

神部署長

神宮物品出納規程左ノ通定ム

神宮物品出納規程 ○神宮司廳第六類ニ載ス

明治三十三年三月三十一日  
訓令第九四一號  
正  
ス  
據  
リ  
修

### 第四類

### 大麻 曆

○大麻及曆ノ製造及頒布ニ關スル規則

明治三十二年九月四日  
内務省訓令第八二三號

神宮司廳

大麻及曆ノ製造及頒布ハ左記各條ノ規程ニ準據シ之ヲ行フヘシ  
但明治十六年十月二十七日坤社第九百十五號達ハ之ヲ廢止ス

大  
麻  
及  
曆  
ノ  
製  
造  
及  
頒  
布  
ニ  
關  
ス  
ル  
規  
則

第一條 大麻及曆ノ製造ハ其ノ應ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二條 大麻及曆ノ頒布ハ其製造費初穂料及編曆手數料ヲ徵收シ神宮奉齋會ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但其應ニ於テ參拜者ニ對シ直接ノ授與ヲ行フコトヲ妨ケス

第三條 其應ハ神宮奉齋會ト左記事項ニ付契約ヲ締結シ本大臣ノ認可ヲ請フヘシ

- 一 明治十六年十月二十七日坤社第九百十五號達ニ基キ締結セル司廳敎院締約條目ヲ以テ約定セル事項
- 二 明治二十三年三月十五日訓第一七五號ニ依リ編曆手數料ニ關シ其應ト神宮敎院間ニ締結セル條約書ヲ以テ約定セル事項

- 三 第一號ニ記載セル司廳教院締約條目第十一條ノ負債ハ神宮奉齋會之ヲ負擔シ同條ノ規程ニ從ヒ之ヲ辨濟スルコト
  - 四 其他其應ニ於テ必要ナリト認ムル事項
  - 五 前各號ノ事項ニ付締結セル契約ニ基ケル其應ノ處分ニ依テ生スル損害ニ對シ神宮奉齋會ハ賠償ヲ求メサルコト
- 本大臣ニ於テ必要ト認メタルトキハ前項ノ認可ヲ取消シ又ハ其契約ノ訂正ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條 從來神宮教院及其各本部間ニ存在セル麻曆頒布規約ニ定メタル事項其他大麻及曆ノ頒布方法並其取締等ニ關シ必要ナル事項ニ付神宮奉齋會ヲシテ一定ノ制規ヲ定メ其應ノ承認ヲ請ハシメ其應ハ本大臣ヘ經伺ノ上之カ承認ヲ附與スヘシ
- 前項ノ制規ハ其應ニ於テ必要ト認メタルトキ何時ニテモ其訂正ヲ命スルコトヲ得ヘキコトヲ豫メ神宮奉齋會ニ約スヘシ
- 第五條 神宮奉齋會ニ於テ第三條ノ契約ニ違反シ第四條ノ制規ヲ實行セス其他大麻及曆ノ頒布ニ關シ不都合ノ行爲アルトキハ其應ハ神宮奉齋會ニ對シ直ニ其改良ヲ命シ若クハ其違反者又ハ行爲者ニ對スル適宜ノ處置ヲナサシムヘキ事ヲ豫メ神宮奉齋會ト契約スヘシ

- 第六條 前條ノ場合ニ於テ一旦改良ヲ命シ又ハ其違反者若ハ行爲者ニ對シ適宜ノ處置ヲナサシメタルト否トニ拘ハラズ事重大ナルトキハ本大臣ニ經伺ノ上神宮奉齋會ニ對シ適宜ノ處置ヲ行フヘキ事ヲ豫メ神宮奉齋會ト契約スヘシ
  - 第七條 直接授與ノ大麻ハ頒布大麻ト其種類若ハ體裁ヲ異ニスヘシ
- 前項ノ直接授與ハ總代其他何等ノ名義ヲ用キルモノト雖頒布ノ虞アルモノニ對シテハ之ヲ行ハサルコトニ注意スヘシ
- 第八條 左ニ掲クル事項ハ年々其應ヨリ本大臣ニ報告スヘシ
- 一 其應ニ於テ製造スル大麻及曆ノ種類員數及之ニ該當スル製造費但其應ニ於テ直接授與スヘキ分神宮奉齋會ヘ下付スヘキ分等ヲ區別スルコトヲ要ス
  - 二 其應ニ於テ直接授與セル大麻及曆ノ種類員數及之ニ該當スル初穂
- 第九條 毀損曆ハ毀損ノ章ヲ捺シテ明カニ之ヲ區別スヘシ
  - 第十條 納曆ハ其應ヨリ之ヲ納メ其費用ハ社費ヲ以テ支辨スヘシ
  - 第十一條 神部署設置以後ニ於テハ本令ニ依ル其應ノ職務權限中第三條第三號ニ基キ締結セル契約ニ依リ神宮奉齋會ヨリ辨濟スル負債償却金ノ受納ハ神宮會計主任ニ其他ハ凡テ神部署ニ屬スルモノトス



神宮大麻受不受ハ人臣ノ自由トスル件 皇族ヘ大麻及曆獻進ノ件

三六四

○神宮大麻受不受ハ人民ノ自由トスル件 明治十一年三月二十三日 内務省乙第三十號達

府 縣

神宮大麻頒布之儀ニ付明治五年六月元教部省ヨリ相達置候趣モ候處右ハ自今地方官ノ關係ニ不及候條其受不ハ專ラ人民ノ自由ニ爲任候儀ト可心得此旨相達候事

○皇族ヘ大麻及曆獻進ノ件 明治三十四年八月二十一日 神宮司廳訓第二〇號

神 部 署 長

皇族ヘ大麻及曆獻進ノ儀ハ自今神部署長ヨリ之ヲ獻進スヘシ

### 第五類

#### 神樂殿

○神樂殿宿直規程 明治三十四年一月十四日 達第一號

神樂殿宿直規程左ノ通相定ム

神樂殿宿直規程

第一條 宿直ハ八名トシ第二課員ヲ以テ之ニ充ツ

本宮神樂殿

神部補 壹名

雇 四名

但一名ハ雅樂係ヲ以テ之ニ充ツ

豊受宮神樂殿

神部補 壹名

雇 貳名

但本宮神樂殿ハ十二月一日ヨリ翌年五月三十一日迄雇壹名ヲ増加ス

第二條 宿直日割ハ常務係ニ於テ番表ヲ調製シ課長ノ檢閲ヲ經テ豫メ各員ニ捺印セシム

神樂殿宿直規程

三六五

第三條 宿直勤務時間ハ退出時間ヨリ翌日出仕時限トス

第四條 宿直員公務若クハ忌引其他ノ事故ニ依リ勤務シ難キ時ハ臨時番ヲ以テ補充セシム

第五條 當直日ヲ交換スルトキ或ハ代務スル者ハ主務者ノ承認ヲ受ケ置クヘシ

第六條 休日當直者ハ事務ノ繁閑ニ依リ課長若クハ上席員ノ許諾ヲ受ケ翌日午後ヨリ退出スルコトヲ得

第七條 當直員ハ各自責任ヲ有スル所ノ文書物件等ヲ保管シ勤務ヲ終ル時ハ其取扱タル事故ヲ具シ共ニ當日出勤ノ主務者ニ引繼クヘシ

第八條 當直日誌ヲ備置キ月日職氏名ヲ記シ捺印シ竝ニ當日事故ノ要領ヲ記入スヘシ

第九條 急施ヲ要スルモノハ主務者ノ出勤ヲ求メ又ハ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第十條 閉殿後御神樂奏行及御饌供進ヲ願出タルトキハ翌日出頭スヘキ旨ヲ諭ジ猶事情止ヲ得サルモノニ限り便宜ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

但翌日御神樂奏行願出ハ夜中ト雖モ受付置クヘシ  
第十一條 神樂殿賽物、献備品ハ閉殿前ニ正宮以下ノ賽物ハ同時ニ集繼シ主務者ニ引渡スヘシ  
第十二條 朝夕殿扉ノ開閉幕ノ懸撤ヲ爲シ必殿内ヲ掃除スヘシ

第十三條 電報或ハ書面ヲ以テ御神樂奏行御饌供進若クハ大麻曆ノ拜受願出又ハ問合等アル時ハ至急ヲ要スルモノ、外係員ノ出勤ヲ待チ引繼クヘシ  
第十四條 殿内各所ヲ時々巡視シ火ノ元戸締等ニ注意スヘシ  
第十五條 非常ノ場合ニハ臨機ノ處分ヲ爲シ尙大事ト認メタルトキハ本署及署長竝ニ參集所等ニ急報スヘシ

○神樂殿建物所管ニ關スル件 明治三十四年二月十五日  
神宮司廳達第一六號

神 部 署 長

一 皇大神宮神樂殿建物

一 豐受大神宮神樂殿建物

右自今神部署ノ所管トス

但建物外部ノ變更修繕ヲ要スルトキハ其都度稟議スヘシ

○神宮神樂殿雅樂講習所規程 明治三十四年十二月二十八日  
達第二八號

神宮神樂殿雅樂講習所規程左ノ通相定ム

神宮神樂殿雅樂講習所規程

- 第一條 神宮神樂殿ニ雅樂講習所ヲ置キ神樂、雅樂及倭舞、舞樂等ヲ講習スル所トス
- 第二條 雅樂講習所ニ長壹名教師五名取締壹名書記貳名舞女取締壹名ヲ置ク其分掌左ノ如シ
- 所長ハ雅樂講習所一切ノ事務ヲ總管シ教師ノ進退ハ神部署長ニ具狀シ取締以下ハ專行ス
- 教師ハ雅樂員修樂生舞女ノ教授養成ヲ掌ル
- 取締ハ所長及教師ノ指揮ヲ承ケ雅樂員及修樂生ノ行狀ヲ正シクセシメ所内ヲ清潔ニシ講習ノ餘暇祭式其他學術ヲ修習セシムルモノトス
- 書記ハ所長及教師ノ指揮ヲ承ケ講習ニ關スル文書ノ淨書記録及統計表調製ノ事ヲ掌ル
- 舞女取締ハ舞女及舞女見習ノ動作容儀ヲ正シクセシメ講習ノ餘暇禮式及學藝ヲ修習セシムルモノトス
- 第三條 教師ニハ壹ケ年金拾圓以上金貳拾五圓以下ノ教授料ヲ給ス
- 第四條 雅樂講習所ニ修樂生五名舞女見習六名ヲ置ク但修樂生ニハ金貳圓以上金四圓以下舞女見習ニハ金貳圓以上金貳圓五拾錢以下ノ月手當ヲ給ス
- 第五條 講習ノ科程及等級ハ左ノ如シ

一級	朗詠	東遊	舞	倭舞
二級	神樂	雅樂	舞	倭舞
三級	神樂	雅樂	舞	倭舞
四級	神樂殿神樂	雅樂	舞	倭舞
修樂生	神樂殿神樂	雅樂		

- 第六條 講習期間ハ講習所長之ヲ定ムルモノトス
- 但講習期間ニアラスト雖モ奉務ノ餘暇アルトキハ各其技藝ヲ修習セシムヘシ尤モ講習ノ爲メ奉務ヲ缺クコトヲ得ス
- 第七條 所長ハ講習ノ外祭典ノ儀式其他應分ノ學術ヲ臨時試驗スルコトアルヘシ
- 第八條 雅樂員及修樂生舞女舞女見習ノ得業ヲ檢定スル爲メ毎年一回若クハ臨時ニ其

技藝ヲ試験スルモノトス

第九條 雅樂員ノ試験ハ神宮神樂殿雅樂員試験規則ニヨリ其他ハ署長以下本所職員參名以上立會ノ上執行スルモノトス

第十條 試験ノ成績ハ講習所員行狀檢点法ニ照シテ其得点ヲ定ムルモノトス

第十一條 雅樂員ニシテ技術優秀ナル者ハ東京へ派遣シ特ニ講習ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 講習所ニハ講習録ヲ備置キ講習ノ人名及科目等ヲ記録シ每年末成績表ヲ調製シ署長へ報告スヘキモノトス

○神宮神樂殿雅樂員試験規則 明治三十四年七月十七日 達第一八號

神宮神樂殿雅樂員試験規則別冊之通相定ム

但試験ニ關スル從前ノ規則ハ本日限廢止ス

神宮神樂殿雅樂員試験規則

第一條 神部署第二課雅樂係員ニシテ神宮神樂殿ニ奉務スル雅樂員ノ試験ハ本規則ニ依リ毎年一回之ヲ施行ス

第二條 試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

明治三十四年八月一日  
達第二〇號  
ニ據リ修正ス

但科目中ノ程度ハ神樂殿雅樂講習所講習規則ニ定ムル所ノ等級ニ依ル

一 神樂

二 雅樂

三 打物

四 付物

五 舞樂

第三條 試験ハ科目程度ノ初級ヨリ順次之ヲ行フ

第四條 試験ハ豫備試験ト本試験ト二種ニ分ツ

第五條 豫備試験ハ本試験施行ノ前ニ於テ第二課長及講習所長立會講習所ニ於テ教師之ヲ行フ

第六條 本試験ハ神部署長第二課長及雅樂講習所職員立會式部職雅樂部員之ヲ行フ

第七條 本試験ノ日時及場所ハ神部署長之ヲ定ム

第八條 試験各科目ノ点數ハ一百點ヲ以テ滿點トシ各科目ノ得點數ヲ通計シタル所ノ和ヲ科目ノ數ヲ以テ除シ之ヲ平均點トス其得點數六十點以上ヲ以テ及第トス

但打物舞樂ノ外一科目ノ點數五十點ニ達セサルモノアルトキハ及第トスルコトヲ得ス